

1.0

— 二次医療圏でみる地域医療の構造 —

医療需給総覧 version 1.0

地域分析

大阪府 | 堺市医療圏

(医療圏コード : 2706)

目次

1. 地域の概況

- 二次医療圏の概況
- 二次医療圏における人口変化率の推計
- 医療機関別の許可病床数
- 医療機関の指定状況

2. 医療提供体制の概況

- 人口10万人あたり医療機関数・病床数
- 人口10万人あたり医療従事者数の比較
- 都道府県内の医療圏の医師偏在指標
- 都道府県別の医師偏在指標
- 診療科別医師数
- 病床数及び診療実績の推移
- 地域の入院患者数と平均在院日数
- 医療機関別職員数
- 病床機能別の病床数の推移と必要病床数
- 病床機能別・医療機関別の許可病床数
- 入院料別病床数（病院のみ）
- 二次医療圏別の1日平均入院患者数
- 二次医療圏別の流出入状況（DPC症例数）
- 患者流出入状況の年度推移（DPC症例数）
- MDC別退院患者数の推移

3. 医療需要の将来推計

- 人口推計
- 高齢化の状況
- 1日平均患者数
- 受療率の比較
- ICD別の患者数推計・増減率
- 精神病床の1日平均患者数
- DPC患者数の推計
- DPC症例数と平均入院期間の推移
- 手術件数の推計
- 疾患別患者数の推計（悪性腫瘍・脳卒中・虚血性心疾患・糖尿病）
- 在宅医療の需要推計（患者数・算定回数）
- 要介護者数の推計（年齢区分・要介護度別）

4. 医療機関のパフォーマンスおよび連携状況

- ポジショニングマップ
- 入退棟経路の傾向
- 救急車受入を行う病院の概要
- 病院別の救急車受入件数および夜間・時間外・休日の患者延べ数
- 救急医療の提供状況
- 救急医療の提供状況の類似区域との比較
- DPC対象病院における平均在院日数
- MDC別退院患者数および医療機関シェア
- DPC退院患者数のシェア

1/ 地域の概況

人口動態や地理特性から、地域の特性を把握する。

高齢化率の推移

生産年齢人口

可住地面積比率

人口構造等の地域の特徴を全国平均との比較や、
基幹的な役割を担う医療機関を確認することで、医療圏内の地域特性を把握する。

大阪府 | 二次医療圏の概況

都道府県内の二次医療圏の人口および面積を整理しています。

医療計画においては、二次医療圏の人口が20万人未満、かつ、二次医療圏内の病院の流入患者割合が20%未満かつ流出患者割合が20%以上の場合に見直しの検討が必要とされています。

二次医療圏	人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)	可住地面積割合 (%)
豊能	1,056,344	275.61	3,832.7	52%
三島	758,811	213.46	3,554.8	59%
北河内	1,139,459	177.34	6,425.3	85%
中河内	827,357	128.83	6,422.1	83%
南河内	592,506	290.00	2,043.1	56%
堺市	826,161	149.84	5,513.6	97%
泉州	884,635	444.93	1,988.3	61%
大阪市	2,752,412	225.33	12,215.0	100%
大阪府 計	8,837,685	1,905.34	4,638.4	70%
全国	126,146,099	372,864.20	338.3	33%

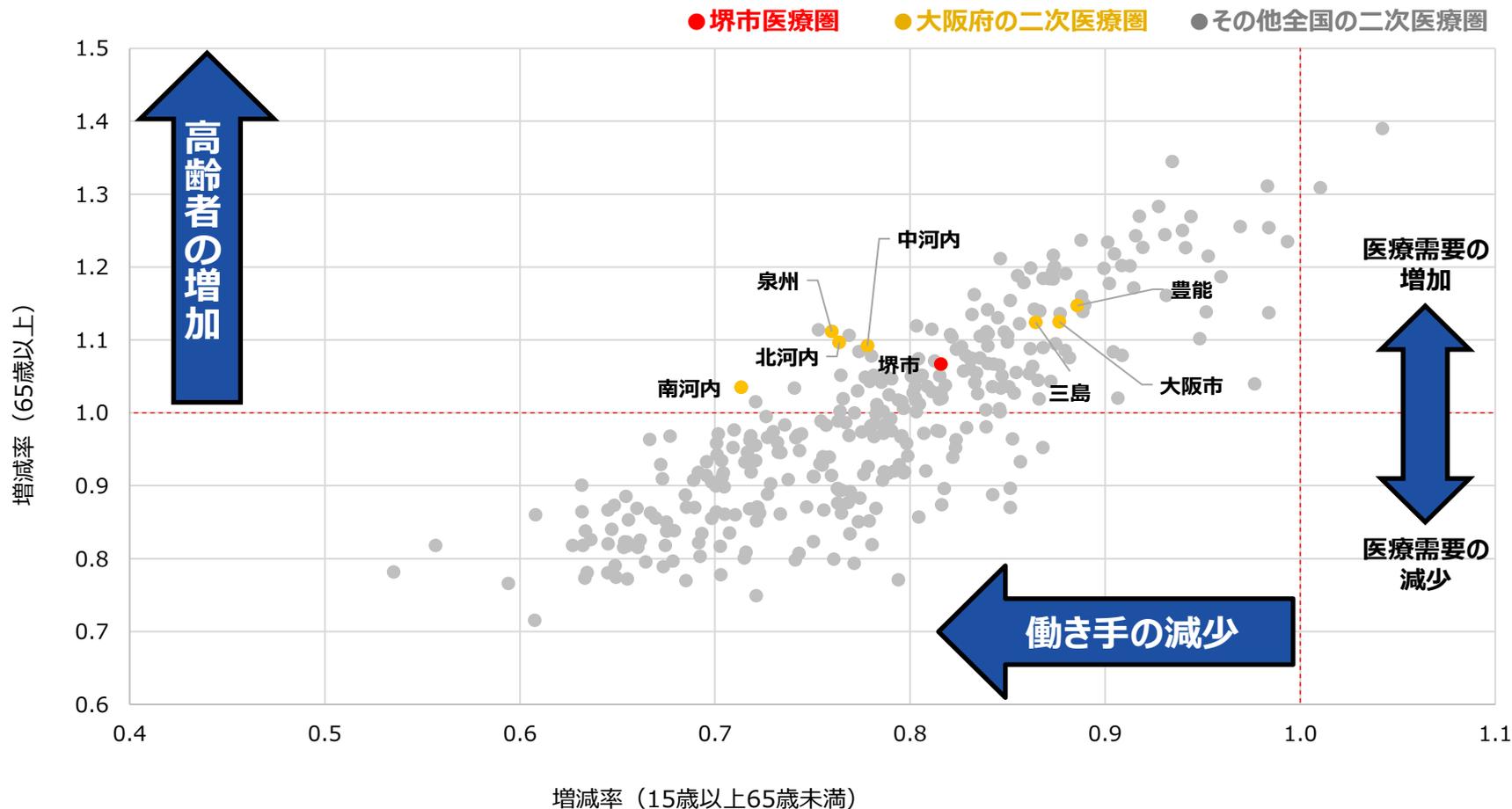
* 可住地面積とは、総面積(北方地域および竹島を除く)から林野面積と主要湖沼面積を差し引いて算出したもの

出典：「令和2年国勢調査」(総務省統計局)

：「都道府県・市区町村のすがた(社会・人口統計体系)」(総務省統計局) 2020年度

大阪府 | 二次医療圏における人口変化率の推計（2025年～2050年）

高齢者の増減割合と生産年齢人口の増減割合の2軸で、全国の二次医療圏における当該医療圏の立ち位置を示しています。需給の変化に対して医療提供体制を確保できるか、という観点で課題を整理する必要があります。



堺市医療圏 | 医療機関別の許可病床数

二次医療圏内の医療機関の立地とそれぞれの機能別の病床数を可視化しています。

特に急性期においては医療機関同士の距離と、地域住民のアクセスの観点で適切かつ効率的な配置となっているかを検証する必要があります。



※地図内の番号は、医療機関一覧のNoに対応しています

堺市医療圏 | 医療機関別の許可病床数

No	医療機関名	市町村名	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・ 無回答	総計
1	阪和第一泉北病院	堺市南区				1,024		1,024
2	阪和第二泉北病院	堺市中区		115		854		969
3	大阪労災病院	堺市北区	478	200				678
4	堺市立総合医療センター	堺市西区	480					480
5	ヘルランド総合病院	堺市中区	414	63				477
6	耳原総合病院	堺市堺区	67	269	50			386
7	清恵会病院	堺市堺区	51	190	45	100		386
8	NHO近畿中央呼吸器センター	堺市北区		276			54	330
9	馬場記念病院	堺市西区	136	112	52			300
10	堺平成病院	堺市中区			176	120		296
11	暁美会 田中病院	堺市美原区		40	40	160		240
12	清恵会三宝病院	堺市堺区			60	180		240
13	浅香山病院	堺市堺区	8	126	89			223
14	堺咲花病院	堺市南区		100	120			220
15	日野病院	堺市東区			199			199
16	正風病院	堺市北区		47	104	48		199
17	ヘルピアノ病院	堺市西区			96	96		192
18	北条病院	堺市北区				189		189
19	堺若葉会病院	堺市北区			60	120		180
20	金岡病院	堺市北区				155		155
21	南堺病院	堺市中区		76		77		153
22	阪堺病院	堺市堺区		52	88			140
23	植木病院	堺市北区		50		80		130
24	邦和病院	堺市中区		60		59		119
25	田中会 田中病院	堺市北区				114		114
26	田仲北野田病院	堺市東区		53		47		100
27	朝日会病院	堺市堺区				96		96
28	仁悠会 吉川病院	堺市北区		45		45		90
29	堺フジタ病院	堺市中区			28	59		87
30	堺山口病院	堺市堺区		60				60

No	医療機関名	市町村名	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・ 無回答	総計
31	堺市立重症心身障害者（児）支援センター	堺市堺区				60		60
32	タマタ病院	堺市北区				60		60
33	泉北藤井病院	堺市南区				59		59
34	堺近森病院	堺市堺区		47				47
35	鳳胃腸病院	堺市西区		44				44
36	大仙病院	堺市西区		30				30
	総計		1,634	2,055	1,207	3,802	54	8,752

堺市医療圏 | 医療機関の指定状況①

二次医療圏内の医療機関の指定状況を示しています。基幹的な機能をどの医療機関が担っているかを確認できます。

役割の不足や重複を確認して、二次医療圏の医療提供体制の充足度と効率性を検討できます。

No.	医療機関略称	病床数	DPC	地域医療 支援病院	救命救急 センター	災害拠点 病院	周産期	がん診療	脳卒中	在宅医療
1	阪和第一泉北病院	1,024								
2	阪和第二泉北病院	969								
3	浅香山病院	967	標準							
4	大阪労災病院	678	標準	○				地域拠点	PSC	
5	阪南病院	652								
6	堺市立総合医療センター	487	特定	○	○	地域		地域拠点	PSCコア	
7	ヘルランド総合病院	477	標準	○			地域		PSC	
8	美原病院	450								
9	金岡中央病院	393								
10	耳原総合病院	386	標準	○						在後病
11	NHO近畿中央呼吸器センター	365								
12	清恵会病院	336	標準						PSC	在後病
13	堺咲花病院	310	標準							在後病
14	馬場記念病院	300	標準	○					PSCコア	在後病
15	堺平成病院	296								在後病
16	泉北陣内病院	269								在後病
17	清恵会三宝病院	240								
18	日野病院	199								支援病 3
19	正風病院	199								
20	ヘルピアン病院	192								支援病 2
21	北条病院	189								
22	暁美会 田中病院	180								支援病 2
23	堺若葉会病院	180								
24	金岡病院	155								
25	南堺病院	153								支援病 2

出典：

「施設基準の届出受理状況（全体）（届出受理医療機関名簿）令和7年1月1日現在」（各地方厚生局）

「厚生労働省 令和7年告示第166号」

「地域医療支援病院一覧 令和6年9月1日時点」（厚生労働省）

「救命救急センター設置状況一覧 令和7年4月1日現在」（厚生労働省）

「災害拠点病院一覧 令和6年4月1日現在」（厚生労働省）

「周産期母子医療センター一覧 令和6年4月1日現在」（厚生労働省）

「がん診療連携拠点病院等一覧表 令和7年4月1日現在」（厚生労働省）

「一次脳卒中センター（PSC）一覧 認定期間：2025/4/1～2026/3/31」（一般社団法人日本脳卒中学会）

「一次脳卒中センター（PSC）コア一覧 認定期間：2025/4/1～2026/3/31」（一般社団法人日本脳卒中学会）

堺市医療圏 | 医療機関の指定状況②

No.	医療機関略称	病床数	DPC	地域医療 支援病院	救命救急 センター	災害拠点 病院	周産期	がん診療	脳卒中	在宅医療
26	ペガサスリハビリテーション病院	150								
27	三国丘病院	144								
28	阪堺病院	140	標準							支援病 3
29	植木病院	130								支援病 2
30	邦和病院	119								支援病 3
31	田中会 田中病院	114								
32	田仲北野田病院	100								
33	朝日会病院	96								
34	仁悠会 吉川病院	90								支援病 3
35	堺フジタ病院	87								支援病 3
36	タマダ病院	60								支援病 3
37	堺山口病院	60								支援病 2
38	堺市立重症心身障害者（児）支援センター	60								
39	泉北藤井病院	59								
40	堺近森病院	47								支援病 3
41	鳳胃腸病院	44								
42	大仙病院	30								支援病 2

出典：

「施設基準の届出受理状況（全体）（届出受理医療機関名簿）令和7年1月1日現在」（各地方厚生局）

「厚生労働省 令和7年告示第166号」

「地域医療支援病院一覧 令和6年9月1日時点」（厚生労働省）

「救命救急センター設置状況一覧 令和7年4月1日現在」（厚生労働省）

「災害拠点病院一覧 令和6年4月1日現在」（厚生労働省）

「周産期母子医療センター一覧 令和6年4月1日現在」（厚生労働省）

「がん診療連携拠点病院等一覧表 令和7年4月1日現在」（厚生労働省）

「一次脳卒中センター（PSC）一覧 認定期間：2025/4/1～2026/3/31」（一般社団法人日本脳卒中学会）

「一次脳卒中センター（PSC）コア一覧 認定期間：2025/4/1～2026/3/31」（一般社団法人日本脳卒中学会）

2/ 医療提供体制の概況

地域の医療提供体制を、医療資源の供給量や受療動向から整理する。

病床数

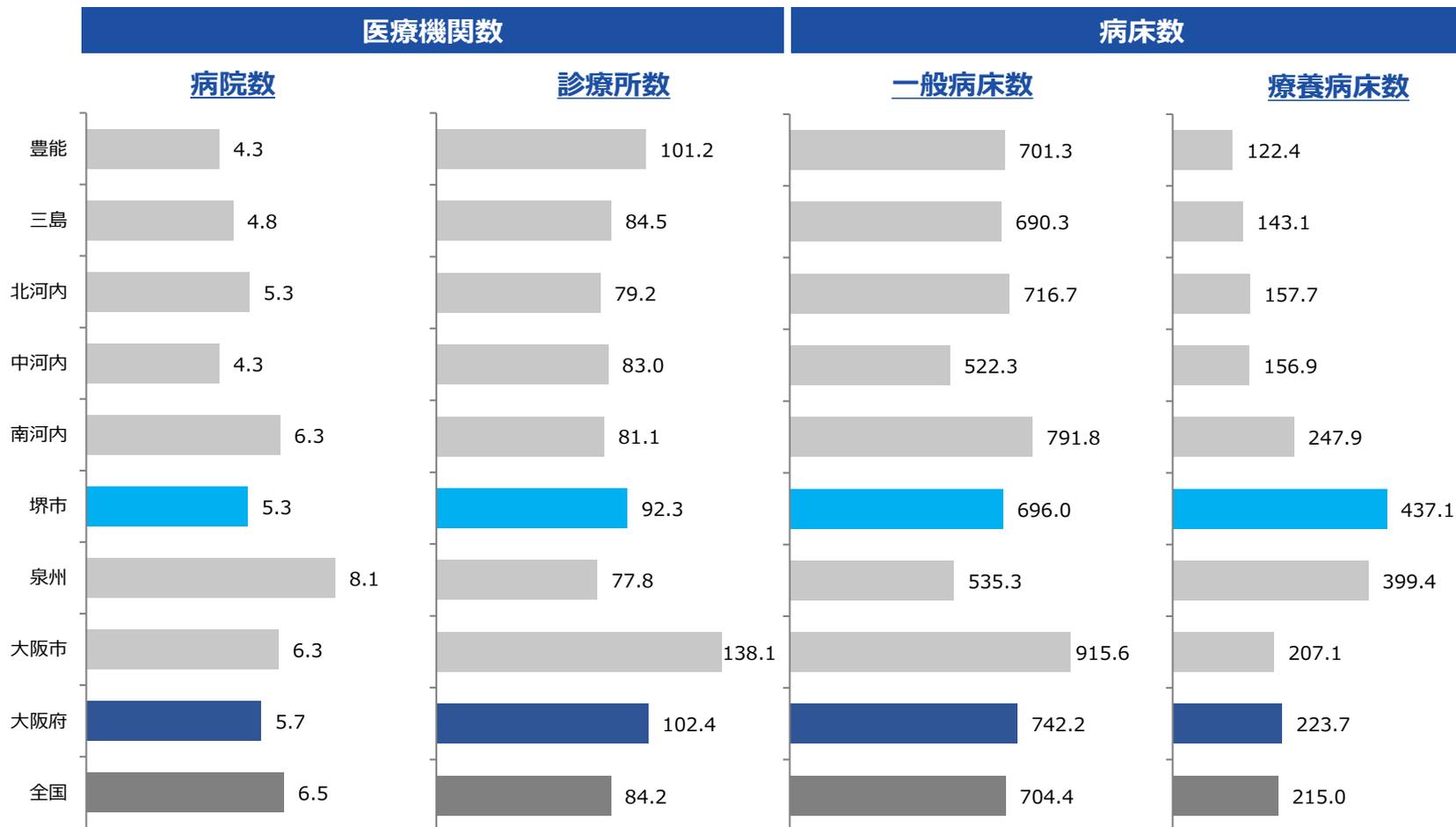
医師数

職種別人員配置

全国・県平均や医師偏在指標との比較から、地域の供給構造における不足や偏りを把握する。患者流出入や平均在院日数などを踏まえ、医療資源の効率性と機能分化の進展を評価する。

大阪府 | 人口10万人あたり医療機関数・病床数

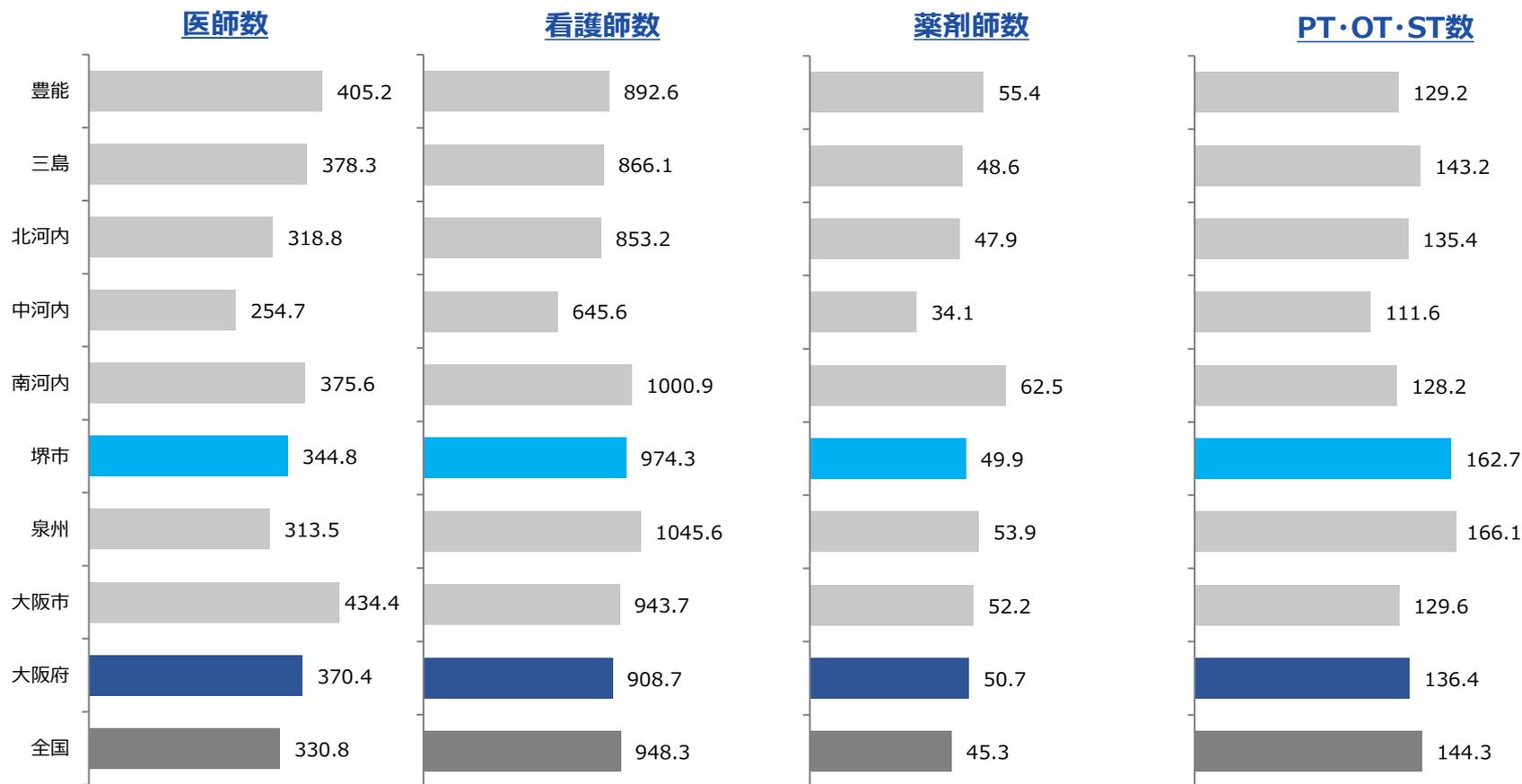
都道府県内二次医療圏の、人口10万人あたりの医療機関数と病床数を比較しています。
 全国よりも病院数や病床数が多い場合には、医療資源が分散している可能性があります。
 診療所が少ない場合は、かかりつけ医の確保が課題となっている可能性があります。



大阪府 | 人口10万人あたり医療従事者数の比較

都道府県内の二次医療圏における、人口10万人あたりの医療従事者数を比較しています。

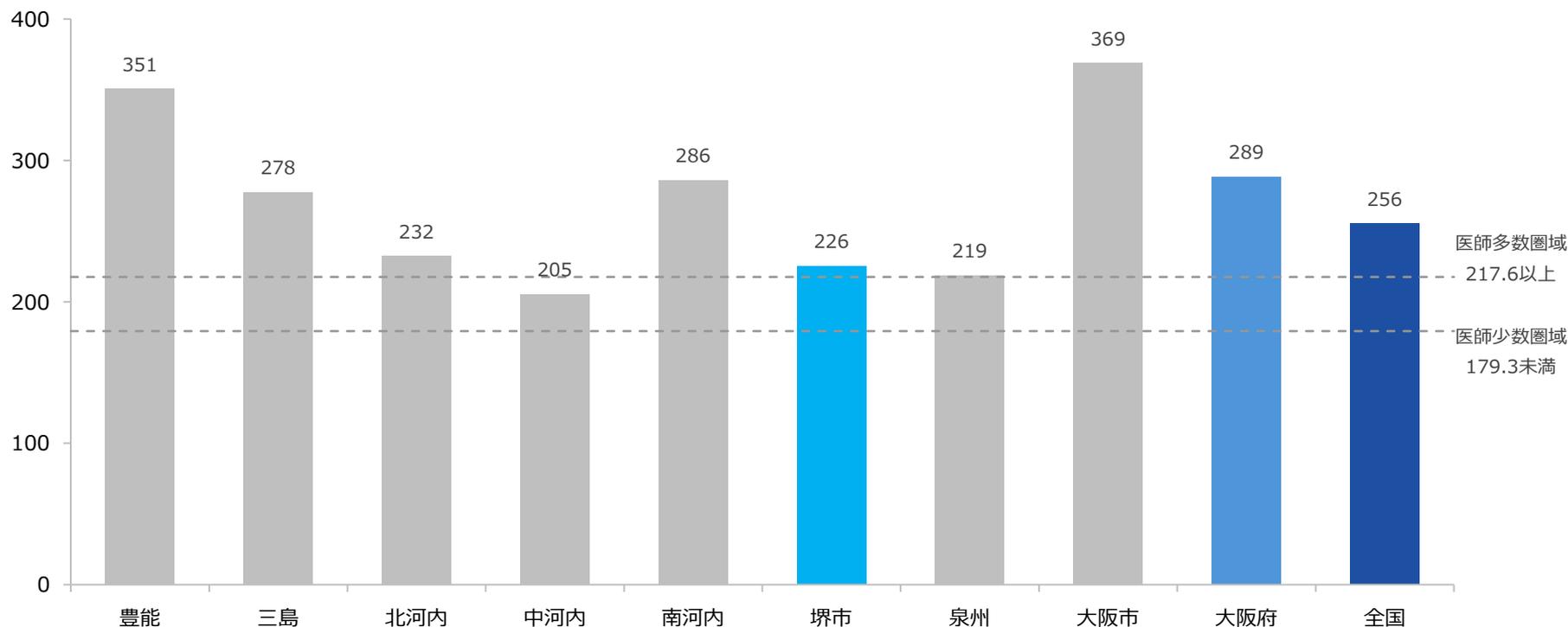
地域全体の医療従事者に不足がないかを確認し、医療従事者の確保が現状において困難となっていないか確認します。



大阪府 | 都道府県内の医療圏の医師偏在指標

都道府県内の二次医療圏における、人口10万人あたりの医師数を比較しています。

医師偏在指標は、患者の流出入等の患者動向や医師の年齢等の条件を調整し、全国の二次医療圏と患者数に対する医師のマンパワーを比較する指数となります。

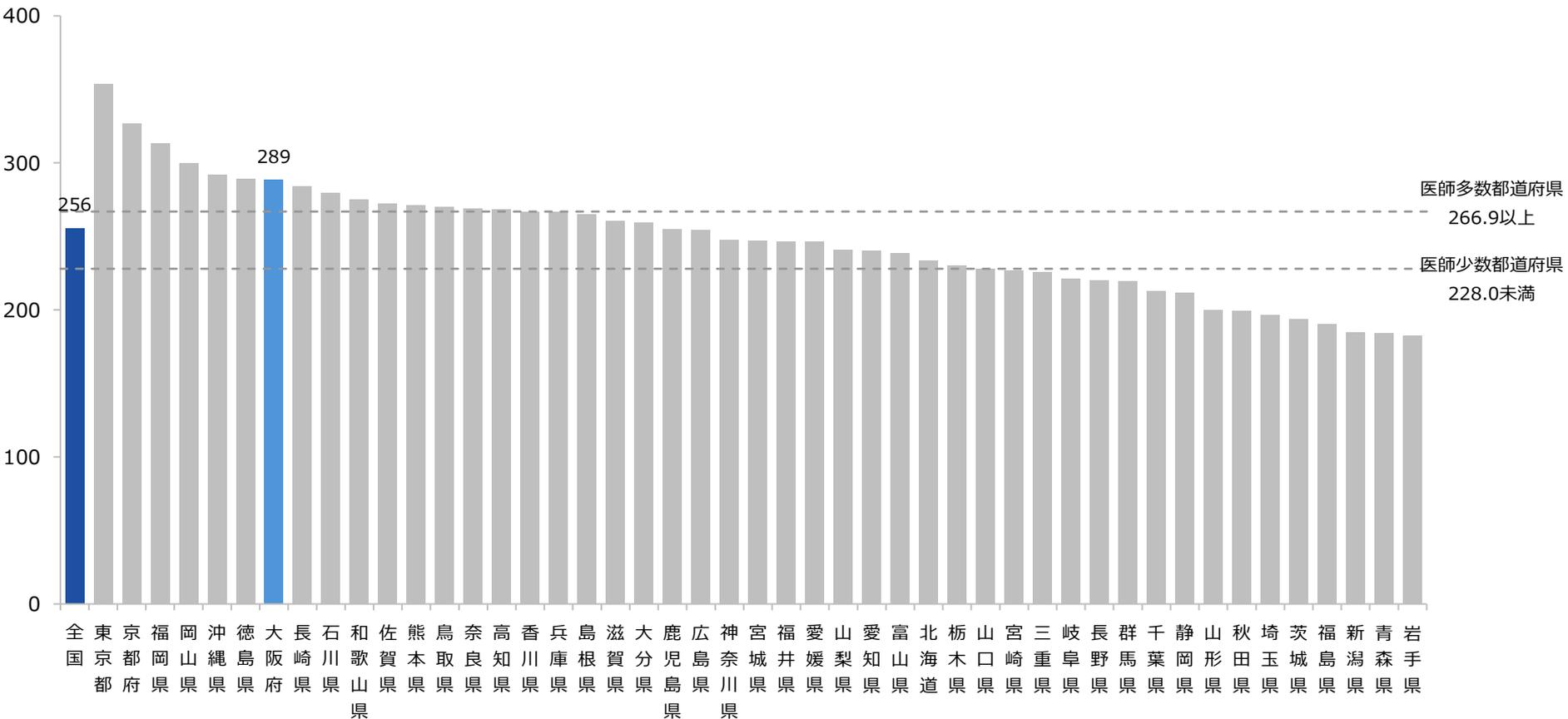


都道府県別の医師偏在指標

医師偏在指標を他の都道府県と比較しています。

都道府県全体で医師数が不足している場合、当該医療圏での医師確保は比較的困難となります。

当該医療圏以外の動向も含めて整理をする必要があります。



出典：「医師偏在指標関連データ（令和6年1月公表版）」（厚生労働省）

堺市医療圏 | 診療科別医師数

当該医療圏の65歳以上人口10万人あたりの医師数を、診療科別で比較しています。

地域内に不足している診療科を確認できます。

区分	診療科	65歳以上人口 10万人あたり医師数		全国平均との差		割合	区分	診療科	65歳以上人口 10万人あたり医師数		全国平均との差		割合
		医療圏	全国	圏域-全国	割合				医療圏	全国	圏域-全国	割合	
内科系	内科	187	86.5	100.5	+116%		小児・ 周産期	小児科	36.9	25.2	11.7	+47%	
	呼吸器内科	24	9.9	14.1	+143%			小児外科	0.9	1.2	-0.3	▲29%	
	循環器内科	32.2	19.1	13.1	+69%			産婦人科	30.5	16	14.4	+90%	
	消化器内科(胃腸内科)	36.9	22.6	14.3	+64%			産科	0	0.7	-0.7	-	
	腎臓内科	12.4	8	4.5	+56%			婦人科	3.4	2.9	0.5	+18%	
	脳神経内科	12.4	8.3	4.2	+51%		眼科・耳鼻・ 皮膚・美容	眼科	41.2	19.2	22	+115%	
	糖尿病内科(代謝内科)	15.4	8.4	7	+83%			耳鼻いんこう科	24.4	13.3	11.2	+84%	
	血液内科	3	4.2	-1.2	▲29%			皮膚科	21	14.2	6.8	+48%	
	アレルギー科	0.4	0.3	0.2	+62%		美容外科	3.4	1.8	1.7	+94%		
	リウマチ科	0	2.7	-2.7	-		麻酔・ 集中治療系	麻酔科	23.6	14.6	8.9	+61%	
	感染症内科	1.3	0.9	0.4	+48%			救急科	11.2	5.5	5.6	+101%	
外科系	外科	36.5	18.1	18.4	+102%		集中治療科	3.4	1.3	2.1	+164%		
	呼吸器外科	7.3	3	4.3	+141%		放射線・ 検査系	放射線科	15.9	10.3	5.6	+54%	
	心臓血管外科	6.4	4.6	1.9	+41%			病理診断科	3	3.2	-0.2	▲5%	
	乳腺外科	4.3	3.3	1	+32%		臨床検査科	1.7	0.9	0.8	+86%		
	気管食道外科	0	0.1	-0.1	-		リハビリ	リハビリテーション科	9.9	4.4	5.5	+126%	
	消化器外科(胃腸外科)	12.9	8.2	4.7	+57%		精神	精神科	62.6	23.8	38.8	+163%	
	泌尿器科	18	11.2	6.9	+62%			心療内科	3	1.2	1.8	+146%	
	肛門外科	0.4	0.6	-0.2	▲32%		その他	その他	60.5	36.7	23.7	+65%	
	脳神経外科	15.9	10.6	5.2	+49%		総計	総計	859.2	463.3	395.8	+85%	
	整形外科	66.9	31.8	35.1	+110%								
	形成外科	9	4.5	4.5	+99%								

出典：「令和6年医師・歯科医師・薬剤師統計」（厚生労働省）
：「令和2年国勢調査」（総務省統計局）

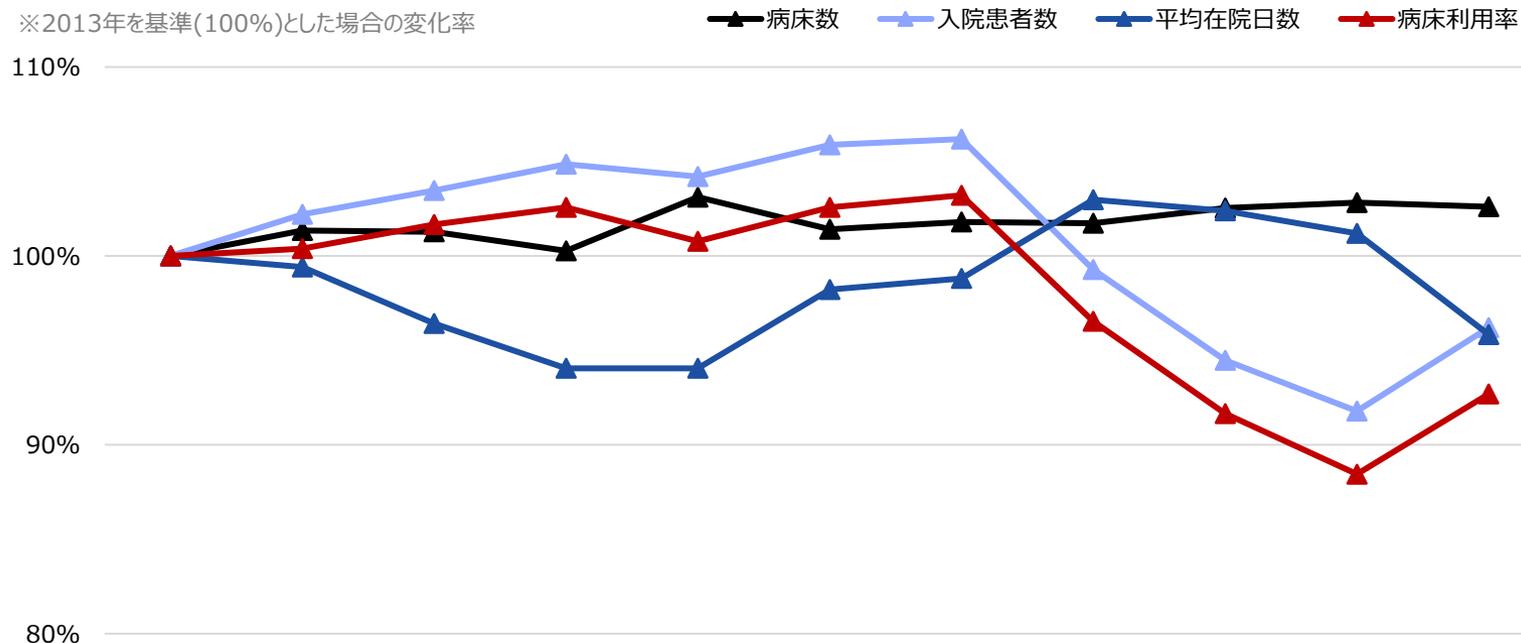
堺市医療圏 | 病床数及び診療実績の推移（一般病床）

当該医療圏の一般病床における、診療実績の推移を示しています。

入院患者数が減少しているか、また、それが平均在院日数の短縮によるものかを確認します。

入院患者数の減少に合わせて病床数が減少しているか、病床利用率が低下していないか確認します。

※2013年を基準(100%)とした場合の変化率

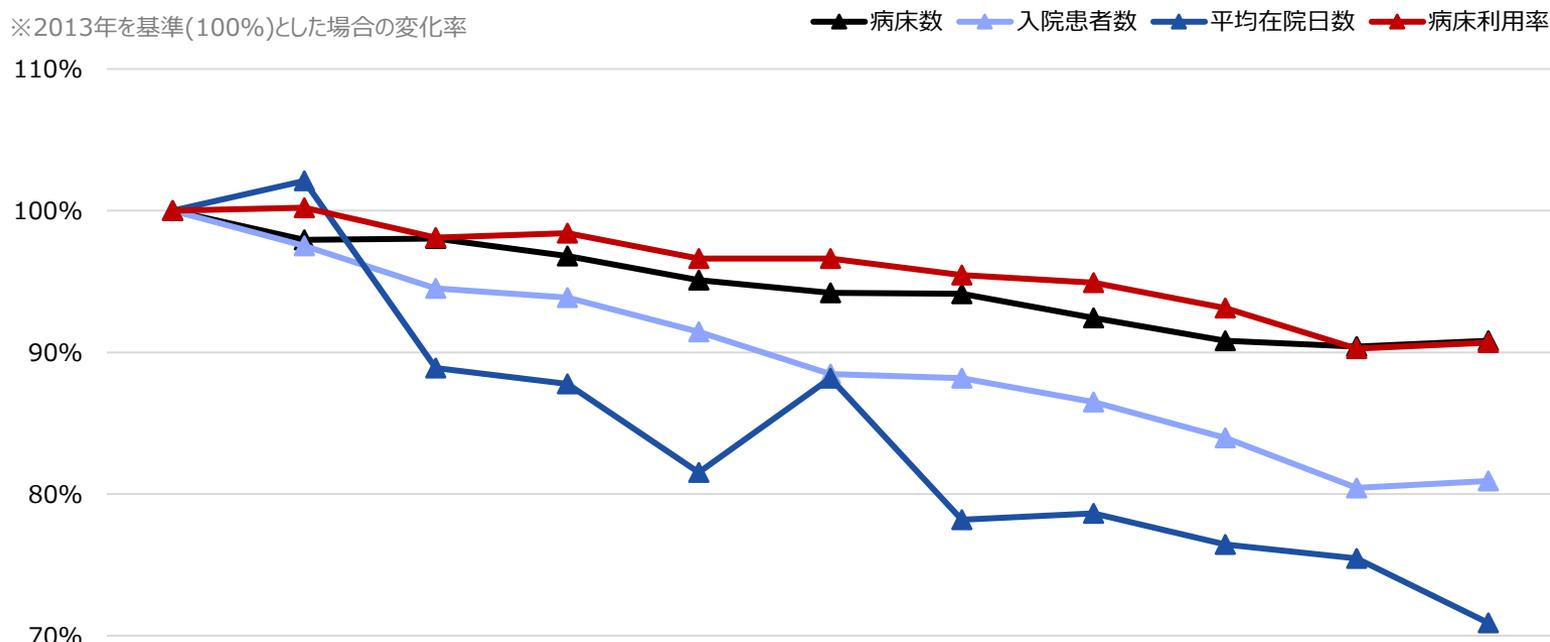


	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2013年比
病床数	5,554	5,629	5,625	5,569	5,727	5,632	5,654	5,650	5,695	5,711	5,699	+2.6%
入院患者数 (人/日)	4,284	4,378	4,432	4,492	4,464	4,536	4,549	4,253	4,047	3,932	4,121	▲3.8%
平均在院日数 (日)	16.8	16.7	16.2	15.8	15.8	16.5	16.6	17.3	17.2	17	16.1	▲4.2%
病床利用率 (%)	77.9	78.2	79.2	79.9	78.5	79.9	80.4	75.2	71.4	68.9	72.2	▲7.3%

堺市医療圏 | 病床数及び診療実績の推移（療養病床）

当該医療圏の療養病床における、診療実績の推移を示しています。

※2013年を基準(100%)とした場合の変化率

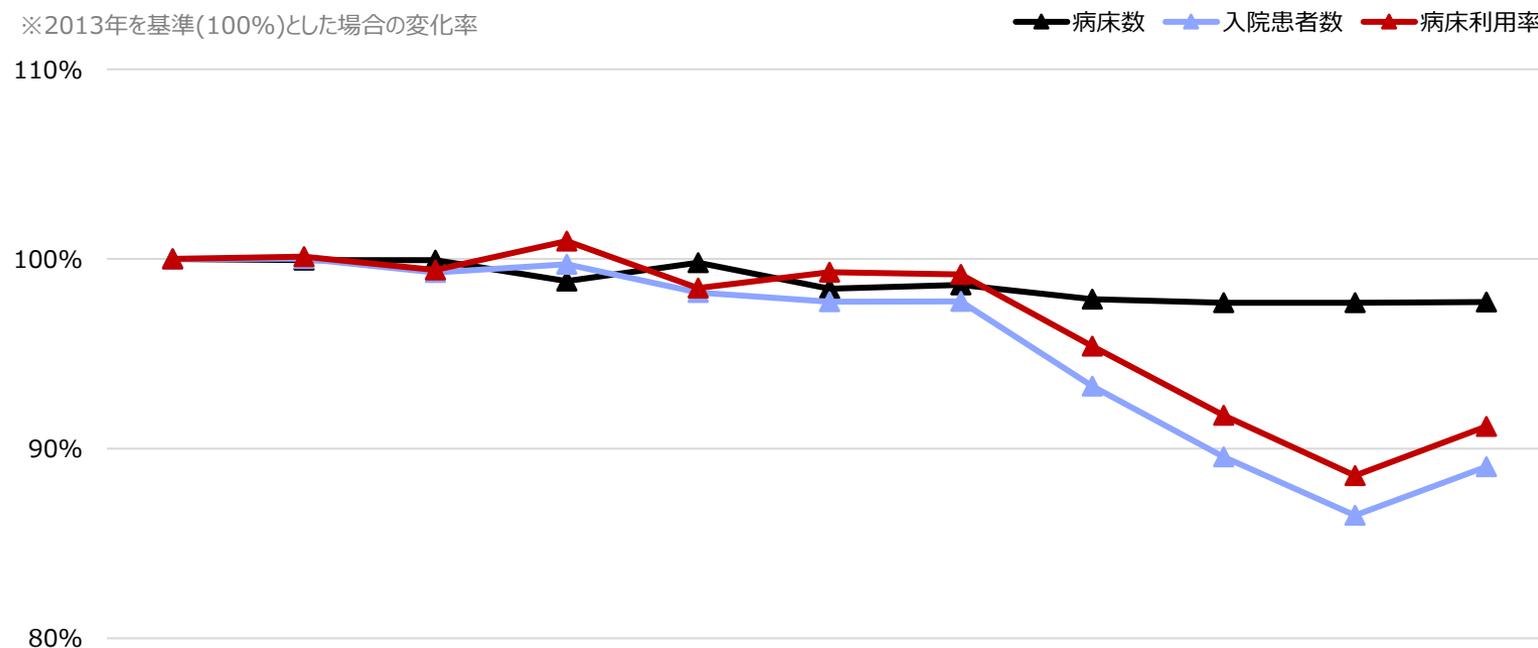


	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2013年比
病床数	3,919	3,838	3,842	3,794	3,727	3,692	3,689	3,622	3,559	3,543	3,559	▲9.2%
入院患者数 (人/日)	3,762	3,669	3,556	3,531	3,440	3,328	3,317	3,254	3,159	3,026	3,044	▲19.1%
平均在院日数 (日)	204.5	208.8	181.8	179.5	166.7	180.3	159.9	160.8	156.3	154.3	145.0	▲29.1%
病床利用率 (%)	94.5	94.7	92.7	93.0	91.3	91.3	90.2	89.7	88.0	85.3	85.7	▲9.3%

堺市医療圏 | 病床数及び診療実績の推移（一般+療養）

当該医療圏の一般病床と療養病床における、診療実績の推移を示しています。

※2013年を基準(100%)とした場合の変化率



	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2013年比
病床数	9,473	9,467	9,467	9,363	9,454	9,324	9,343	9,272	9,254	9,254	9,258	▲2.3%
入院患者数 (人/日)	8,046	8,047	7,988	8,023	7,904	7,864	7,866	7,507	7,206	6,958	7,165	▲10.9%
病床利用率 (%)	84.9	85.0	84.4	85.7	83.6	84.3	84.2	81.0	77.9	75.2	77.4	▲8.8%

大阪府 | 都道府県内の医療圏の入院患者数と平均在院日数

都道府県内の二次医療圏ごとの、入院患者数の推移と平均在院日数の変化を示しています。

都道府県全体と近隣の医療圏と比較することで、各医療圏の傾向を確認できます。

医療圏	入院患者数(総数)					平均在院日数						
	2013年		2018年		2023年		2013年		2018年		2023年	
	実績	実績	2013年比	実績	2013年比	実績	実績	2013年比	実績	2013年比	実績	2013年比
全国	1,275,347	1,246,867	▲2.2%	1,123,654	▲11.9%	30.6	27.8	▲9.2%	26.3	▲14.1%		
大阪府	90,205	88,410	▲2.0%	79,298	▲12.1%	28.9	25.4	▲12.1%	24.0	▲17.0%		
豊能	9,164	9,282	+1.3%	8,436	▲7.9%	27.7	24.3	▲12.3%	22.7	▲18.1%		
三島	7,677	7,541	▲1.8%	6,867	▲10.6%	33.2	28.4	▲14.5%	27.1	▲18.4%		
北河内	9,808	9,878	+0.7%	9,180	▲6.4%	28.4	24.7	▲13.0%	23.2	▲18.3%		
中河内	6,385	6,239	▲2.3%	5,320	▲16.7%	30.2	26.8	▲11.3%	24.4	▲19.2%		
南河内	6,938	6,901	▲0.5%	5,975	▲13.9%	28.7	25.4	▲11.5%	24.5	▲14.6%		
堺市	10,624	10,167	▲4.3%	9,226	▲13.2%	37.3	33.3	▲10.7%	31.7	▲15.0%		
泉州	12,970	12,679	▲2.2%	11,566	▲10.8%	48.6	42.1	▲13.4%	39.0	▲19.8%		
大阪市	26,639	25,723	▲3.4%	22,729	▲14.7%	22.0	19.4	▲11.8%	18.5	▲15.9%		

堺市医療圏 | 医療機関別職員数①

当該医療圏内の医療機関の職員数を比較しています。

各病院の医療機能に対して、適切な職員配置となっているか確認します。

No.	医療機関名	医師	うち、常勤	看護職員	看護補助者	PT+OT+ST	薬剤師	全職員
1	堺市立総合医療センター	211.3	209	654.0	43.1	31.0	39.8	1,087.5
2	大阪労災病院	210.5	208	750.4	40.0	0	37.0	1,141.6
3	ヘルランド総合病院	166.4	161	584.6	34.7	40.0	35.0	989.7
4	耳原総合病院	111.3	109	470.0	24.0	68.0	28.0	811.3
5	浅香山病院	82.8	76	477.4	84.9	71.0	20.2	795.0
6	清恵会病院	71.5	55	280.1	47.0	38.0	22.0	518.6
7	馬場記念病院	68.3	53	250.8	60.1	99.0	20.0	570.8
8	阪和第二泉北病院	73.0	39	359.1	225.5	72.0	18.5	784.6
9	NHO近畿中央呼吸器センター	39.0	39	181.4	1.6	0	18.0	273.5
10	堺咲花病院	23.4	18	110.2	10.4	14.1	5.6	176.1
11	堺平成病院	25.1	17	172.4	65.5	116.0	17.8	452.0
12	阪堺病院	17.9	15	113.7	22.6	34.8	6.1	212.7
13	南堺病院	20.1	15	99.9	34.0	26.0	7.0	202.8
14	阪和第一泉北病院	26.7	15	304.9	248.4	49.6	17.1	668.2
15	日野病院	16.1	14	91.0	34.0	110.4	5.0	264.7
16	植木病院	14.0	11	80.2	22.3	9.0	7.7	143.0
17	堺若葉会病院	15.0	10	102.6	12.5	19.0	7.5	162.4
18	正風病院	9.0	9	60.5	30.7	14.0	5.0	124.2
19	暁美会 田中病院	15.4	8	88.6	52.6	26.4	4.0	201.7
20	大仙病院	9.7	6	24.5	4.0	8.0	3.0	52.2
21	金岡病院	8.5	6	54.2	24.0	3.0	4.4	99.2
22	田仲北野田病院	9.2	6	55.1	23.8	3.0	2.5	122.5
23	ヘルピアノ病院	11.2	6	99.0	60.8	81.0	4.9	264.4
24	鳳胃腸病院	6.5	5	39.2	8.4	0	3.0	64.3
25	清恵会三宝病院	8.7	5	71.4	42.5	6.0	0	130.6

堺市医療圏 | 医療機関別職員数②

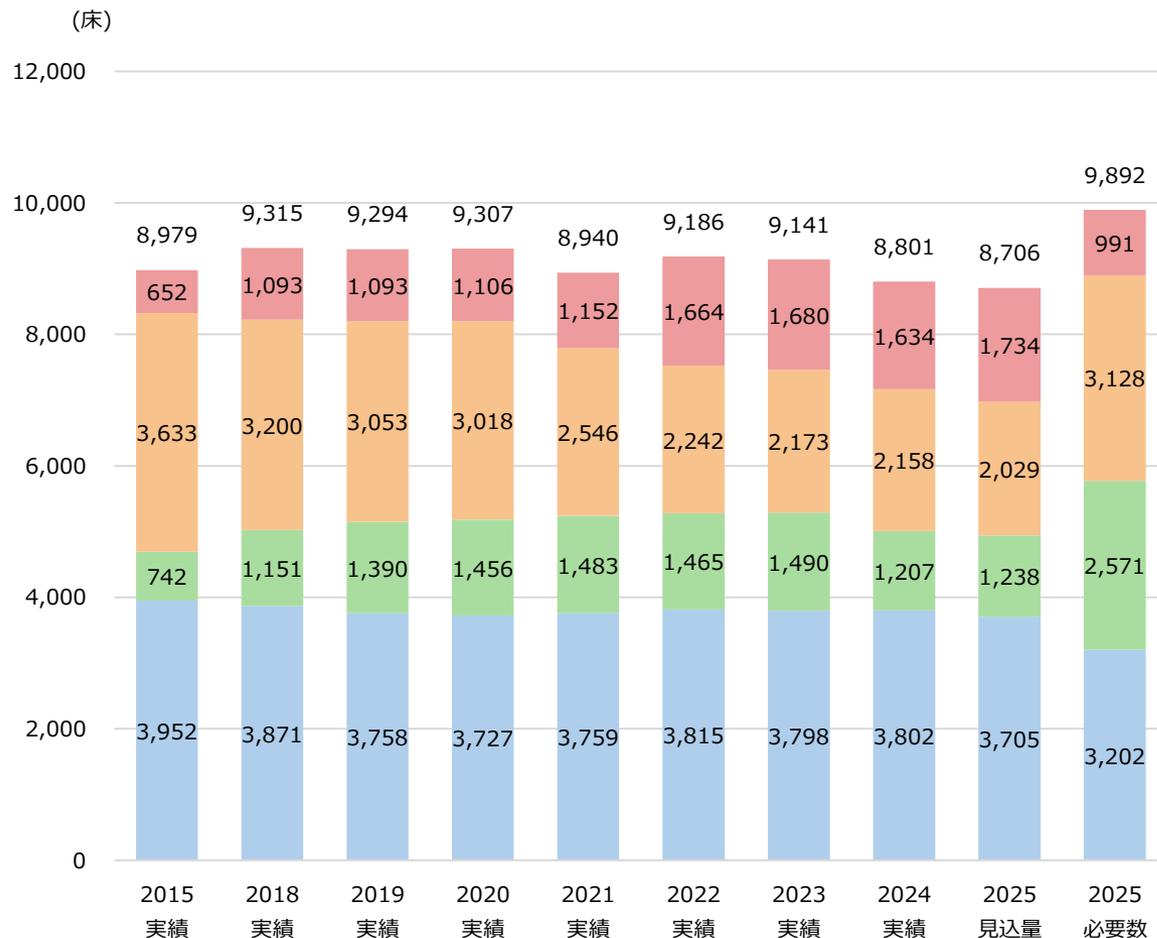
No.	医療機関名	医師	うち、常勤	看護職員	看護補助者	PT+OT+ST	薬剤師	全職員
26	邦和病院	5.3	4	25.4	11.7	10.0	2.0	62.7
27	堺近森病院	4.0	4	50.3	15.8	5.0	4.7	94.5
28	泉北藤井病院	6.3	3	29.7	14.7	4.0	2.9	70.6
29	北条病院	4.7	3	43.3	25.4	9.0	2.8	92.2
30	堺山口病院	6.1	3	26.6	4.8	0	3.0	42.9
31	堺フジタ病院	4.5	3	25.8	16.4	5.7	2.6	57.5
32	田中会 田中病院	4.2	2	42.5	22.2	6.4	3.0	86.3
33	タマダ病院	1.0	1	16.0	18.0	3.2	1.1	40.3
34	朝日会病院	4.0	1	37.9	13.5	1.0	2.0	61.4
35	仁悠会 吉川病院	0	0	32.5	15.0	0	0	47.5
36	堺市立重症心身障害者（児）支援センター	0	0	28.8	22.8	14.2	2.0	69.9
	総計	1,310.7	1,139	5,934.0	1,437.7	997.8	365.2	11,039.4

堺市区域 | 病床機能別の病床数の推移と必要病床数

当該構想区域の病床機能別の病床数の推移と、2025年の必要病床数を示しています。

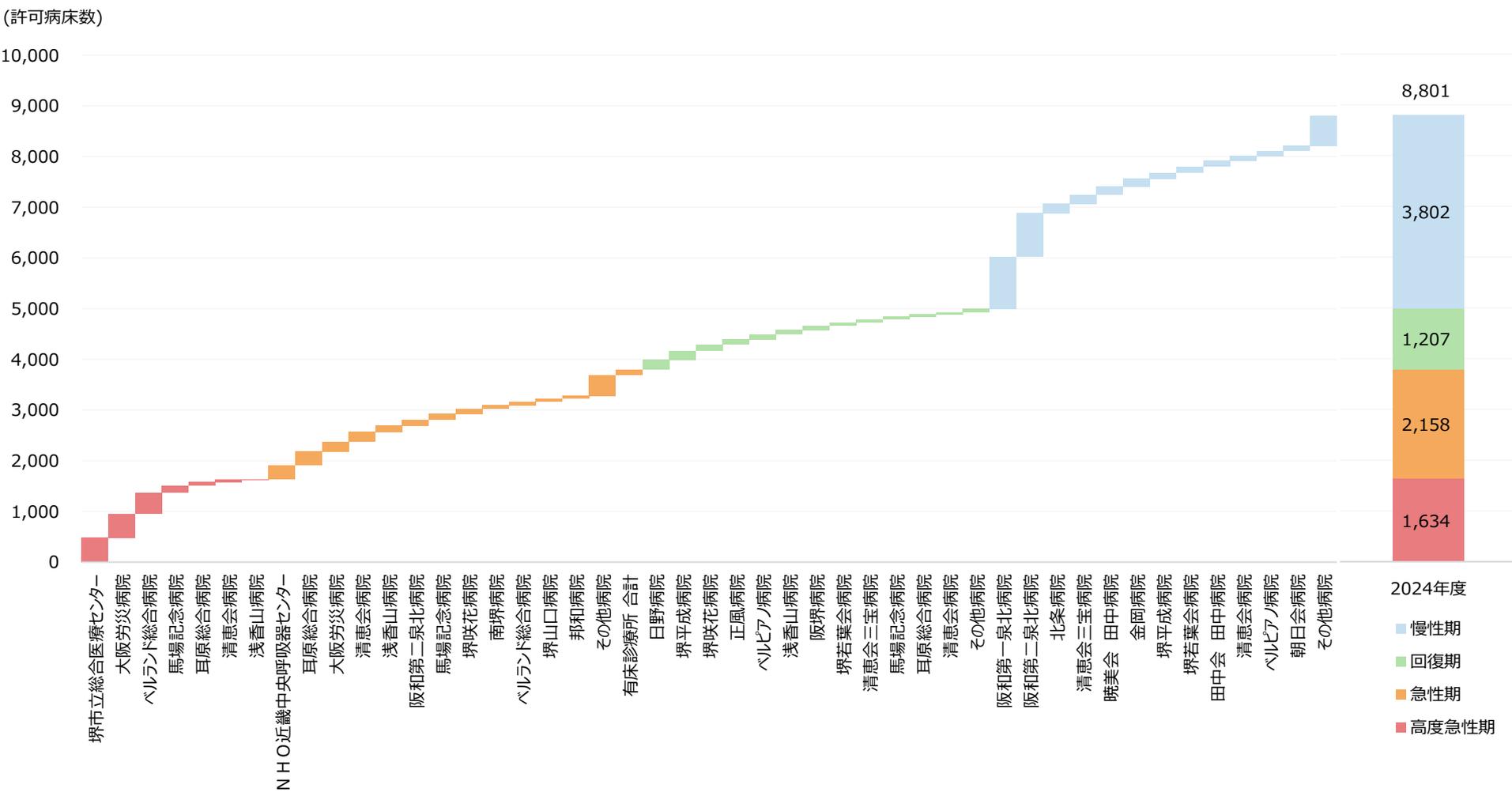
病床数全体の推移だけでなく、機能ごとの増減や、必要病床数との差を検証します。

高度急性期・急性期が少ない場合は急性期の確保、回復期が少ない場合は機能分化が課題として挙げられます。



病床機能	2024年 7月時点	2025年 必要数	差分
高度急性期	1,634	991	+643
急性期	2,158	3,128	▲970
回復期	1,207	2,571	▲1,364
慢性期	3,802	3,202	+600
合計	8,801	9,892	▲1,091

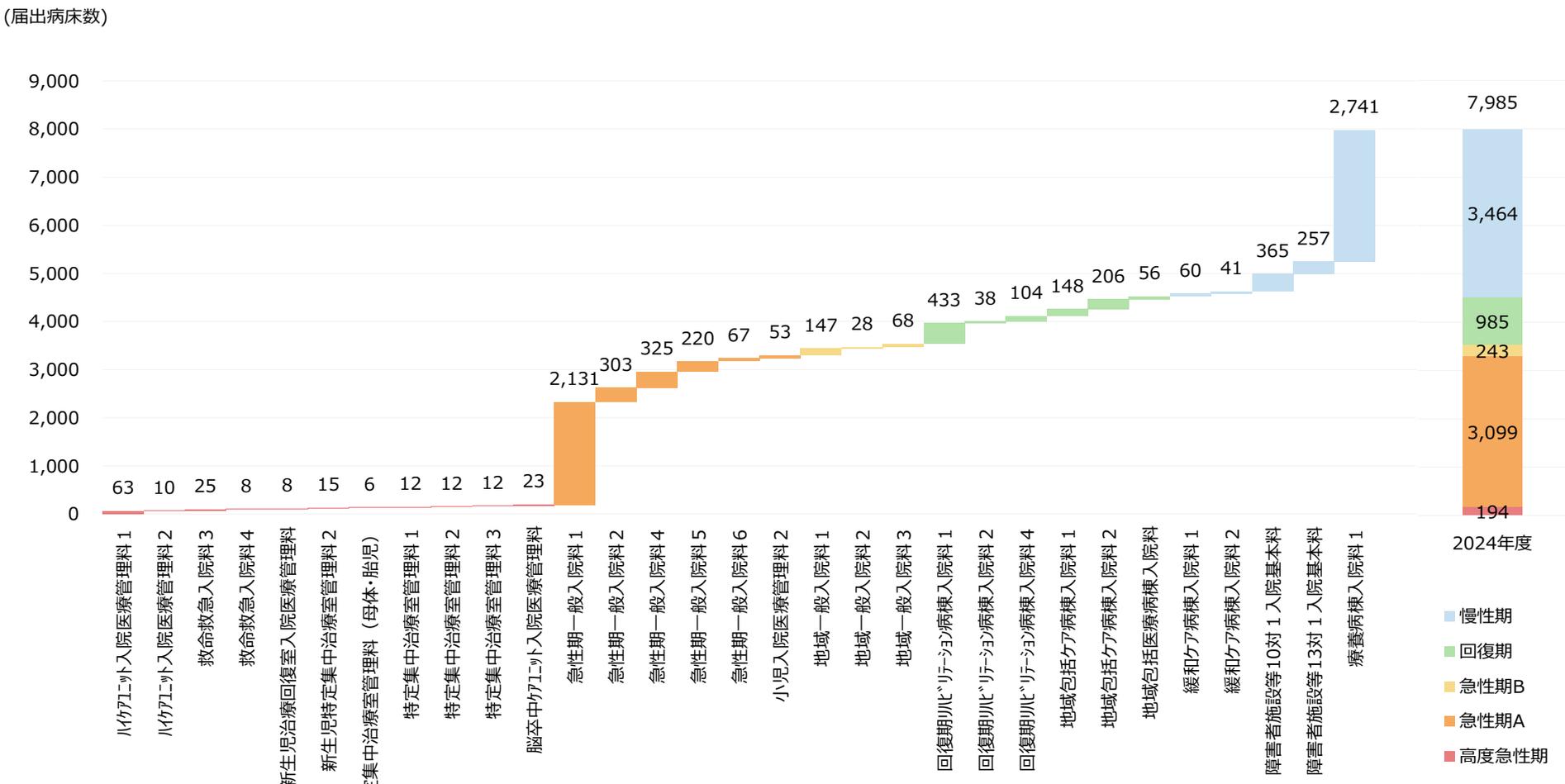
堺市医療圏 | 病床機能別・医療機関別の許可病床数



出典：「令和6年度病床機能報告」（厚生労働省）

堺市医療圏 | 入院料別届出病床数 (病院のみ/入院基本料に基づく機能分類)

当該医療圏の入院料別の届出病床数を整理しています。
それぞれの病床機能に適した入院料の病床数が多いか確認できます。



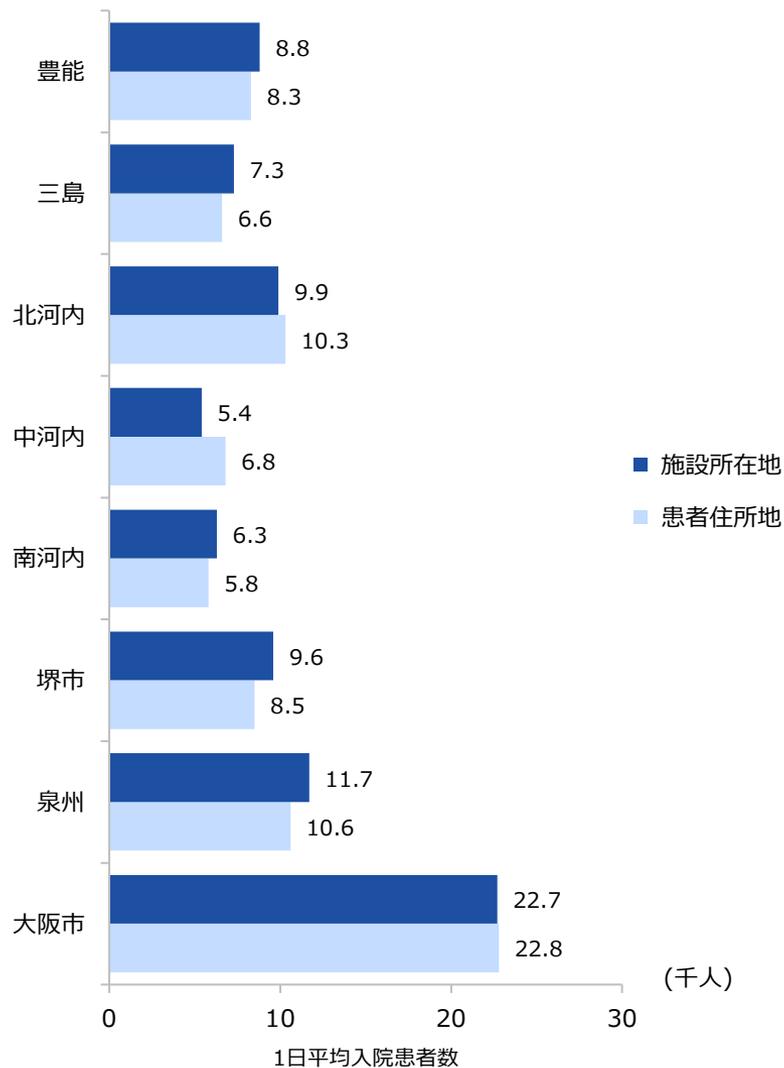
高度急性期：HCU、救命救急、PICU、GCU、NICU、ICU、SCU
急性期A：急性期一般、小児入院、専門病院（7対1、10対1）、特定機能一般
急性期B：地域一般、一般特別、専門病院（13対1）、特定一般
回復期：回復期リハ、地域包括ケア、地域包括医療、特定機能リハ
慢性期：療養、緩和ケア、障害者、障害者特定、特殊疾患

出典：「令和6年度病床機能報告」（厚生労働省）

大阪府 | 二次医療圏別の1日平均入院患者数

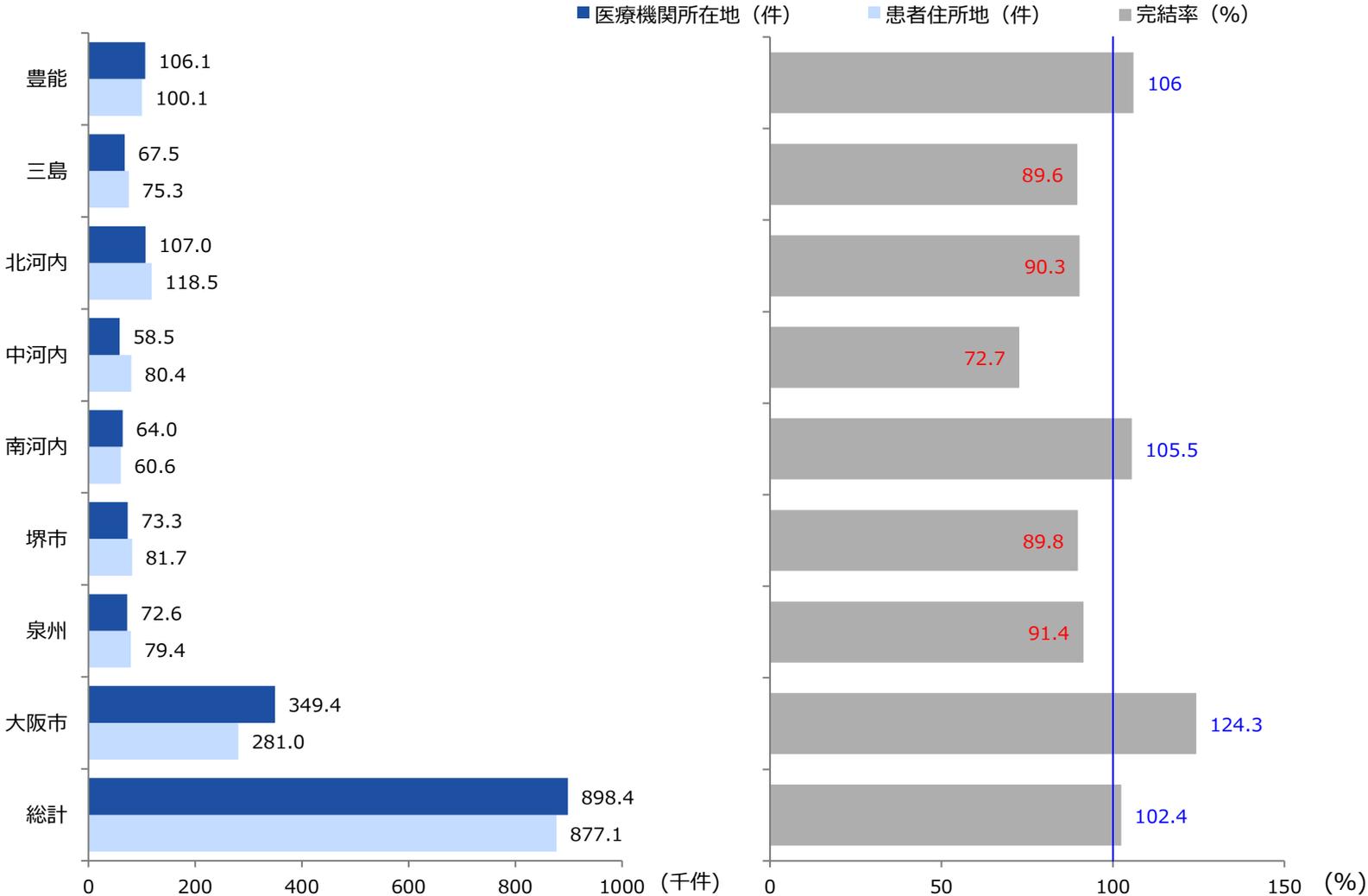
左図は、都道府県内の二次医療圏における1日平均入院患者数の流出入の状況を示しています。

右表では、当該医療圏におけるICD大分類別の1日平均入院患者数の流出入を示しています。



傷病分類	入院患者数(単位：千人/日)		流出入
	施設所在地	患者住所地	
I 感染症	0.1	0.1	0
II 新生物	0.9	0.9	0
III 血液	0	0	0
IV 内分泌	0.2	0.2	0
V 精神	1.8	1.3	0.5
VI 神経系	0.9	0.8	0.1
VII 眼	0.1	0.1	0
VIII 耳	0	0	0
IX 循環器	1.5	1.4	0.1
X 呼吸器	0.7	0.6	0.1
X I 消化器	0.4	0.3	0.1
X II 皮膚	0.1	0.1	0
X III 筋骨格	0.7	0.6	0.1
X IV 腎尿路	0.4	0.3	0.1
X V 妊娠, 分娩	0	0.1	▲0.1
X VI 周産期	0	0.1	▲0.1
X VII 先天奇形	0	0	0
X VIII 症状, 徴候	0.2	0.2	0
X IX 損傷, 中毒	1.1	1.0	0.1
X X I 保健サービス	0.1	0.1	0
X X II 特殊目的用	0.1	0.1	0
総数	9.3	8.3	1.0

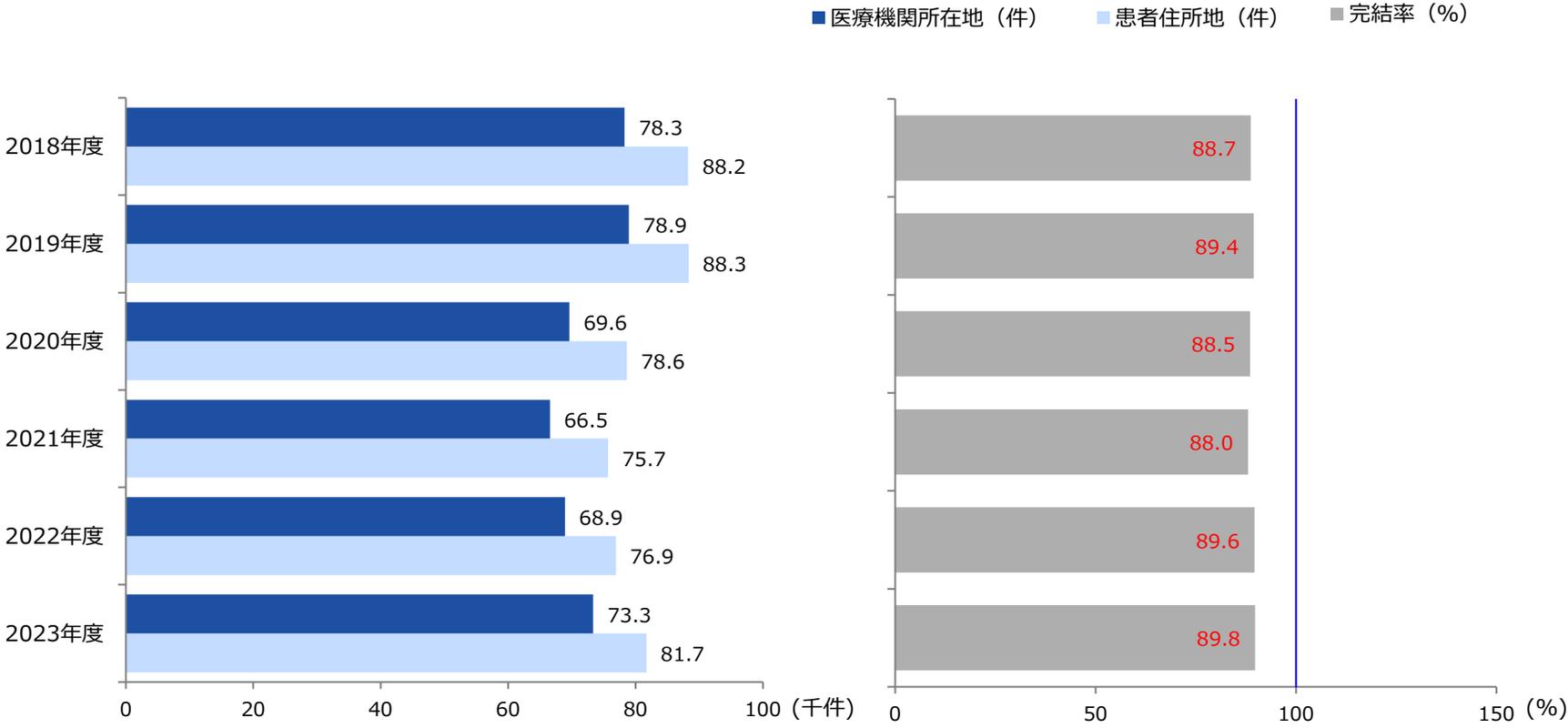
大阪府 | 二次医療圏別の流出入状況（DPC症例数）



出典：「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」（厚生労働省）」

堺市医療圏 | 患者流出入状況の年度推移（DPC症例数）

都道府県内の二次医療圏におけるDPC症例数の流出入の状況を示しています。



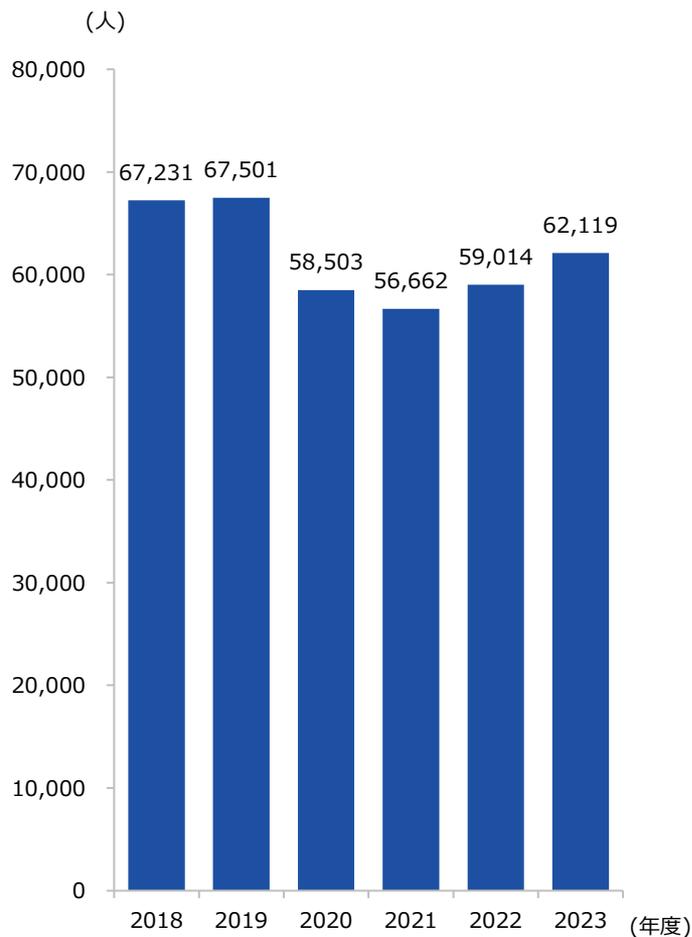
出典：「DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」（厚生労働省）」

堺市医療圏 | MDC別退院患者数の推移（DPC病院のみ）

左図は、当該医療圏のDPC対象病院における退院患者数の推移を示しています。

右表は、MDC別の退院患者数を示しています。

退院患者数：合計



退院患者数：MDC別

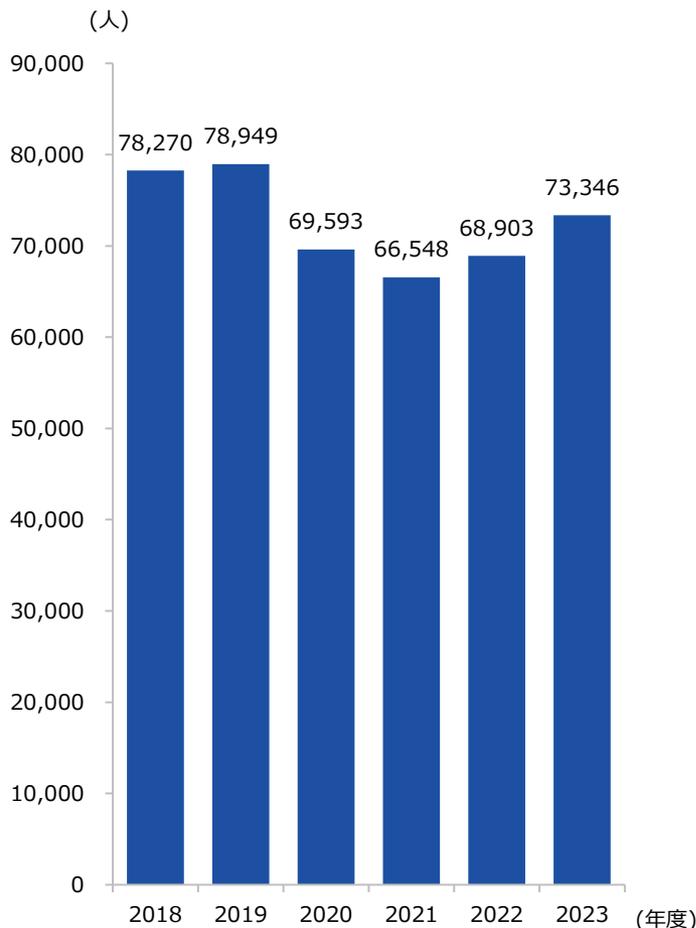
MDC名称	2018	2019	2020	2021	2022	2023	推移 2023- 2018	2023年 構成比
MDC01 神経系	4,063	4,178	4,051	3,605	3,803	3,871	▲4.7%	6.2%
MDC02 眼科系	5,341	5,231	3,508	3,497	4,088	4,182	▲21.7%	6.7%
MDC03 耳鼻咽喉科系	2,800	2,982	2,180	1,968	1,867	2,171	▲22.5%	3.5%
MDC04 呼吸器系	7,353	7,420	4,958	5,315	5,600	7,370	0.2%	11.9%
MDC05 循環器系	8,837	8,794	8,142	7,783	7,808	7,690	▲13.0%	12.4%
MDC06 消化器系, 肝臓・胆道・膵臓	15,161	15,492	14,048	13,980	14,297	14,305	▲5.6%	23.0%
MDC07 筋骨格系	3,294	3,263	2,619	2,429	2,574	2,803	▲14.9%	4.5%
MDC08 皮膚・皮下組織	878	925	830	735	735	900	2.5%	1.4%
MDC09 乳房	804	777	701	666	723	787	▲2.1%	1.3%
MDC10 内分泌・栄養・代謝	2,052	2,029	1,695	1,600	1,731	1,748	▲14.8%	2.8%
MDC11 腎・泌尿系及び男性生殖器系	5,202	5,371	5,137	5,054	5,374	5,415	4.1%	8.7%
MDC12 女性生殖器系及び産褥期・異常妊娠分娩	3,396	3,233	3,089	2,808	2,788	2,765	▲18.6%	4.5%
MDC13 血液・造血器・免疫機構	956	994	1,005	832	816	863	▲9.7%	1.4%
MDC14 新生児・先天性奇形	888	890	934	903	883	772	▲13.1%	1.2%
MDC15 小児	319	269	179	160	186	171	▲46.4%	0.3%
MDC16 外傷・熱傷・中毒	4,886	4,685	4,340	4,297	4,697	5,048	3.3%	8.1%
MDC17 精神	97	84	64	48	45	76	▲21.6%	0.1%
MDC18 その他	904	884	1,023	982	999	1,182	30.8%	1.9%
総計	67,231	67,501	58,503	56,662	59,014	62,119	▲7.6%	100.0%

堺市医療圏 | MDC別退院患者数の推移（出来高病院含む）

左図は、当該医療圏のDPC対象病院・出来高病院における退院患者数の推移を示しています。

右表は、MDC別の退院患者数を示しています。

退院患者数：合計



退院患者数：MDC別

MDC名称	2018	2019	2020	2021	2022	2023	推移 2023- 2018	2023年 構成比
MDC01 神経系	4,306	4,437	4,229	3,737	3,915	4,179	▲2.9%	5.7%
MDC02 眼科系	5,836	5,693	3,812	3,817	4,398	4,553	▲22.0%	6.2%
MDC03 耳鼻咽喉科系	2,949	3,129	2,269	2,044	1,968	2,320	▲21.3%	3.2%
MDC04 呼吸器系	13,200	13,152	9,434	8,861	9,297	11,609	▲12.1%	15.8%
MDC05 循環器系	9,187	9,144	8,406	8,019	8,035	7,901	▲14.0%	10.8%
MDC06 消化器系、肝臓・胆道・膵臓	16,029	16,916	16,898	16,847	17,217	17,482	9.1%	23.8%
MDC07 筋骨格系	3,835	3,778	3,031	2,836	3,026	3,218	▲16.1%	4.4%
MDC08 皮膚・皮下組織	951	1,012	899	802	807	966	1.6%	1.3%
MDC09 乳房	815	782	711	674	724	790	▲3.1%	1.1%
MDC10 内分泌・栄養・代謝	2,521	2,410	1,990	1,906	2,067	2,081	▲17.5%	2.8%
MDC11 腎・泌尿系及び男性生殖器系	5,802	6,053	5,712	5,582	5,897	6,032	4.0%	8.2%
MDC12 女性生殖器系及び産褥期・異常妊娠分娩	3,555	3,404	3,284	3,005	2,966	2,949	▲17.0%	4.0%
MDC13 血液・造血管器・免疫機構	1,051	1,068	1,331	990	925	962	▲8.5%	1.3%
MDC14 新生児、先天性奇形	965	962	1,026	1,011	951	854	▲11.5%	1.2%
MDC15 小児	324	269	180	160	187	171	▲47.2%	0.2%
MDC16 外傷・熱傷・中毒	5,698	5,512	5,038	5,013	5,337	5,758	1.1%	7.9%
MDC17 精神	111	95	72	65	52	106	▲4.5%	0.1%
MDC18 その他	1,135	1,133	1,271	1,179	1,134	1,415	24.7%	1.9%
総計	78,270	78,949	69,593	66,548	68,903	73,346	▲6.3%	100.0%

3/ 医療需要の将来推計

人口推計と受療率をもとに、将来の医療・介護需要を整理する。

疾患領域別の患者数推計

入院・外来・在宅の需要構造

2040年以降の需要変化

将来の患者数の増減や需要構造の変化を把握し、地域医療における課題を整理する。
需要の時間的な変化を踏まえ、機能転換や医療資源配分を検討するための基礎資料とする。

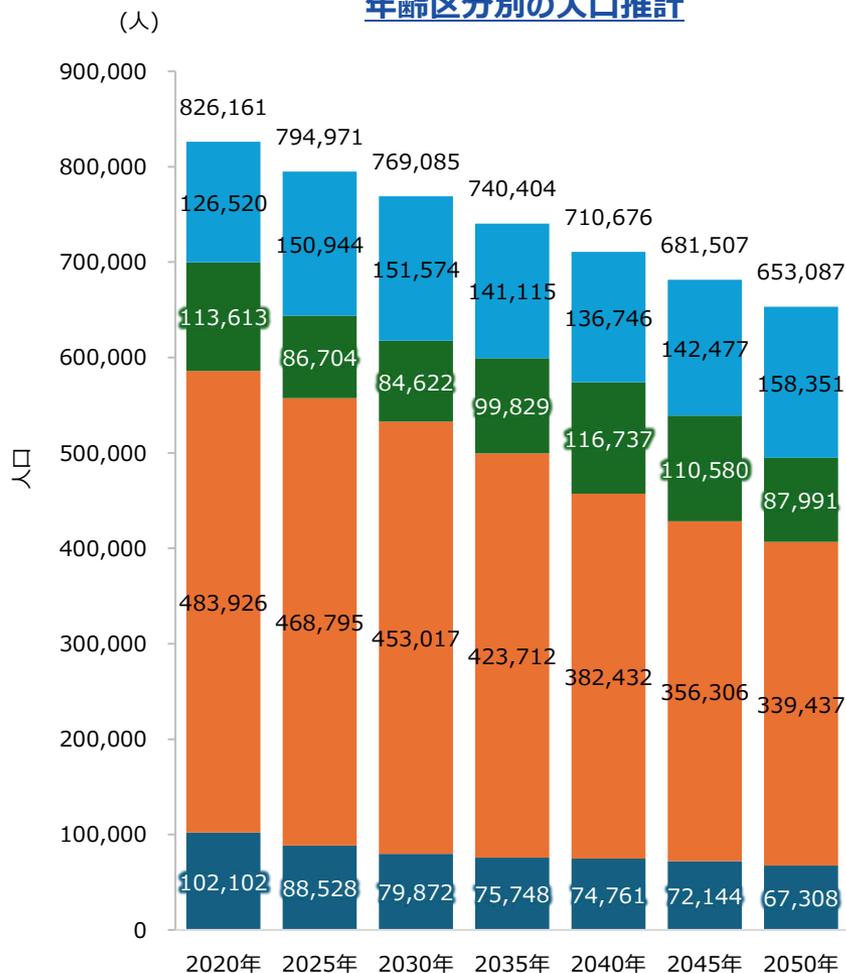
堺市医療圏 | 人口推計

2050年までの人口の将来推計を示しています。

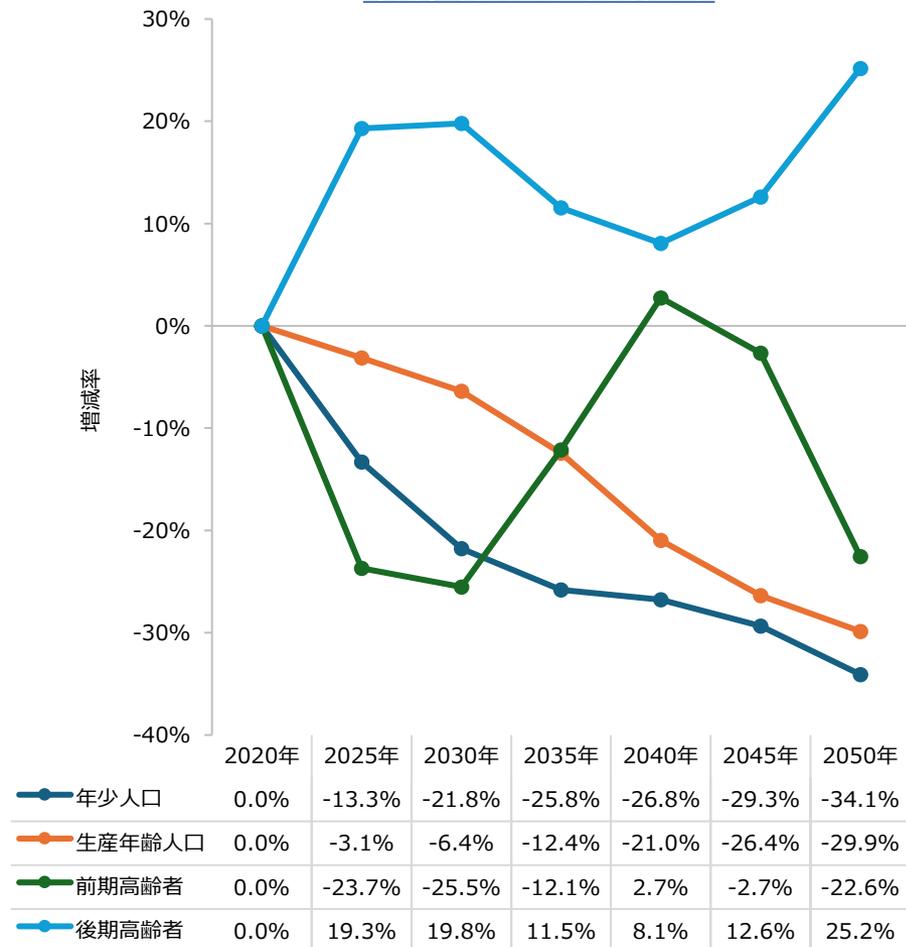
多くの地域において、総人口は減少しますが、高齢者人口は増加傾向にあります。

特に、医療介護の複合的なニーズを持つ後期高齢者の増加幅と、支え手となる生産年齢人口の減少幅について確認が必要です。

年齢区分別の人口推計



年齢区分別の人口増減率

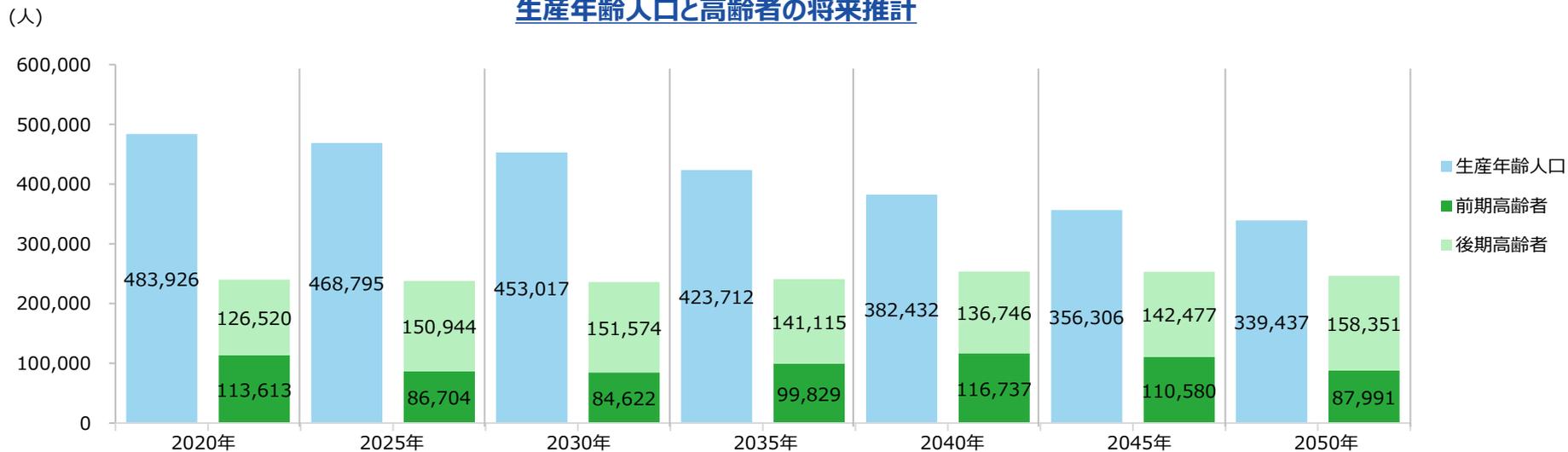


堺市医療圏 | 高齢化の状況

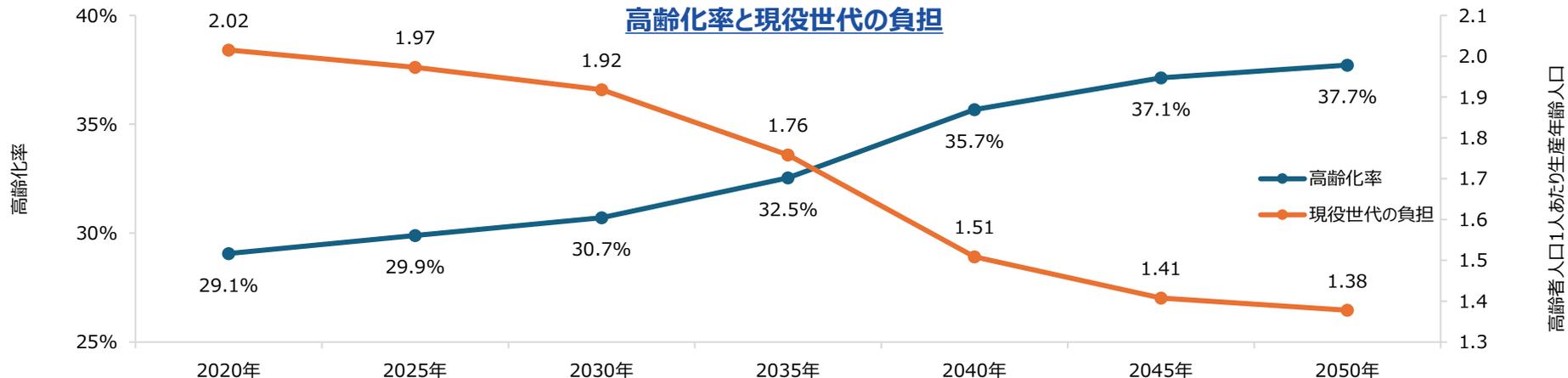
高齢化率と現役世代の負担（高齢者1人あたり生産年齢人口）を示しています。

全国の2020年時点の高齢化率は28.6%、現役世代の負担は2.1となっています。

生産年齢人口と高齢者の将来推計



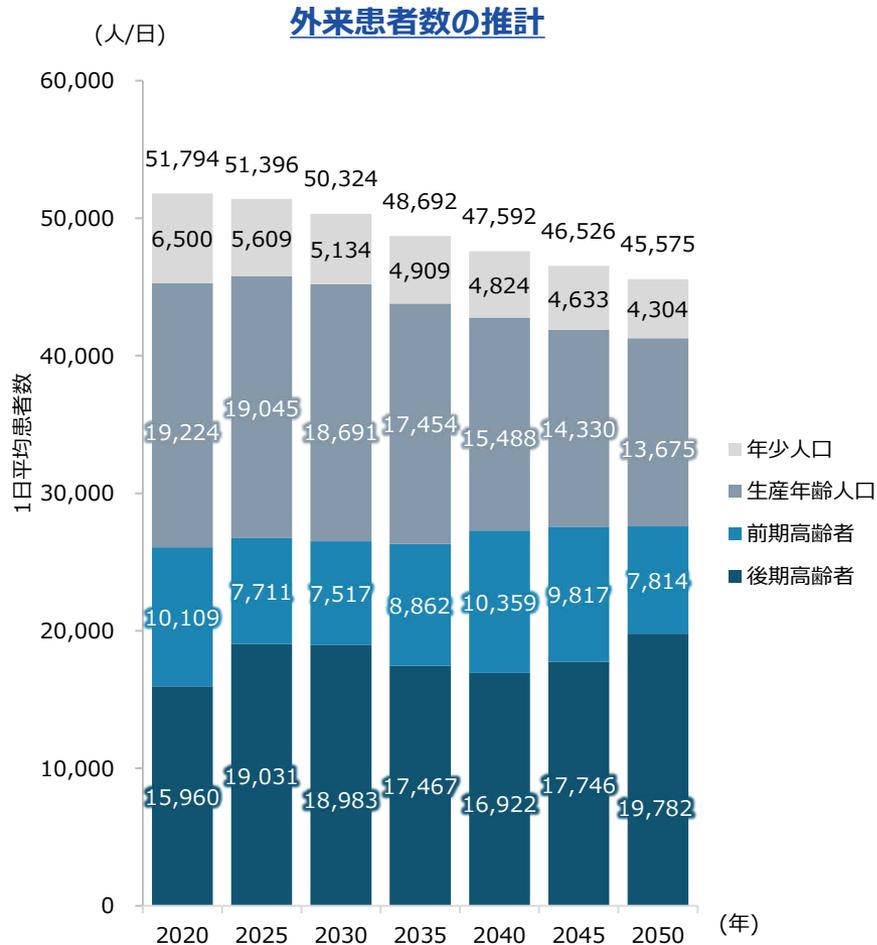
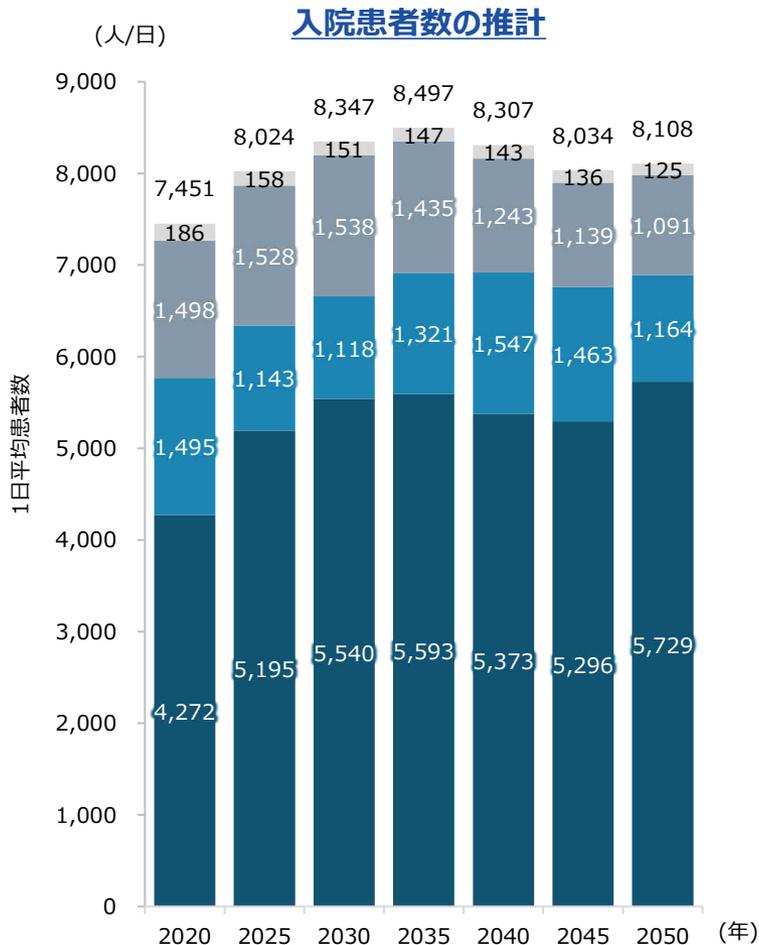
高齢化率と現役世代の負担



堺市医療圏 | 1日平均患者数

都道府県受療率に基づく、2050年までの入院患者数および外来患者数の需要予測を示しています。

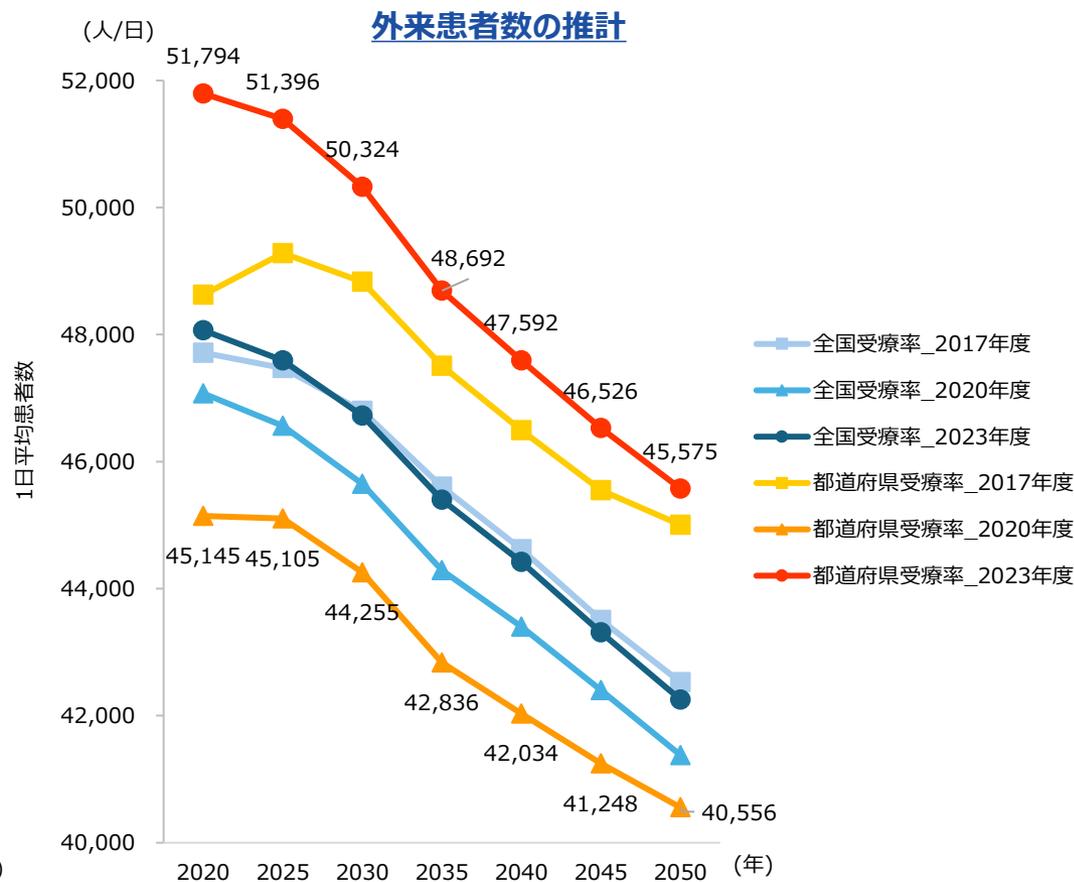
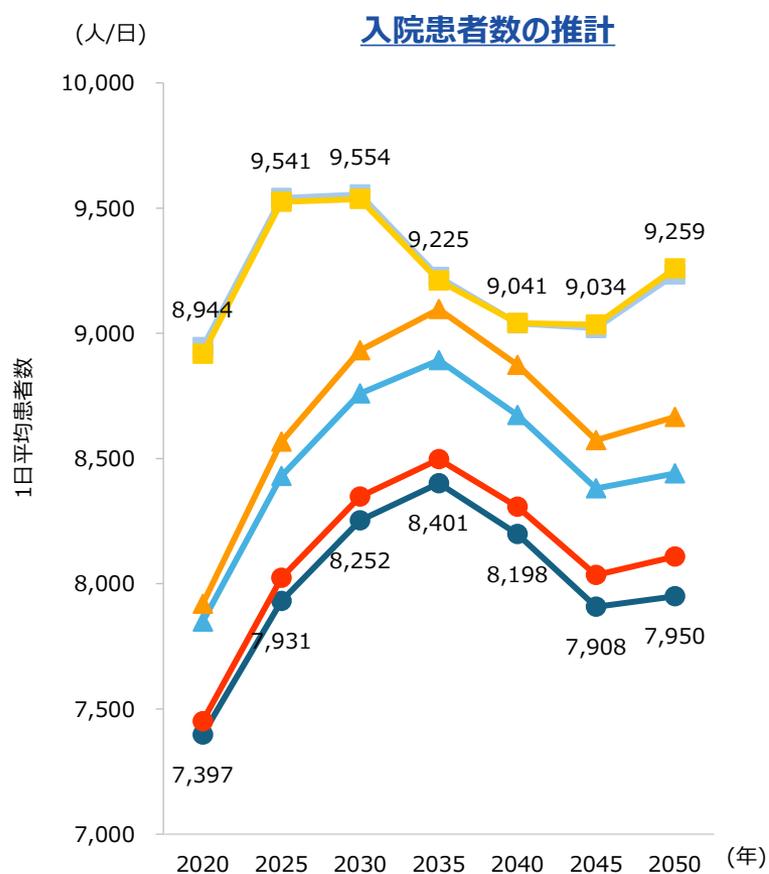
多くの地域では入院需要が増加、外来需要が減少傾向にあり、需要の変化に合わせた医療提供体制の構築が求められます。



堺市医療圏 | 受療率の比較

3つの調査年（2017年、2020年、2023年）における、全国および都道府県の受療率を対象医療圏の人口に乗じて算出した患者数の将来推計を示しています。

全国の受療率よりも受療率が高い場合は、入院需要の縮小のリスクが想定されます。



堺市医療圏 | ICD別の入院患者数推計

疾患別の入院患者数の将来推計を示しています。

ICD分類	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
I 感染症及び寄生虫症	105	113	116	117	114	111	113
II 新生物<腫瘍>	807	826	823	810	809	803	801
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	42	44	46	46	45	44	44
IV 内分泌, 栄養及び代謝疾患	203	221	234	242	236	226	228
V 精神及び行動の障害	1,139	1,160	1,166	1,148	1,116	1,079	1,053
VI 神経系の疾患	638	700	726	732	715	698	714
VII 眼及び付属器の疾患	85	87	86	83	84	84	85
VIII 耳及び乳様突起の疾患	13	13	13	12	12	11	11
IX 循環器系の疾患	1,225	1,362	1,450	1,504	1,469	1,413	1,437
X 呼吸器系の疾患	562	638	686	720	698	668	690
X I 消化器系の疾患	376	400	411	413	405	395	398
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	81	89	95	99	95	91	92
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	553	600	625	636	626	609	617
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	311	343	360	369	360	349	358
X V 妊娠, 分娩及び産じょく	76	69	68	67	65	60	54
X VI 周産期に発生した病態	56	47	47	47	45	42	38
X VII 先天奇形, 変形及び染色体異常	35	32	31	30	29	27	26
X VIII 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	160	180	195	206	201	192	195
X IX 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	847	941	1,001	1,039	1,011	969	986
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	37	39	41	43	42	39	38
X X II 特殊目的用コード	105	122	132	138	133	128	134
総数	7,455	8,028	8,352	8,501	8,311	8,038	8,111

堺市医療圏 | ICD別の入院患者数増減率

疾患別の入院患者数の将来推計の増減率を示しています。

ICD分類	1日平均患者数 2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
I 感染症及び寄生虫症	105	7.4%	10.6%	11.3%	8.7%	5.8%	7.3%
II 新生物<腫瘍>	807	2.4%	2.0%	0.3%	0.3%	-0.5%	-0.8%
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	42	5.7%	9.7%	10.8%	8.1%	4.7%	4.8%
IV 内分泌, 栄養及び代謝疾患	203	9.3%	15.4%	19.4%	16.4%	11.5%	12.7%
V 精神及び行動の障害	1,139	1.9%	2.4%	0.8%	-2.0%	-5.3%	-7.5%
VI 神経系の疾患	638	9.6%	13.7%	14.6%	12.0%	9.3%	11.9%
VII 眼及び付属器の疾患	85	2.5%	0.6%	-2.6%	-1.7%	-1.0%	-0.9%
VIII 耳及び乳様突起の疾患	13	2.3%	-0.8%	-7.2%	-11.9%	-13.4%	-13.2%
IX 循環器系の疾患	1,225	11.2%	18.4%	22.8%	20.0%	15.3%	17.3%
X 呼吸器系の疾患	562	13.5%	22.2%	28.2%	24.3%	18.9%	22.8%
X I 消化器系の疾患	376	6.4%	9.2%	9.9%	7.8%	5.1%	5.9%
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	81	10.4%	17.7%	21.6%	17.7%	12.4%	13.8%
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	553	8.5%	13.0%	15.0%	13.2%	10.1%	11.5%
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	311	10.5%	15.9%	18.7%	15.9%	12.3%	15.2%
X V 妊娠, 分娩及び産じょく	76	-8.8%	-9.9%	-11.0%	-14.5%	-20.8%	-28.8%
X VI 周産期に発生した病態	56	-16.2%	-16.3%	-16.3%	-19.8%	-25.0%	-32.0%
X VII 先天奇形, 変形及び染色体異常	35	-9.7%	-11.3%	-13.5%	-17.1%	-21.5%	-26.8%
X VIII 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	160	12.3%	21.6%	28.8%	25.8%	19.7%	21.6%
X IX 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	847	11.2%	18.2%	22.7%	19.4%	14.4%	16.4%
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	37	3.4%	8.9%	14.9%	11.4%	3.8%	1.1%
X X II 特殊目的用コード	105	16.2%	25.6%	31.2%	27.0%	22.1%	27.4%
総数	7,455	7.7%	12.0%	14.0%	11.5%	7.8%	8.8%

堺市医療圏 | ICD別の外来患者数推計

疾患別の外来患者数の将来推計を示しています。

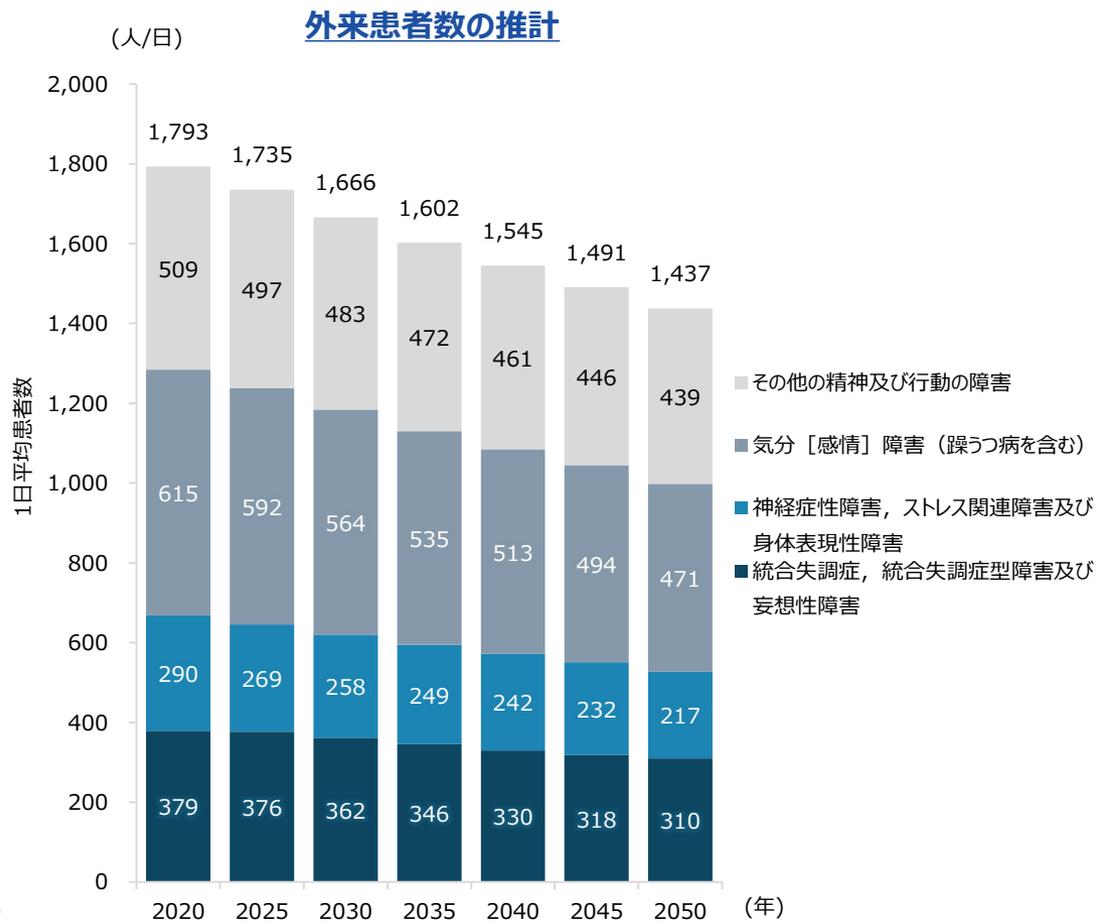
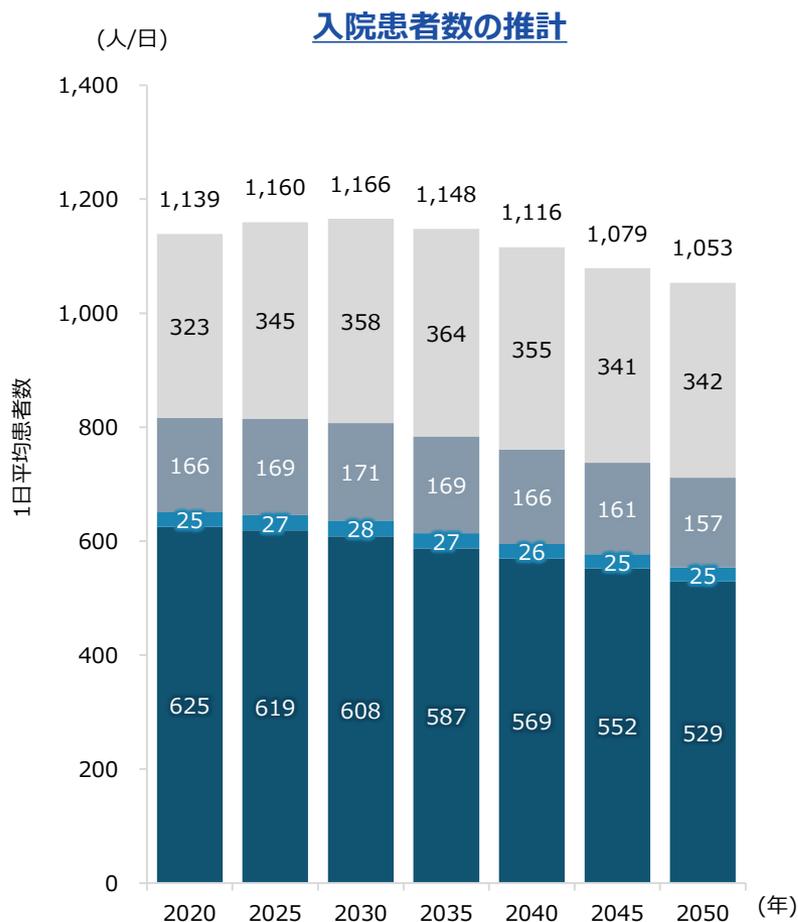
ICD分類	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
I 感染症及び寄生虫症	890	857	829	785	750	727	703
II 新生物<腫瘍>	1,827	1,840	1,818	1,775	1,759	1,734	1,706
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	96	92	85	80	78	77	75
IV 内分泌, 栄養及び代謝疾患	3,131	3,165	3,105	2,995	2,975	2,955	2,916
V 精神及び行動の障害	1,793	1,735	1,666	1,602	1,545	1,491	1,437
VI 神経系の疾患	1,125	1,151	1,172	1,184	1,154	1,103	1,079
VII 眼及び付属器の疾患	1,915	1,926	1,897	1,828	1,774	1,733	1,704
VIII 耳及び乳様突起の疾患	637	622	618	614	598	574	558
IX 循環器系の疾患	6,393	6,681	6,699	6,572	6,559	6,531	6,567
X 呼吸器系の疾患	4,926	4,536	4,305	4,133	3,998	3,836	3,637
X I 消化器系の疾患	10,154	9,955	9,618	9,186	8,880	8,641	8,391
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	2,107	2,020	1,936	1,851	1,784	1,724	1,661
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	4,683	4,847	4,818	4,677	4,639	4,608	4,604
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	2,155	2,186	2,150	2,076	2,008	1,963	1,945
X V 妊娠, 分娩及び産じょく	90	81	80	79	76	71	64
X VI 周産期に発生した病態	27	23	22	21	20	19	18
X VII 先天奇形, 変形及び染色体異常	149	130	120	115	113	108	100
X VIII 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	642	642	639	635	628	611	597
X IX 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	1,629	1,622	1,582	1,511	1,449	1,406	1,378
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	6,964	6,876	6,773	6,590	6,438	6,268	6,116
X X II 特殊目的用コード	460	406	391	380	364	344	318
総数	51,792	51,394	50,322	48,690	47,590	46,524	45,574

堺市医療圏 | ICD別の外来患者数増減率

疾患別の外来患者数の将来推計の増減率を示しています。

ICD分類	1日平均患者数 2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
I 感染症及び寄生虫症	890	-3.7%	-6.9%	-11.8%	-15.7%	-18.4%	-21.0%
II 新生物<腫瘍>	1,827	0.8%	-0.5%	-2.8%	-3.7%	-5.1%	-6.6%
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	96	-4.5%	-11.7%	-16.7%	-18.4%	-19.6%	-21.5%
IV 内分泌, 栄養及び代謝疾患	3,131	1.1%	-0.8%	-4.3%	-5.0%	-5.6%	-6.9%
V 精神及び行動の障害	1,793	-3.2%	-7.1%	-10.7%	-13.8%	-16.9%	-19.8%
VI 神経系の疾患	1,125	2.2%	4.2%	5.3%	2.5%	-2.0%	-4.2%
VII 眼及び付属器の疾患	1,915	0.6%	-0.9%	-4.5%	-7.3%	-9.5%	-11.0%
VIII 耳及び乳様突起の疾患	637	-2.3%	-2.9%	-3.6%	-6.1%	-10.0%	-12.5%
IX 循環器系の疾患	6,393	4.5%	4.8%	2.8%	2.6%	2.2%	2.7%
X 呼吸器系の疾患	4,926	-7.9%	-12.6%	-16.1%	-18.8%	-22.1%	-26.2%
X I 消化器系の疾患	10,154	-2.0%	-5.3%	-9.5%	-12.5%	-14.9%	-17.4%
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	2,107	-4.1%	-8.1%	-12.2%	-15.3%	-18.2%	-21.2%
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	4,683	3.5%	2.9%	-0.1%	-0.9%	-1.6%	-1.7%
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	2,155	1.4%	-0.2%	-3.7%	-6.8%	-8.9%	-9.7%
X V 妊娠, 分娩及び産じょく	90	-9.8%	-11.4%	-12.2%	-15.0%	-20.7%	-28.4%
X VI 周産期に発生した病態	27	-14.5%	-18.7%	-20.9%	-23.4%	-27.4%	-33.1%
X VII 先天奇形, 変形及び染色体異常	149	-12.3%	-19.5%	-23.0%	-24.3%	-27.4%	-32.6%
X VIII 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	642	0.1%	-0.4%	-1.1%	-2.1%	-4.8%	-6.9%
X IX 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	1,629	-0.4%	-2.9%	-7.2%	-11.1%	-13.7%	-15.4%
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	6,964	-1.3%	-2.7%	-5.4%	-7.5%	-10.0%	-12.2%
X X II 特殊目的用コード	460	-11.6%	-14.8%	-17.4%	-20.8%	-25.1%	-30.9%
総数	51,792	-0.8%	-2.8%	-6.0%	-8.1%	-10.2%	-12.0%

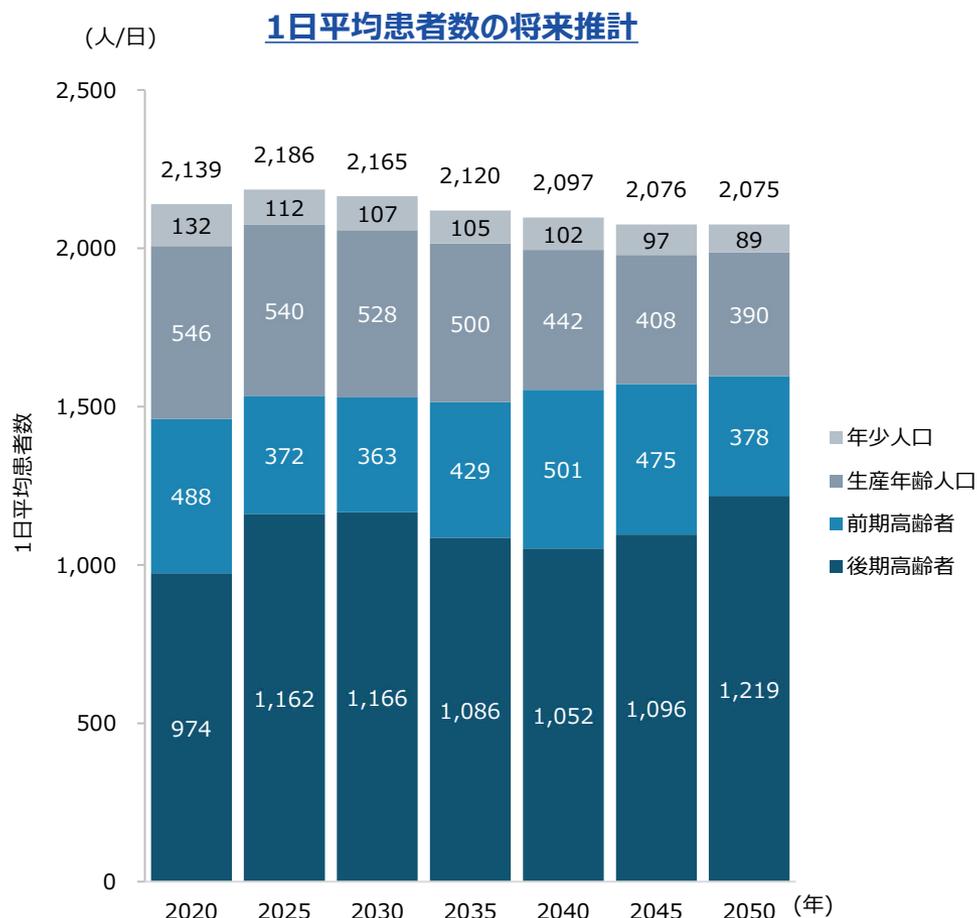
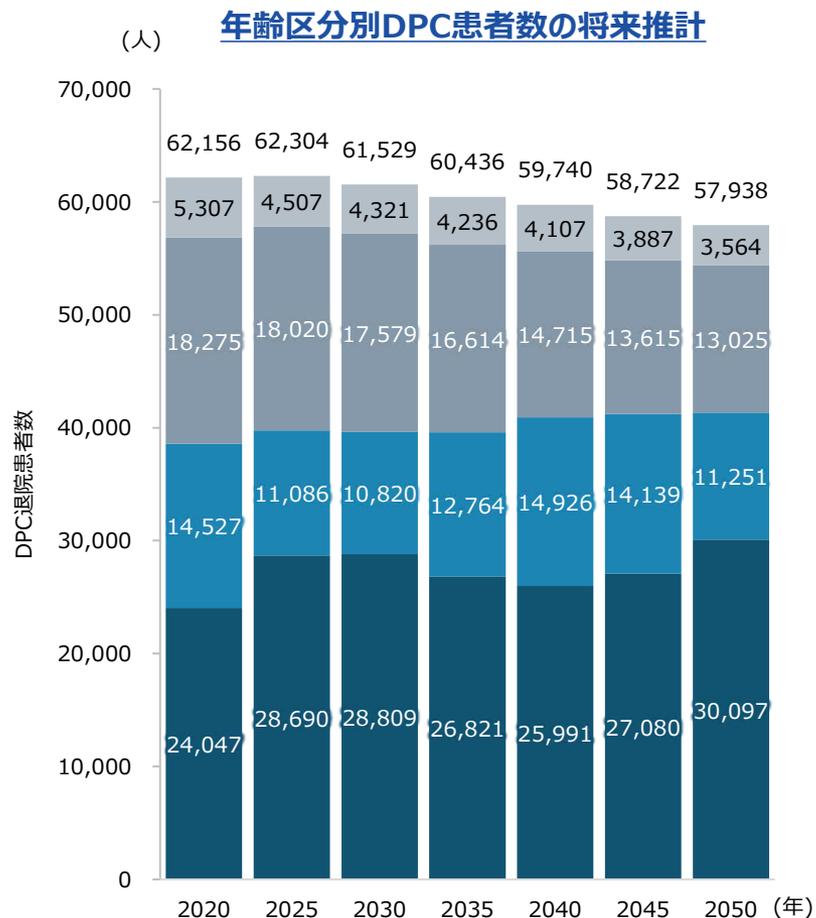
堺市医療圏 | 精神病床の1日平均患者数



堺市医療圏 | DPC患者数の推計

年齢層別のDPC患者数の将来推計を示しています。

多くの地域は後期高齢者のDPC患者数および1日平均患者数が増加傾向にありますが、その他の人口において減少が見られ、従来の手術を中心とした急性期医療は減少する見込みです。



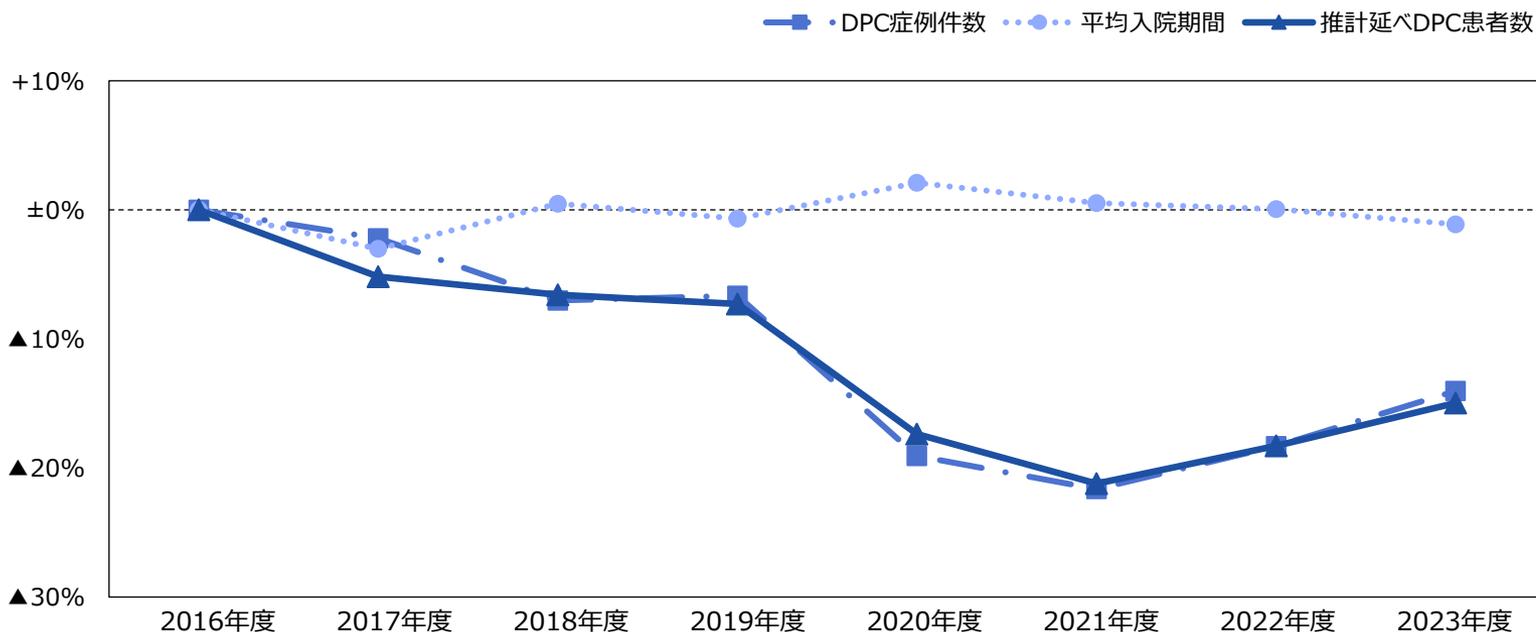
出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」（厚生労働省）を用いてDPCコード、年齢別の発生率を計算。その発生率と「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計。1日平均患者数は各DPCコードのDPC別平均入院日数をかけた後に365日で除して試算。

参考：堺市医療圏 | DPC症例数と平均入院期間の推移

(2016～2023年度にDPCに参加した病院)

当該医療圏内のDPC参加病院におけるDPC症例数と入院期間の推移を示しています。

DPCの延べ患者数の減少が症例数の減少によるものか、平均入院期間の短縮によるものか確認をします。



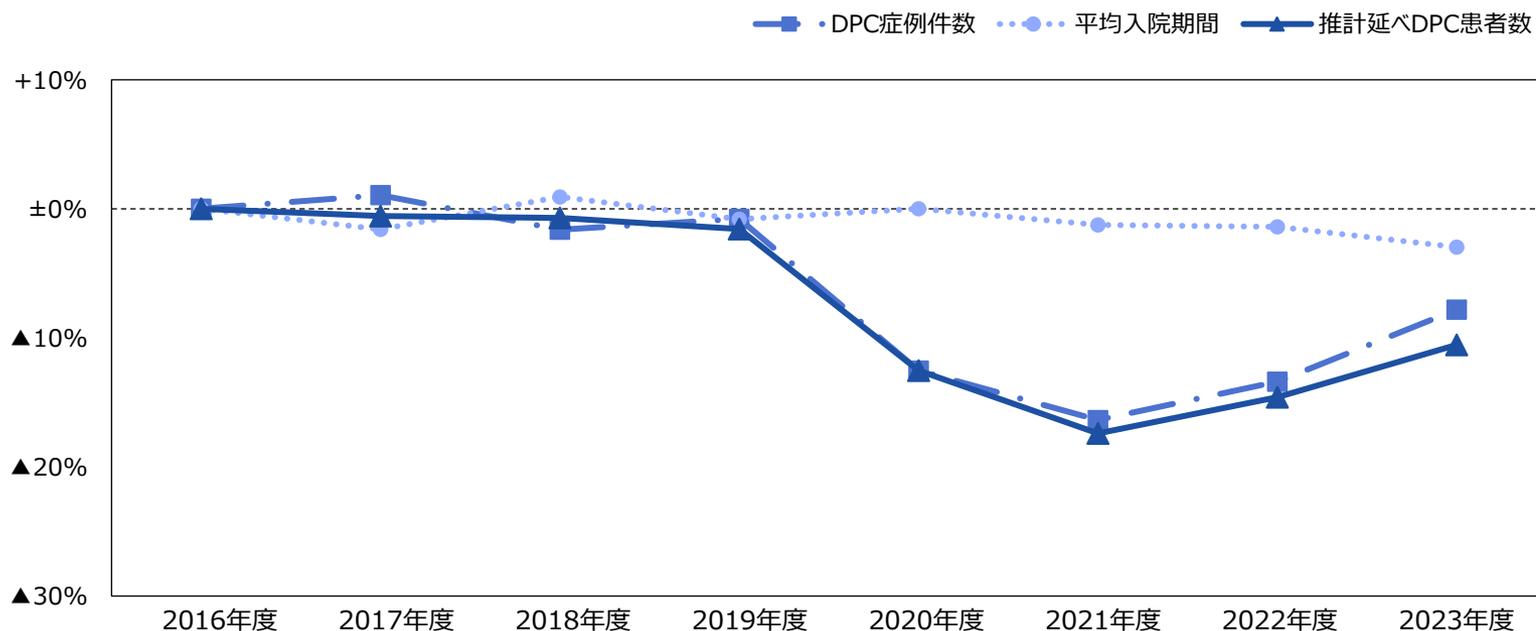
	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
対象病院数	9	9	9	9	9	9	9	9
DPC症例件数	72,250	70,651	67,176	67,447	58,470	56,620	59,014	62,119
(2016年比)	-	▲2.2%	▲7.0%	▲6.6%	▲19.1%	▲21.6%	▲18.3%	▲14.0%
平均入院期間	10.9	10.6	11.0	10.9	11.2	11.0	10.9	10.8
(2016年比)	-	▲3.0%	+0.5%	▲0.7%	+2.1%	+0.5%	±0.0%	▲1.1%
推計延べDPC患者数	789,601	748,783	737,714	732,026	652,401	622,115	645,254	671,350
(2016年比)	-	▲5.2%	▲6.6%	▲7.3%	▲17.4%	▲21.2%	▲18.3%	▲15.0%

参考：堺市医療圏 | DPC症例数と平均入院期間の推移

(全病院：出来高病院を含む)

出来高病院を含むDPC症例数と入院期間の推移を示しています。

DPCの延べ患者数の減少が症例数の減少によるものか、平均入院期間の短縮によるものか確認をします。



	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
対象病院数	22	22	29	31	32	33	33	36
DPC症例件数	79,562	80,403	78,270	78,949	69,593	66,548	68,903	73,346
(2016年比)	-	+1.1%	▲1.6%	▲0.8%	▲12.5%	▲16.4%	▲13.4%	▲7.8%
平均入院期間	11.3	11.2	11.5	11.3	11.3	11.2	11.2	11.0
(2016年比)	-	▲1.6%	+0.9%	▲0.8%	±0.0%	▲1.2%	▲1.4%	▲3.0%
推計延べDPC患者数	902,727	897,822	896,292	888,501	789,628	745,661	770,984	807,521
(2016年比)	-	▲0.5%	▲0.7%	▲1.6%	▲12.5%	▲17.4%	▲14.6%	▲10.5%

参考：都道府県別DPC参加病院の平均入院日数の推移（2016～2023年度）

全国および都道府県の平均入院日数の推移を示しています。

全ての都道府県で在院日数が短縮されており、今後も政策効果等の影響で短縮していくことが見込まれます。

No.	都道府県	2016年度	2018年度	2023年度	変化率		No.	都道府県	2016年度	2018年度	2023年度	変化率	
					2018対2016	2023対2016						2018対2016	2023対2016
-	全国計	12.43	12.05	11.72	▲3.0%	▲5.7%	24	三重県	12.58	12.10	11.78	▲3.8%	▲6.3%
1	北海道	12.49	12.10	11.67	▲3.1%	▲6.5%	25	滋賀県	12.51	12.01	11.53	▲4.0%	▲7.8%
2	青森県	13.82	13.23	13.26	▲4.3%	▲4.0%	26	京都府	12.16	11.71	11.22	▲3.7%	▲7.8%
3	岩手県	12.87	12.48	12.25	▲3.0%	▲4.8%	27	大阪府	12.22	11.77	11.41	▲3.7%	▲6.7%
4	宮城県	12.42	11.72	11.41	▲5.6%	▲8.2%	28	兵庫県	11.95	11.54	11.47	▲3.4%	▲4.0%
5	秋田県	12.89	12.53	12.15	▲2.8%	▲5.7%	29	奈良県	12.50	12.36	11.99	▲1.1%	▲4.1%
6	山形県	13.03	12.84	12.74	▲1.5%	▲2.2%	30	和歌山県	13.33	12.60	12.53	▲5.5%	▲6.0%
7	福島県	13.40	13.13	12.53	▲2.0%	▲6.5%	31	鳥取県	13.01	12.35	12.29	▲5.1%	▲5.5%
8	茨城県	12.45	12.21	11.78	▲2.0%	▲5.4%	32	島根県	12.67	12.00	11.66	▲5.3%	▲8.0%
9	栃木県	12.90	12.79	12.48	▲0.9%	▲3.3%	33	岡山県	12.15	12.03	11.50	▲1.0%	▲5.3%
10	群馬県	12.16	11.69	11.68	▲3.9%	▲3.9%	34	広島県	12.36	12.15	11.36	▲1.7%	▲8.1%
11	埼玉県	12.49	12.19	11.98	▲2.4%	▲4.1%	35	山口県	13.50	12.99	12.73	▲3.8%	▲5.7%
12	千葉県	12.19	12.01	12.07	▲1.5%	▲1.0%	36	徳島県	12.08	11.76	11.77	▲2.6%	▲2.6%
13	東京都	11.94	11.58	11.16	▲3.0%	▲6.5%	37	香川県	12.79	12.41	12.06	▲2.9%	▲5.7%
14	神奈川県	11.70	11.25	11.25	▲3.8%	▲3.9%	38	愛媛県	13.01	12.69	12.03	▲2.5%	▲7.6%
15	新潟県	13.08	12.83	12.45	▲1.9%	▲4.8%	39	高知県	13.38	13.17	11.99	▲1.6%	▲10.4%
16	富山県	12.31	12.03	11.70	▲2.3%	▲4.9%	40	福岡県	12.79	12.52	12.13	▲2.1%	▲5.2%
17	石川県	12.91	12.50	11.65	▲3.2%	▲9.8%	41	佐賀県	13.61	13.12	12.71	▲3.6%	▲6.6%
18	福井県	12.43	11.82	11.53	▲4.9%	▲7.2%	42	長崎県	13.19	12.47	12.07	▲5.5%	▲8.5%
19	山梨県	11.88	11.61	11.76	▲2.3%	▲1.0%	43	熊本県	12.82	12.33	12.05	▲3.8%	▲6.0%
20	長野県	12.22	11.97	11.67	▲2.1%	▲4.5%	44	大分県	13.58	13.00	12.12	▲4.2%	▲10.7%
21	岐阜県	12.25	12.09	11.74	▲1.3%	▲4.2%	45	宮崎県	13.43	12.74	11.93	▲5.1%	▲11.2%
22	静岡県	12.58	12.32	11.96	▲2.0%	▲4.9%	46	鹿児島県	13.17	12.92	12.13	▲1.8%	▲7.9%
23	愛知県	12.21	11.74	11.39	▲3.8%	▲6.7%	47	沖縄県	12.35	12.07	11.90	▲2.3%	▲3.6%

参考：堺市医療圏 | DPC参加病院の平均入院日数の推移

当該医療圏のMDC別の平均入院期間の推移を示しています。

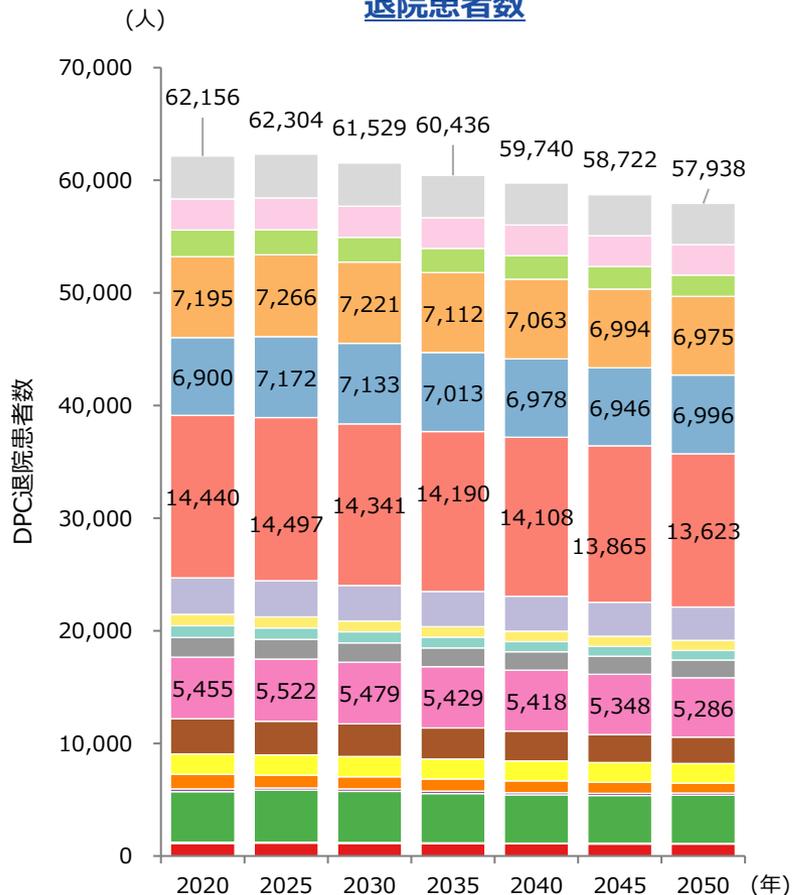
MDC名称	2016年度	2018年度	2023年度	変化率	
				2018対2016	2023対2016
01_神経系	15.36	16.59	15.60	8.0%	1.6%
02_眼科系	3.43	4.21	4.34	22.7%	26.5%
03_耳鼻咽喉系	8.04	7.75	7.52	▲3.6%	▲6.5%
04_呼吸器系	13.00	13.42	12.81	3.2%	▲1.5%
05_循環器系	10.39	10.22	10.52	▲1.7%	1.2%
06_消化器系	10.26	10.55	9.84	2.8%	▲4.1%
07_筋骨格系	19.48	16.19	16.17	▲16.9%	▲17.0%
08_皮膚・皮下組織	10.69	10.53	10.78	▲1.5%	0.9%
09_乳房	9.88	8.88	8.29	▲10.1%	▲16.1%
10_内分泌・栄養・代謝	12.24	12.17	11.79	▲0.6%	▲3.7%
11_腎・尿路系	11.43	11.13	10.51	▲2.7%	▲8.1%
12_女性疾患	6.73	6.56	6.41	▲2.5%	▲4.7%
13_血液系	17.96	17.11	13.39	▲4.7%	▲25.5%
14_新生児	8.27	8.74	9.04	5.7%	9.3%
15_小児疾患	6.40	7.48	9.06	16.9%	41.7%
16_外傷・熱傷・中毒	13.28	12.57	12.54	▲5.3%	▲5.5%
17_精神疾患	4.20	7.76	3.22	84.7%	▲23.3%
18_その他	18.03	15.96	16.72	▲11.5%	▲7.3%
全体	10.93	10.99	10.81	0.5%	▲1.1%

堺市医療圏 | MDC別DPCの退院患者数の推計

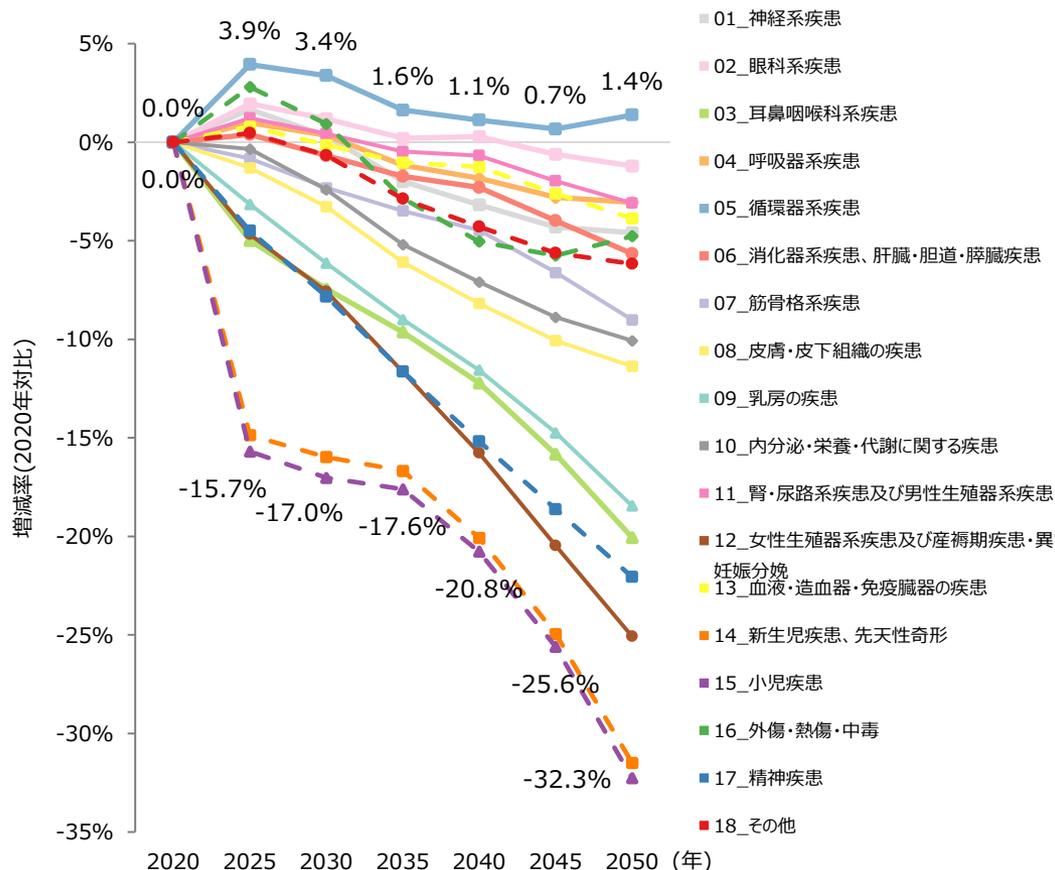
疾患別のDPC退院患者数の将来推計を示しています。

多くの地域では高齢者に多い疾患は増加傾向にあり、女性疾患や小児周産期にかかる疾患は大幅に減少する傾向にあります。

退院患者数



増減率

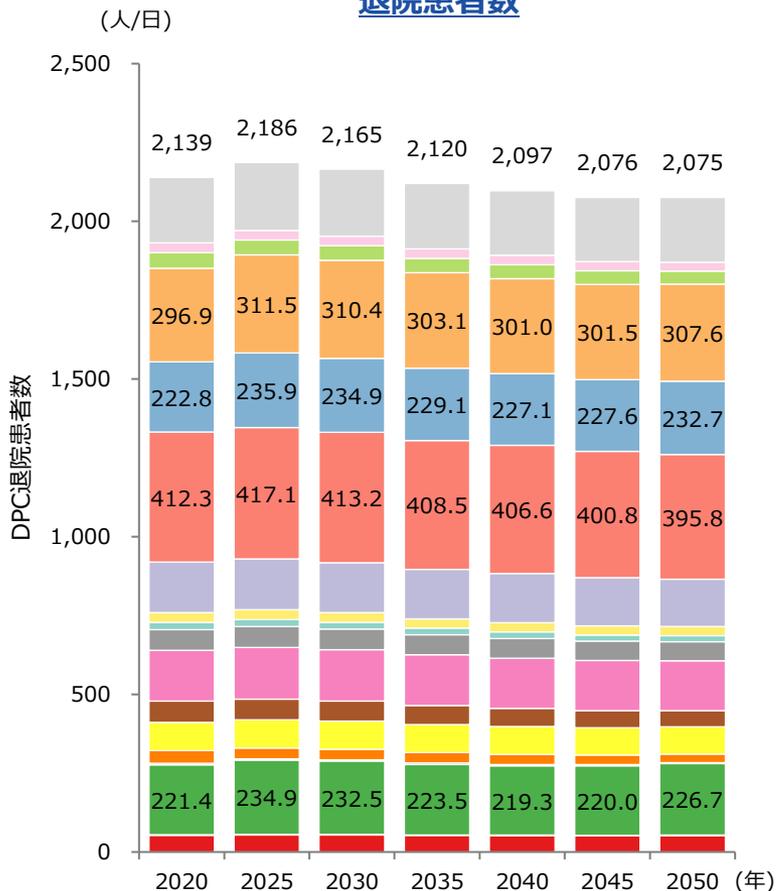


出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」（厚生労働省）を用いてDPCコード、年齢別の発生率を計算。その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計。

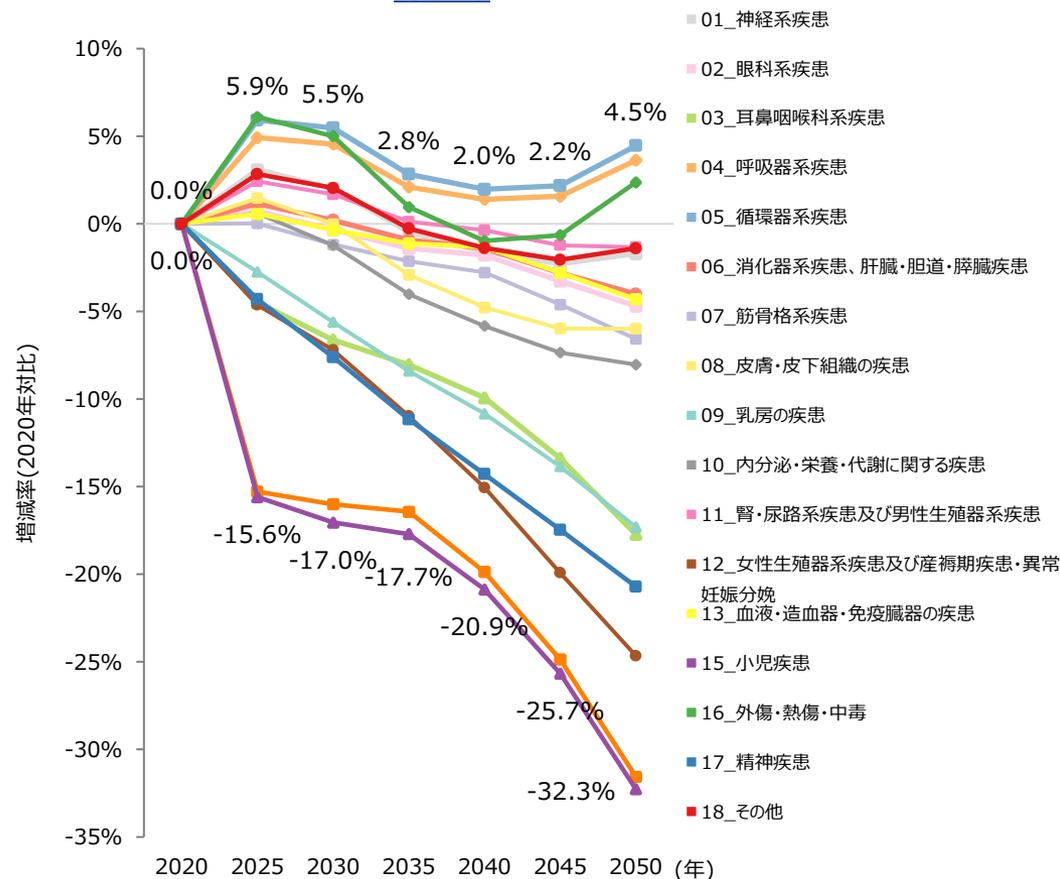
堺市医療圏 | MDC別DPCの1日平均患者数の推計

疾患別のDPCの1日平均患者数の将来推計を示しています。

退院患者数



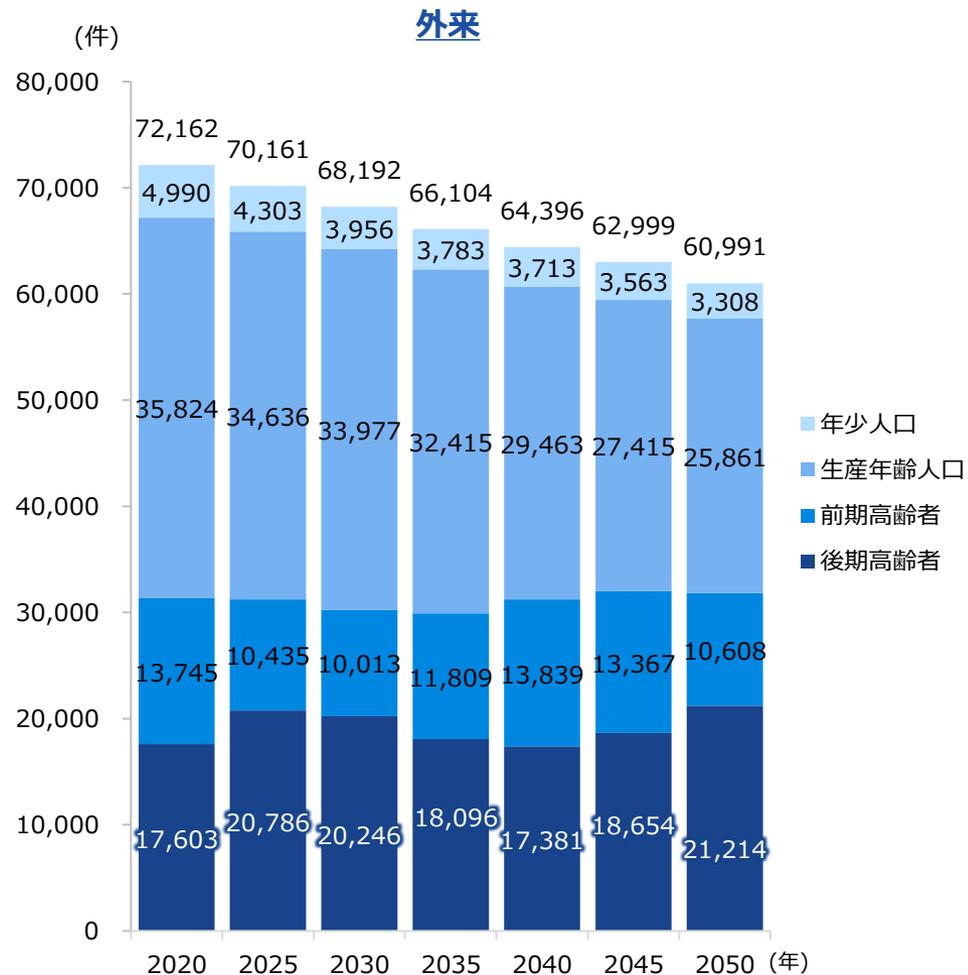
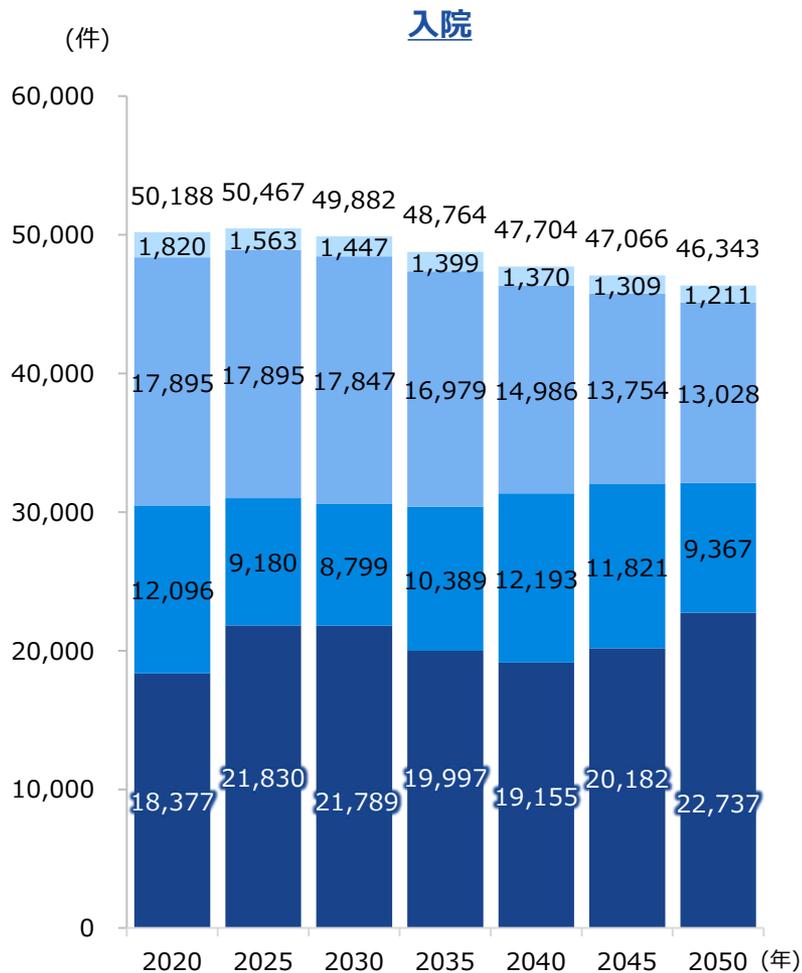
増減率



出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」（厚生労働省）を用いてDPCコード、年齢別の発生率を計算。その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計。1日平均患者数は各DPCコードのDPC別平均入院日数をかけた後に365日で除して試算。

堺市医療圏 | 手術件数の推計

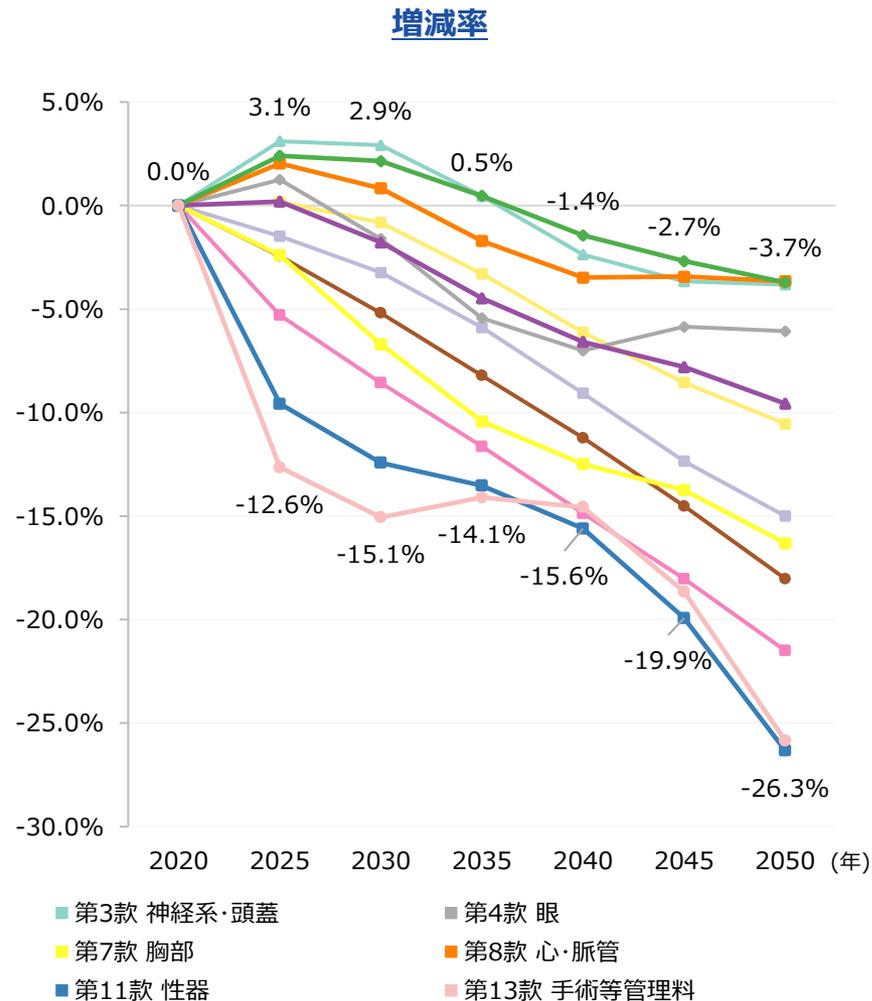
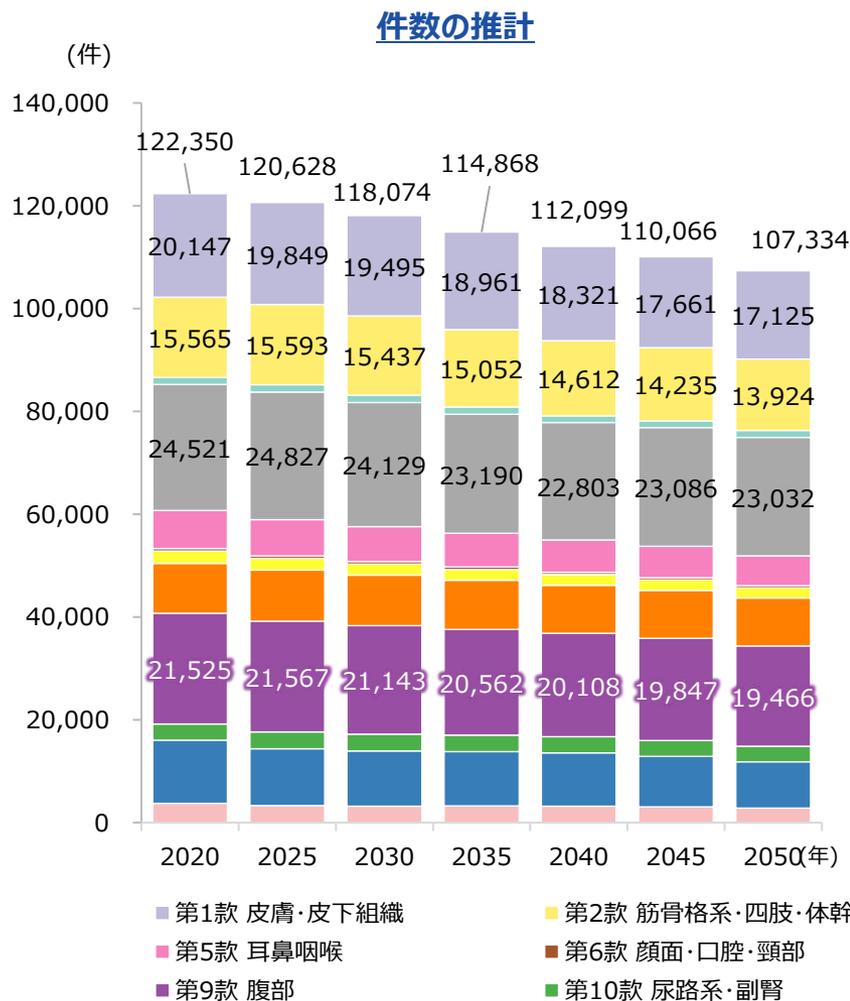
年齢区分別の入院・外来の手術件数の将来推計を示しています。



出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および第10回NDBオープンデータ（厚生労働省）
 ：2023年4月～2024年3月診療分のレセプトデータを用いて全国の性年齢別の発生率を計算。
 その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計

堺市医療圏 | 部位別の手術件数

部位別の手術件数の将来推計を示しています。

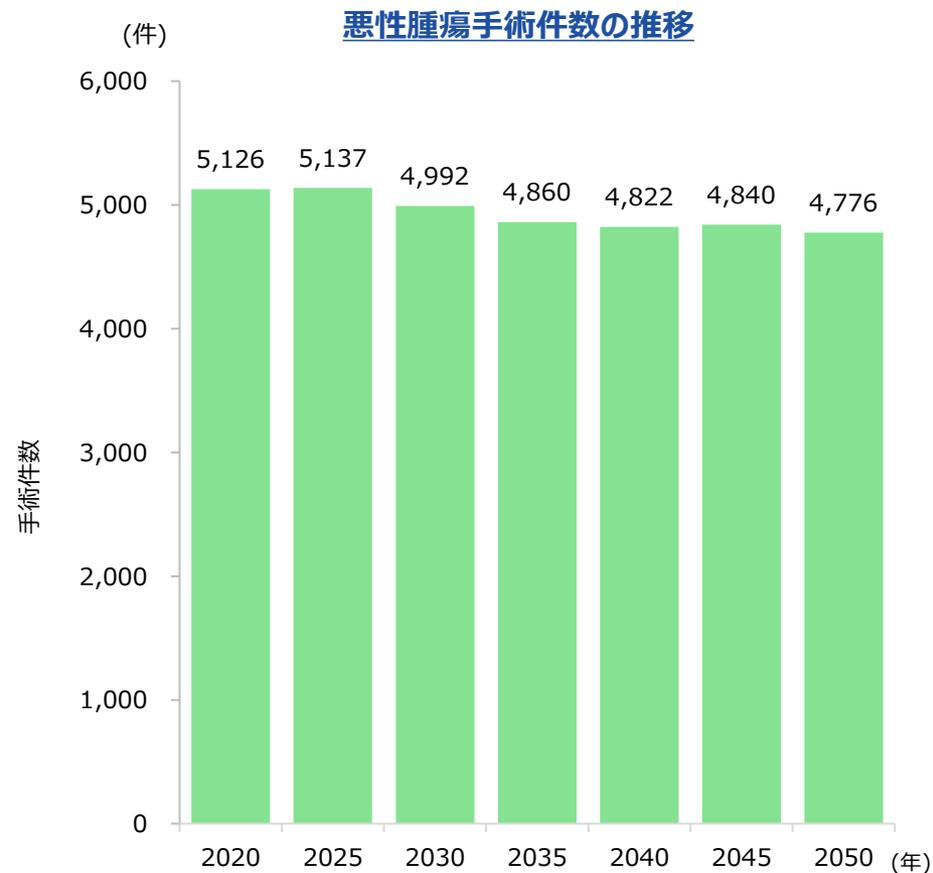
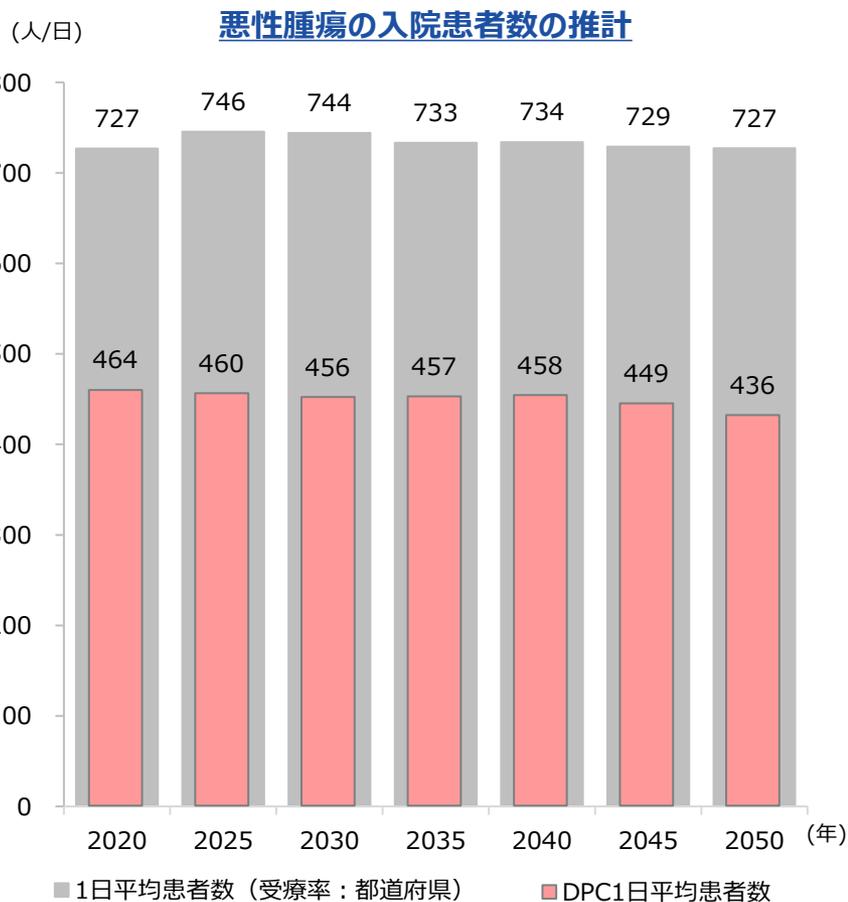


出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および第10回NDBオープンデータ（厚生労働省）
 ：2023年4月～2024年3月診療分のレセプトデータを用いて全国の性年齢別の発生率を計算。
 その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計

堺市医療圏 | 疾患別患者数の推計：悪性腫瘍

悪性腫瘍の1日平均患者数、DPCの1日平均患者数および手術件数の将来推計を示しています。

悪性腫瘍は手術療法中心の医療から放射線療法・化学療法を含めた集学的治療へシフトしていることや、低侵襲治療の発展から、推計よりも減少する可能性があります。



出典：「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」(国立社会保障・人口問題研究所)と以下の発生率を用いて推計

1日平均患者数：「令和5年患者調査」(厚生労働省)

DPC1日平均患者数：「人口推計(2023年10月1日現在)」(総務省統計局)および「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」(厚生労働省)

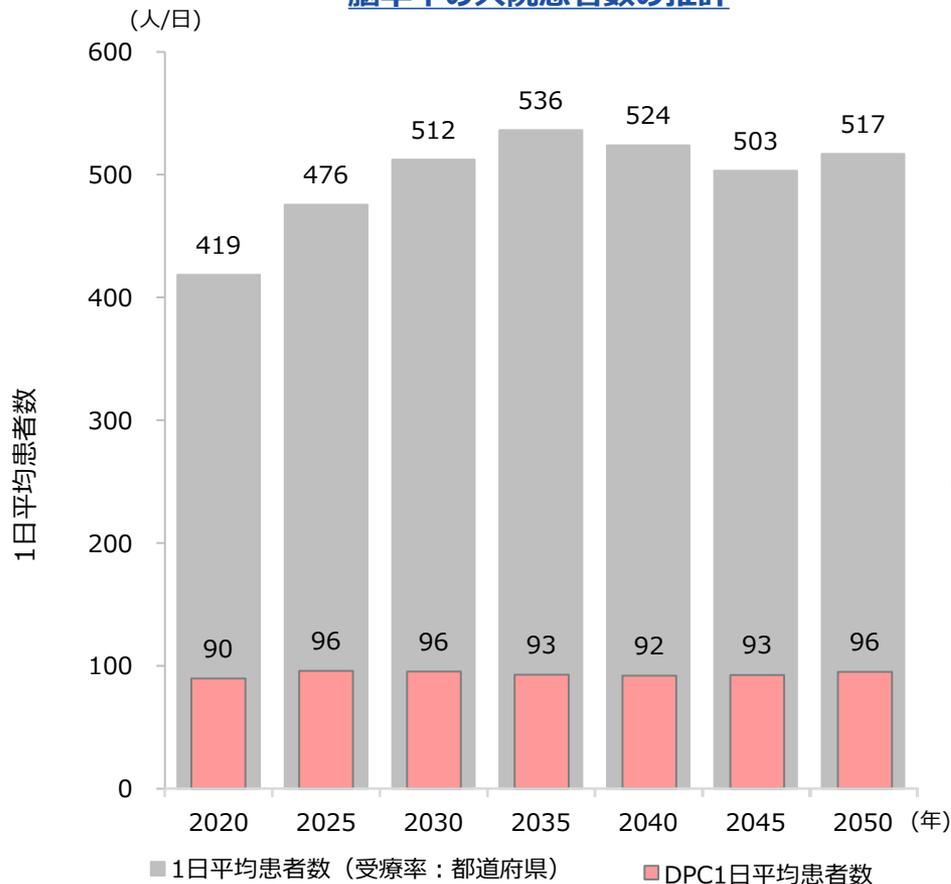
手術件数：「人口推計(2023年10月1日現在)」(総務省統計局)および第10回NDBオープンデータ(厚生労働省)

堺市医療圏 | 疾患別患者数の推計：脳卒中

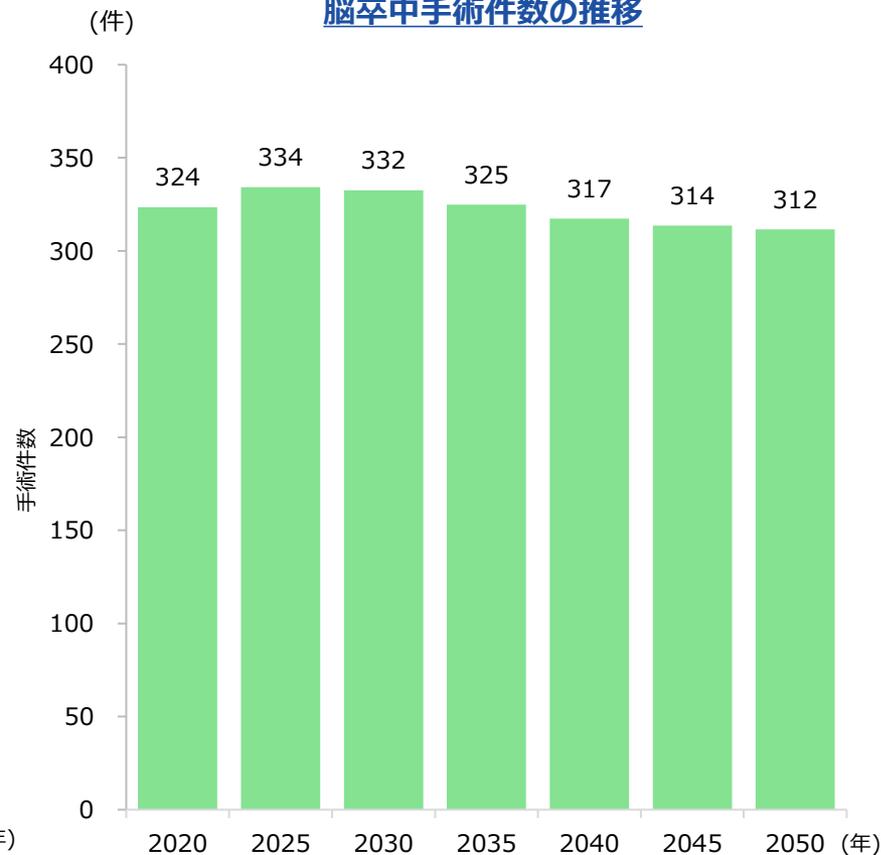
脳卒中の1日平均患者数、DPCの1日平均患者数および手術件数の将来推計を示しています。

脳卒中は急性期を脱した回復期および慢性期の患者が多く、多くの地域では患者数が増加傾向にありますが、DPC1日平均患者数および手術件数の伸びは限定的となっています。

脳卒中の入院患者数の推計



脳卒中手術件数の推移



出典：「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」(国立社会保障・人口問題研究所)と以下の発生率を用いて推計

1日平均患者数：「令和5年患者調査」(厚生労働省)

DPC1日平均患者数：「人口推計(2023年10月1日現在)」(総務省統計局)および「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」(厚生労働省)

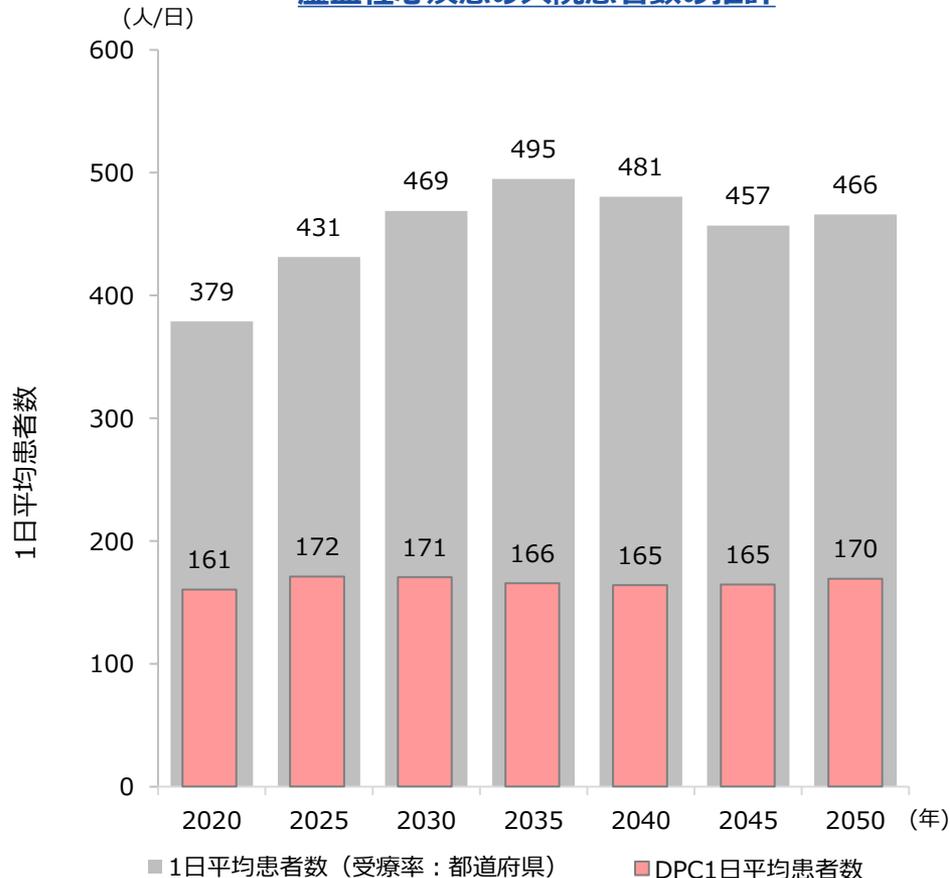
手術件数：「人口推計(2023年10月1日現在)」(総務省統計局)および第10回NDBオープンデータ(厚生労働省)

堺市医療圏 | 疾患別患者数の推計：虚血性心疾患等

虚血性心疾患の1日平均患者数、DPCの1日平均患者数および手術件数の将来推計を示しています。

虚血性心疾患は急性期を脱した回復期および慢性期の患者が多く、多くの地域では患者数が増加傾向にあります。DPC1日平均患者数および手術件数の伸びは限定的となっています。

虚血性心疾患の入院患者数の推計



心臓カテーテル手術等の手術件数の推移



出典：「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」(国立社会保障・人口問題研究所) と以下の発生率を用いて推計

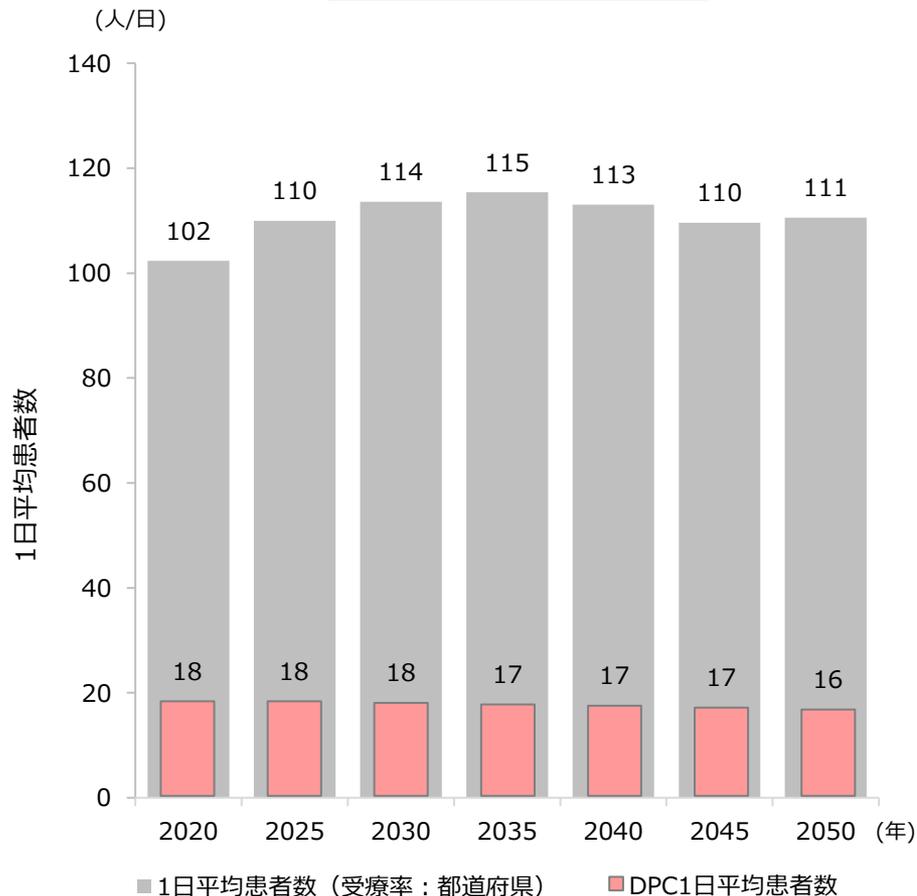
1日平均患者数：「令和5年患者調査」(厚生労働省)

DPC1日平均患者数：「人口推計(2023年10月1日現在)」(総務省統計局) および「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」(厚生労働省)

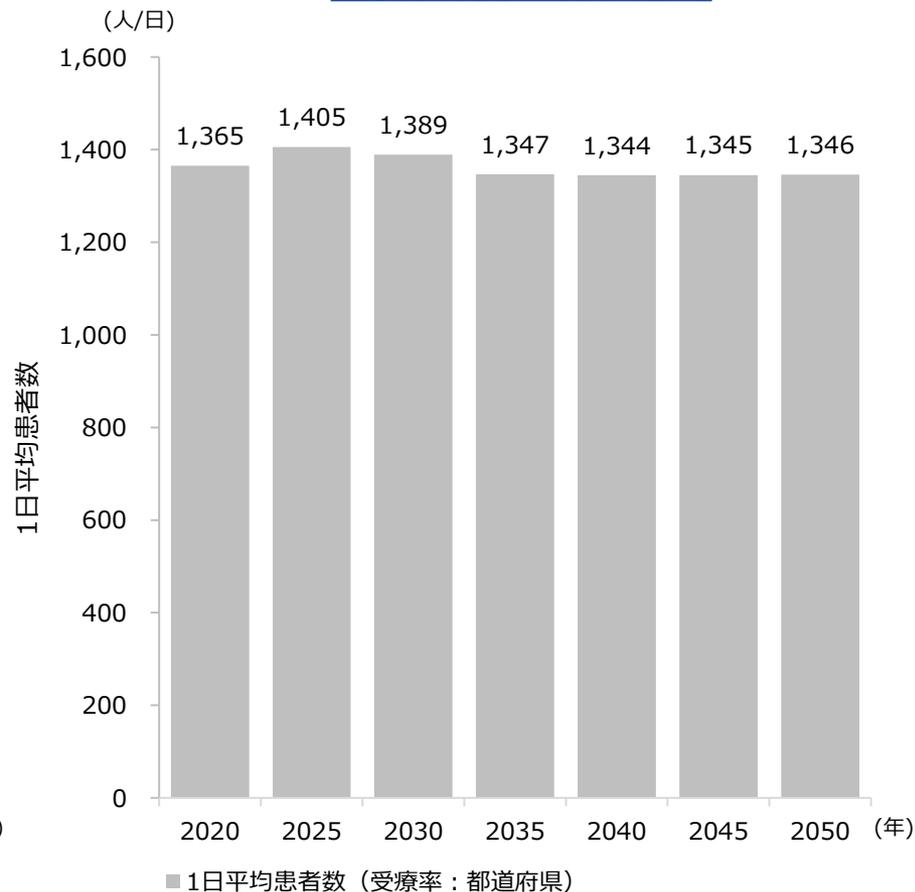
手術件数：「人口推計(2023年10月1日現在)」(総務省統計局) および第10回NDBオープンデータ(厚生労働省)

堺市医療圏 | 疾患別患者数の推計：糖尿病

糖尿病の入院患者数の推計



糖尿病の外来患者数の推計



出典：「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」(国立社会保障・人口問題研究所) と以下の発生率を用いて推計

1日平均患者数：「令和5年患者調査」(厚生労働省)

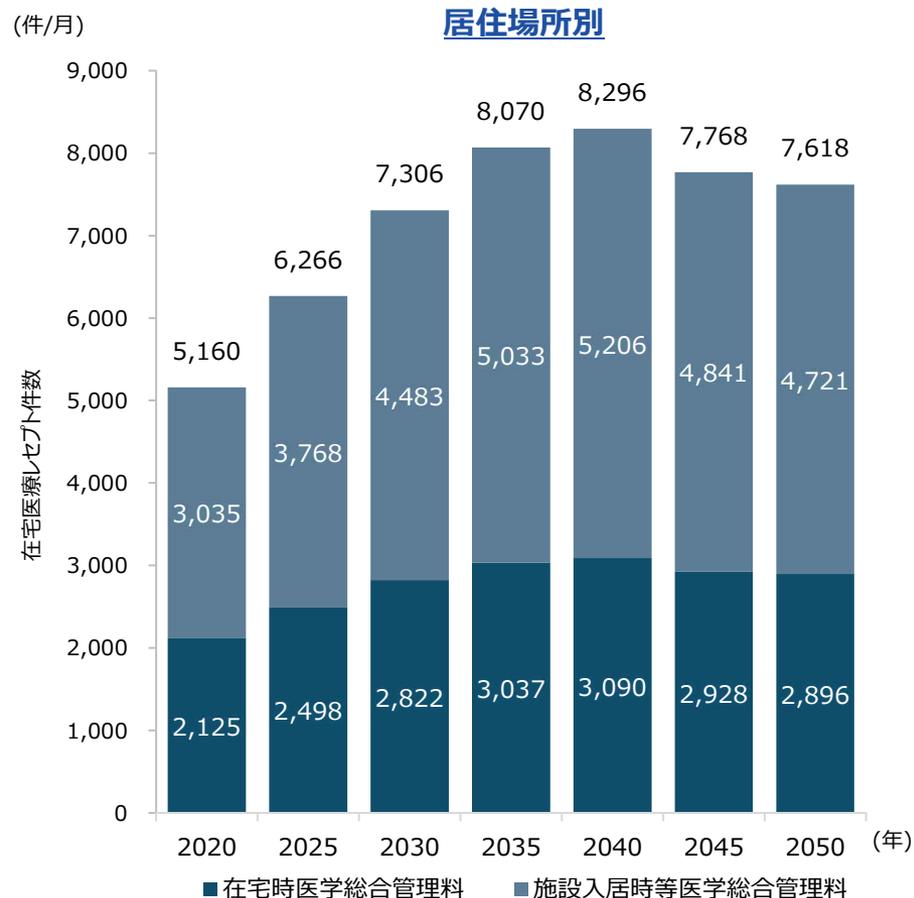
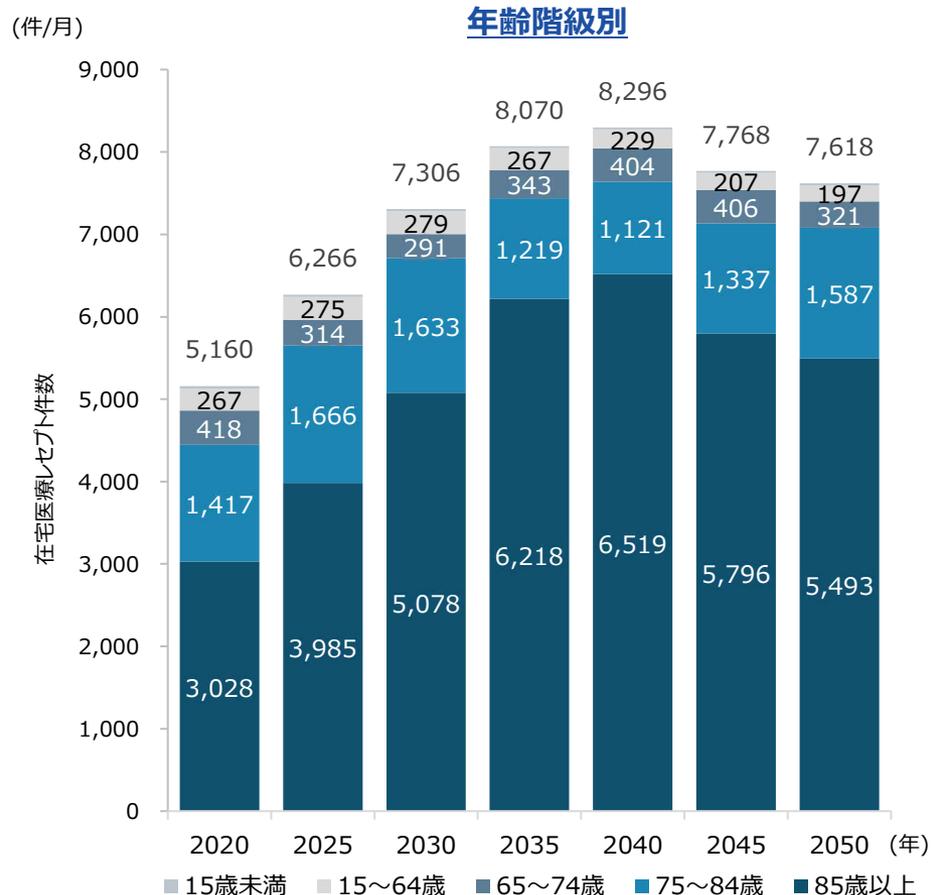
DPC1日平均患者数：「人口推計 (2023年10月1日現在)」(総務省統計局) および「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」(厚生労働省)

2026 © NIHONKEIEI Co.,Ltd.

堺市医療圏 | 在宅医療患者数の推計

全国の在宅時医学総合管理料および施設入居時医学総合管理料の発生率を用いた将来推計を示しています。

月に1回算定可能な管理料であり、月当たりの患者数の増減傾向が確認できます。

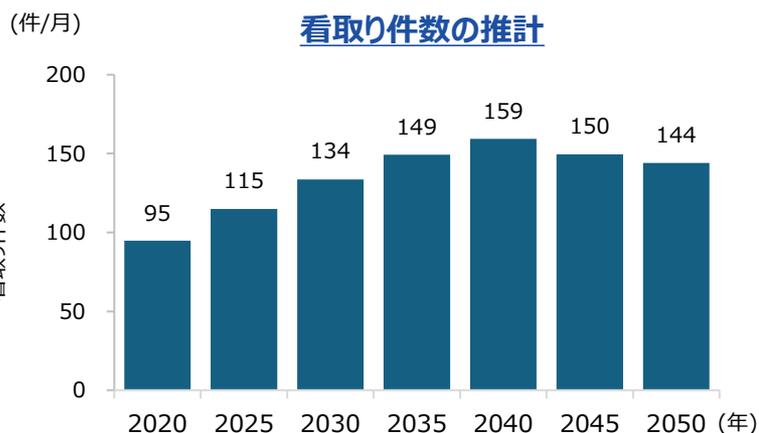
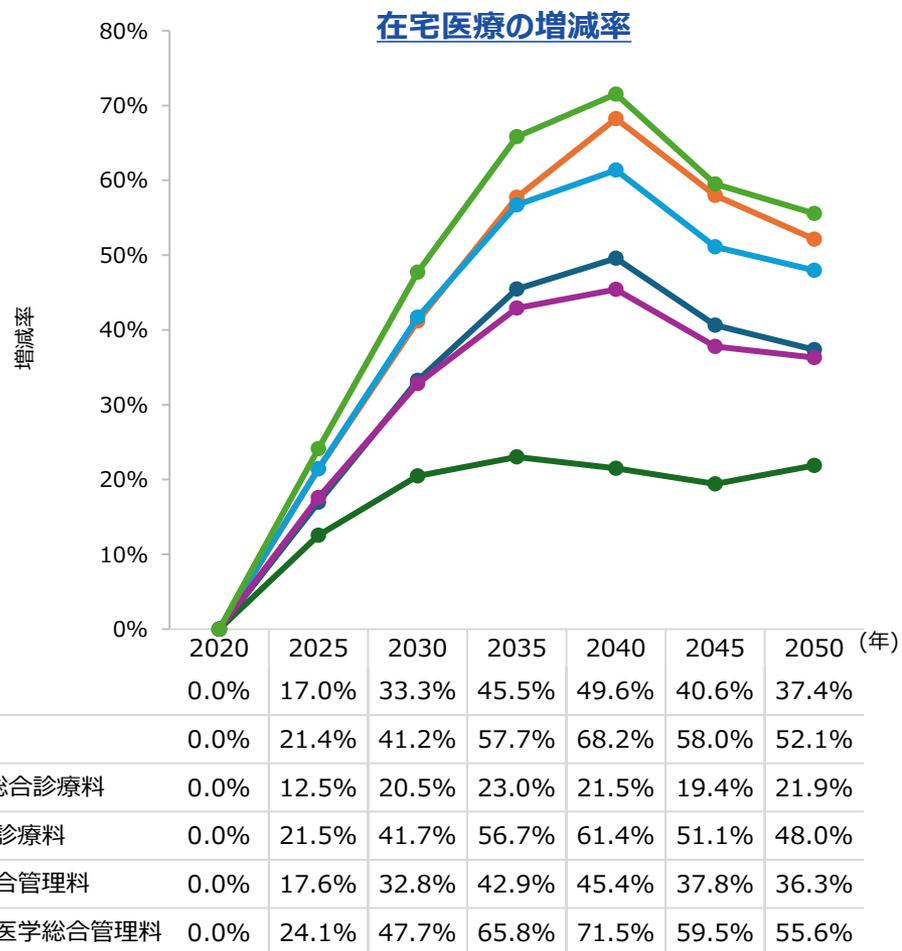


出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および第10回NDBオープンデータ（厚生労働省）
 ：2023年4月～2024年3月診療分のレセプトデータを用いて全国の性年齢別の発生率を計算。
 その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計

堺市医療圏 | 在宅医療訪問回数および増減率

全国の発生率を用いた在宅医療の主な診療行為の算定回数の将来推計を示しています。

多くの地域では2040年以降まで大幅な増加が見込まれており、在宅医療の体制整備が求められます。

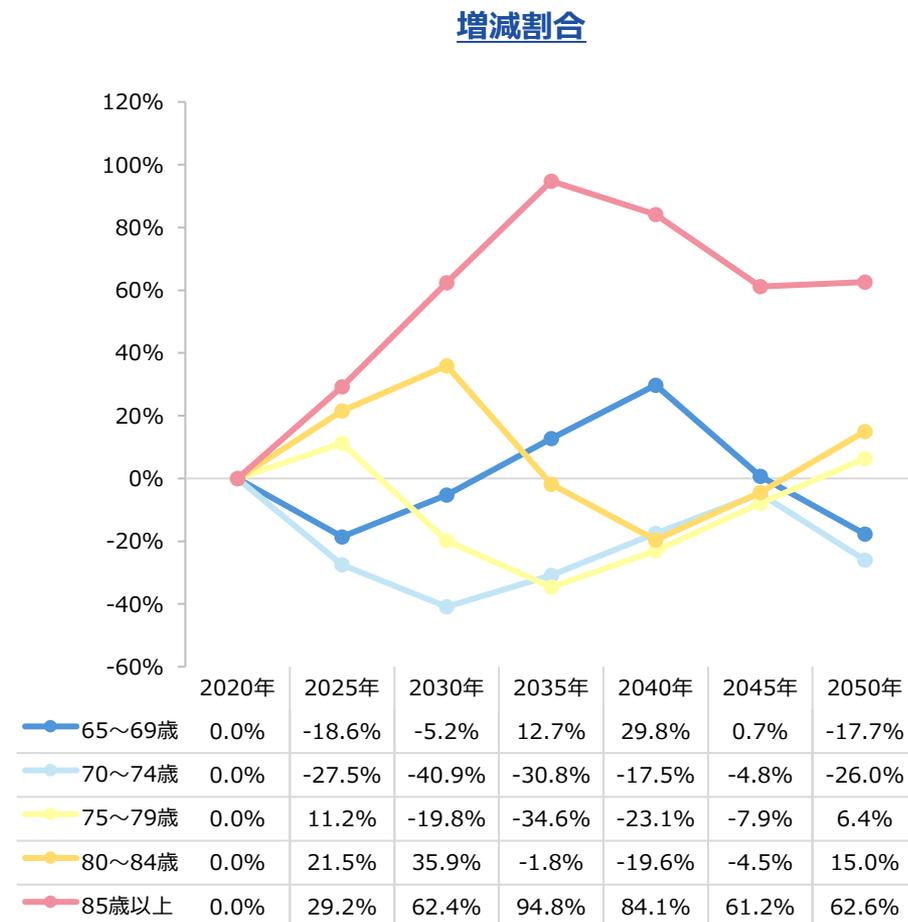
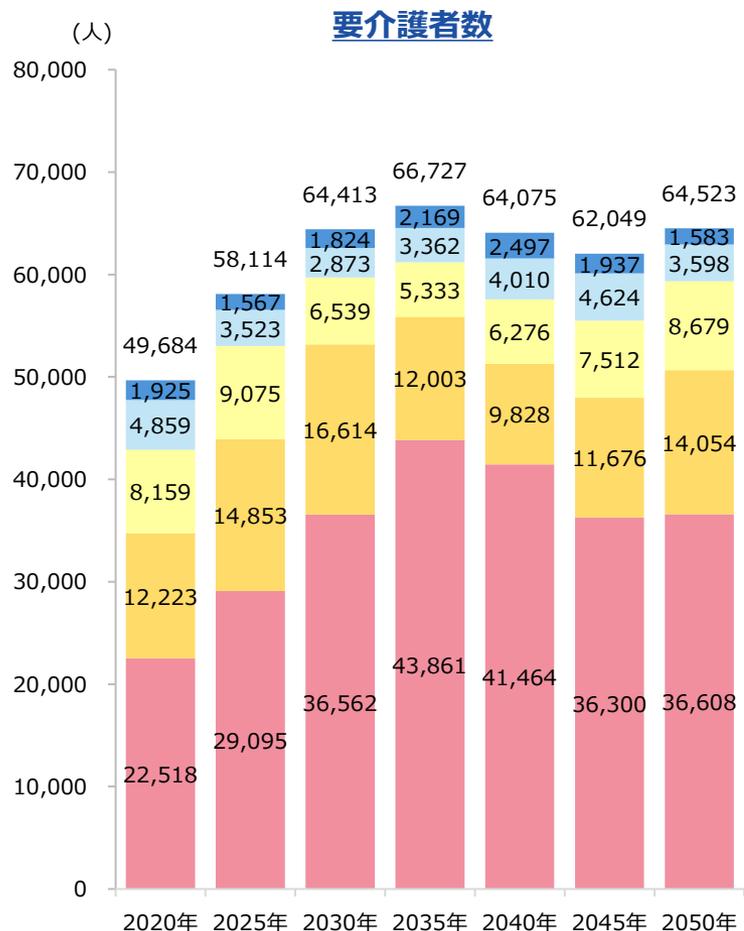


出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および第10回NDBオープンデータ（厚生労働省）
 ：2023年4月～2024年3月診療分のレセプトデータを用いて全国の性年齢別の発生率を計算。
 その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計

堺市医療圏 | 年齢別の要介護者の推計

都道府県の発生率を用いた要介護認定者数の将来推計を示しています。（介護保険事業計画の推計とは計算方法が異なります）

多くの地域では85歳以上の人口増加に伴い、要介護者数の増加が見込まれています。

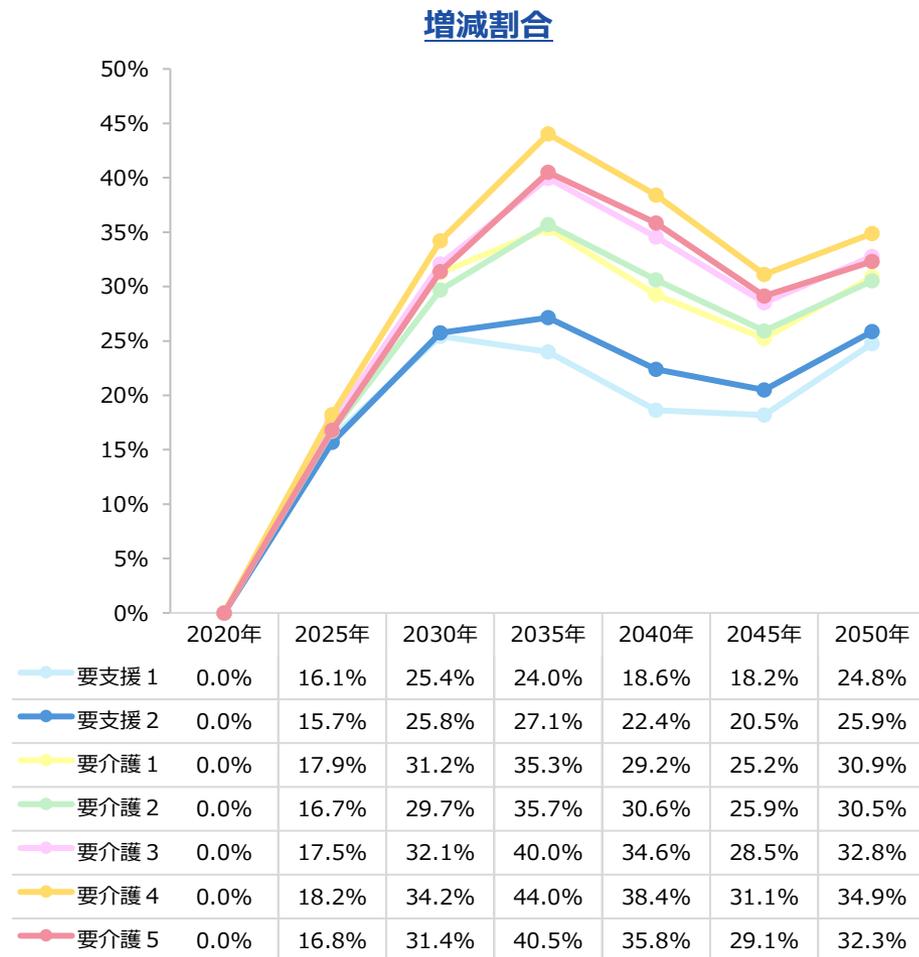
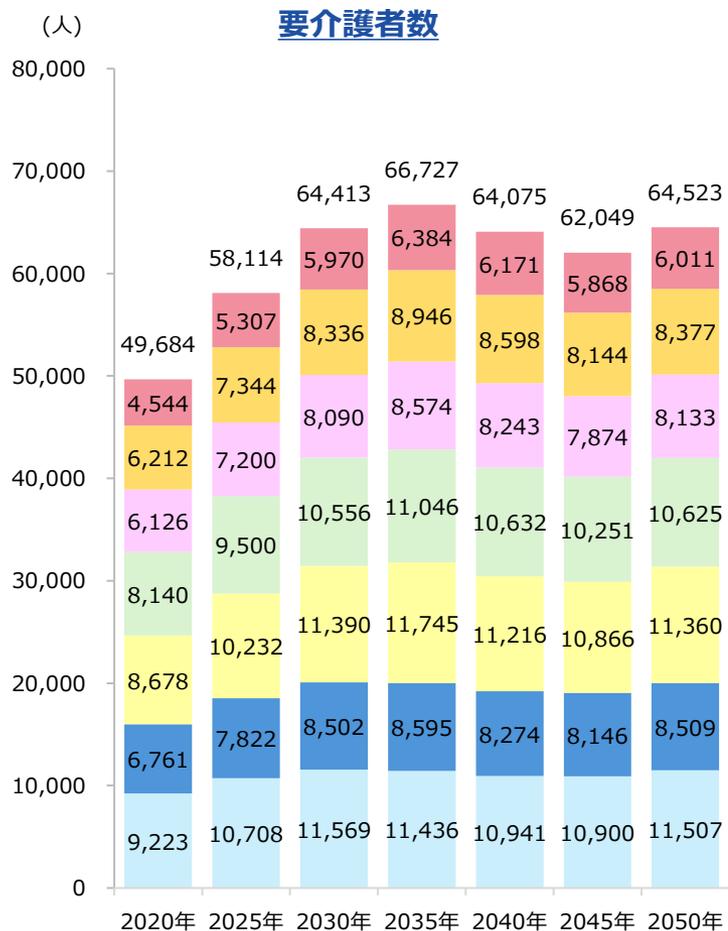


出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および「令和5年度介護保険事業状況報告（年報）表04-1<都道府県別>要介護（要支援）認定者数」（厚労省）を用いて発生率を計算。その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計

堺市医療圏 | 要介護度別の要介護者の推計

都道府県の発生率を用いた要介護度別の要介護認定者数の将来推計を示しています。(介護保険事業計画の推計とは計算方法が異なります)

要介護度3以上の増加は、介護者および介護事業所の従業員への負担や人材確保の難化を招く可能性があります。



出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および

「令和5年度介護保険事業状況報告（年報）表04-1<都道府県別>要介護（要支援）認定者数」（厚労省）を用いて発生率を計算。

その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計

4/ 医療機関のパフォーマンスおよび連携状況

診療実績と役割分担の状況から、地域の医療機関のポジショニングを整理する。

救急車受入数

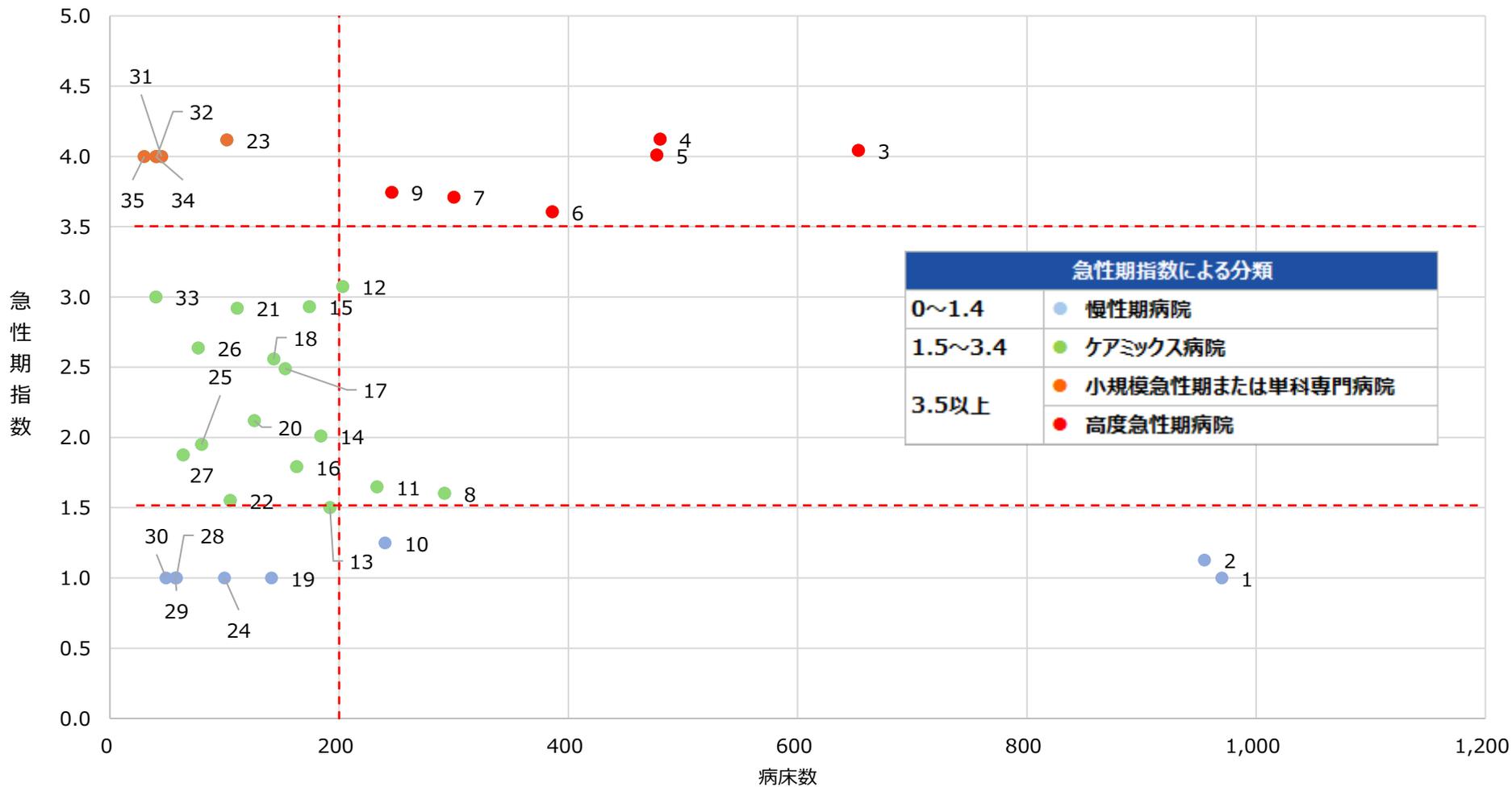
手術件数

DPC症例数

各医療機関の診療実績をもとに、地域の医療機能がどこに集中しているかを把握する。
機能分化や医療機関間の連携状況を可視化し、地域全体で質の高い医療を提供するための課題を整理する。

堺市医療圏 | ポジショニングマップ

下図は各病院の稼働病床数と急性期指数をプロットし、類型を行っています。（新たな地域医療構想における医療機関機能とは異なります）
 地域内の急性期病院の競争状況を踏まえて、各医療機関の役割を検討する必要があります。



※休棟中等を除く
 ※図表中の数字は、医療機関一覧表のNo.と対応しています

堺市医療圏 | ポジショニングマップ

No.	医療機関略称	稼働 病床数	急性期 指数
1	阪和第一泉北病院	970	1.0
2	阪和第二泉北病院	955	1.1
3	大阪労災病院	653	4.0
4	堺市立総合医療センター	480	4.1
5	ベルランド総合病院	477	4.0
6	耳原総合病院	386	3.6
7	馬場記念病院	300	3.7
8	堺平成病院	292	1.6
9	NHO近畿中央呼吸器センター	246	3.7
10	清恵会三宝病院	240	1.3
11	暁美会 田中病院	233	1.6
12	浅香山病院	203	3.1
13	ベルピアノ病院	192	1.5
14	正風病院	184	2.0
15	堺咲花病院	174	2.9
16	堺若葉会病院	163	1.8
17	南堺病院	153	2.5
18	日野病院	143	2.6
19	北条病院	141	1.0
20	植木病院	126	2.1
21	阪堺病院	111	2.9
22	田中会 田中病院	105	1.6
23	清恵会病院	102	4.1
24	金岡病院	100	1.0
25	田仲北野田病院	80	2.0

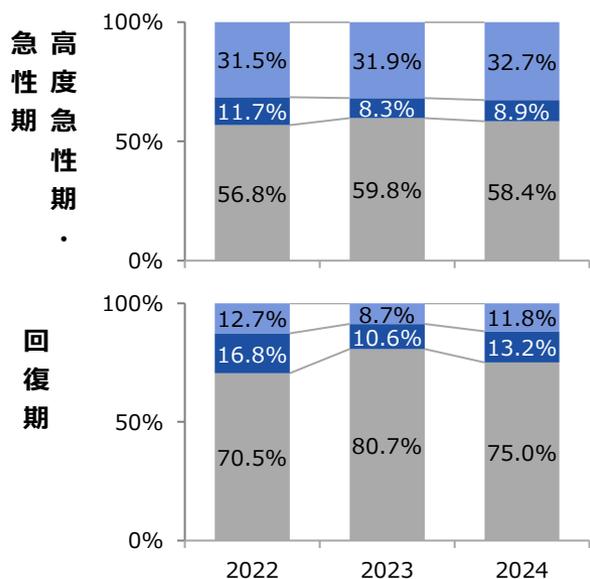
No.	医療機関略称	稼働 病床数	急性期 指数
26	邦和病院	77	2.6
27	堺フジタ病院	64	1.9
28	堺市立重症心身障害者（児）支援センター	58	1.0
29	泉北藤井病院	57	1.0
30	朝日会病院	49	1.0
31	仁悠会 吉川病院	45	4.0
32	堺山口病院	41	4.0
33	堺近森病院	40	3.0
34	鳳胃腸病院	40	4.0
35	大仙病院	30	4.0

堺市医療圏 | 入退棟経路の傾向

当該医療圏の機能別の入院経路と退棟先の構成割合を示しています。

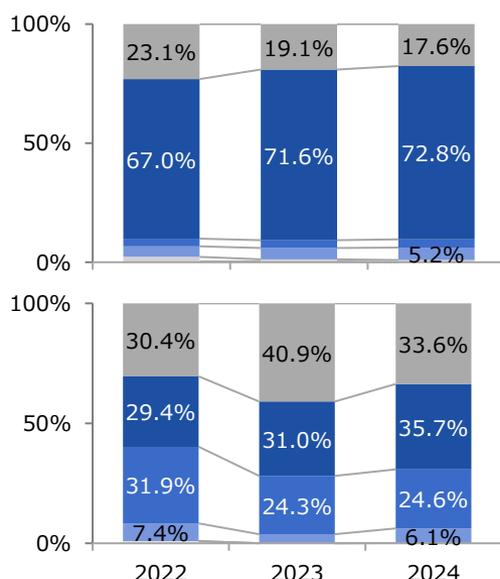
「他の病院、診療所へ転院」の割合等から、地域の機能分化の状況を確認できます。

入棟時の状況の変化



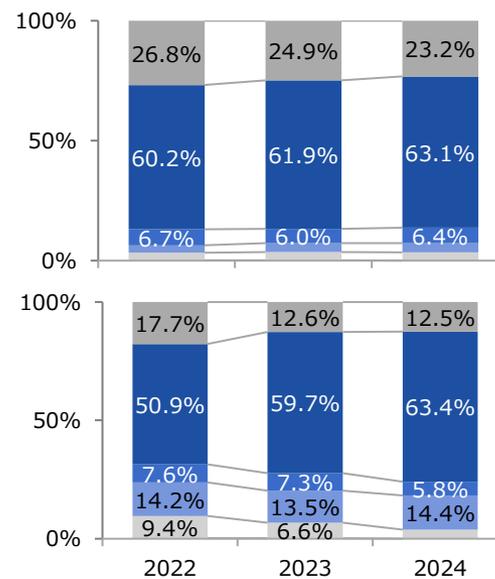
- 救急医療入院の予定外入院患者
- 救急医療入院以外の予定外入院患者
- 予定入院の患者・院内の他病棟からの転棟患者

入棟経路の変化



- 院内の他病棟からの転棟
- 家庭からの入院
- 他の病院、診療所からの転院
- 介護・福祉施設、介護医療院からの入院
- 院内の出生
- その他入院経路

退棟先の変化



- 院内の他病棟へ転棟
- 家庭へ退院
- 他の病院、診療所へ転院
- 介護老人保健・福祉施設、介護医療院、有料老人ホーム等へ入所
- 終了（死亡退院等）
- その他

堺市医療圏 | 救急車受入を行う病院の概要①

救急を受け入れる病院の指定状況や職員数、医療機器の台数の比較を示しています。

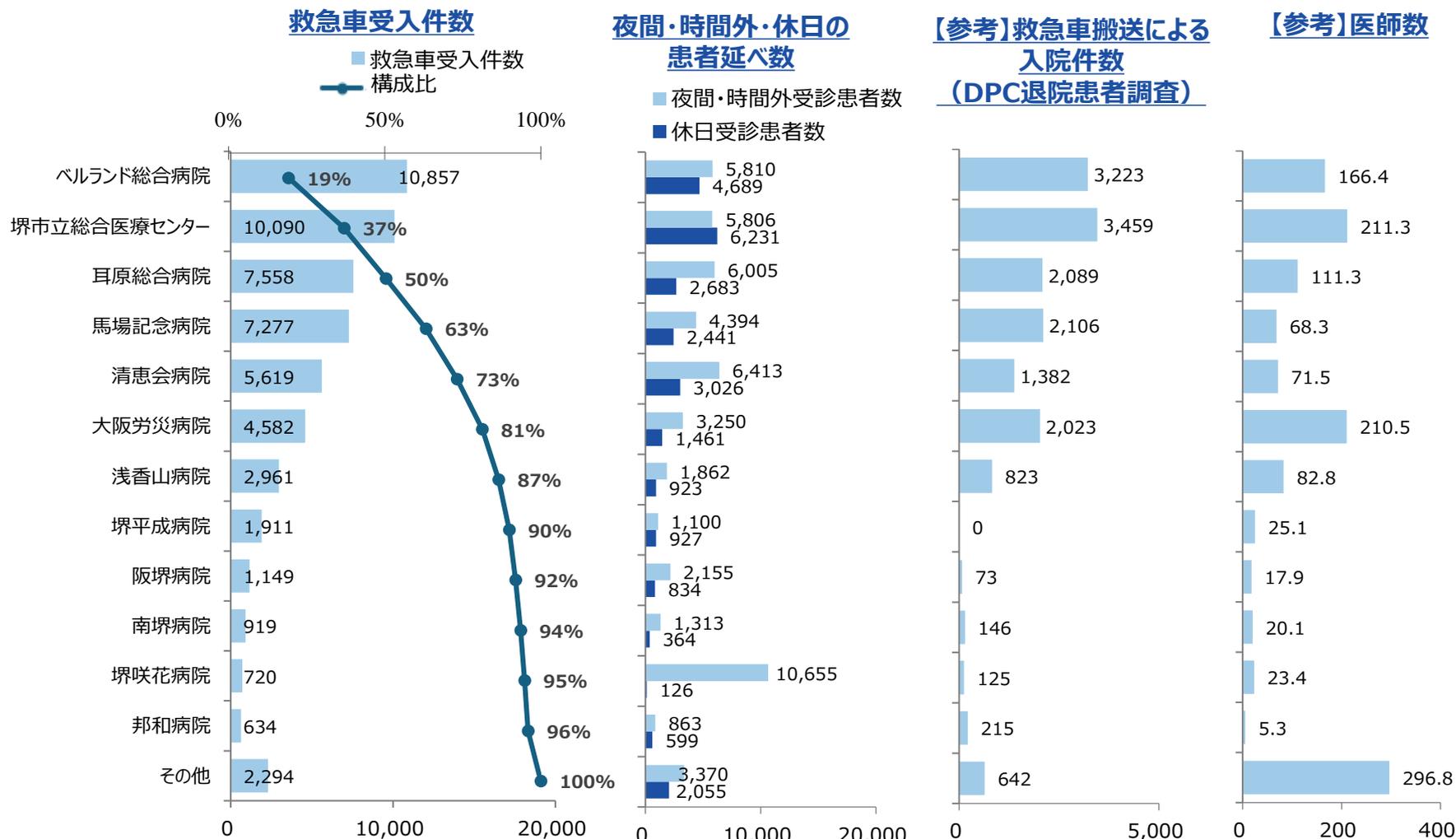
救急搬送に対応できる職員数（特に医師・看護師）を確保できているか確認する必要があります。

No.	医療機関名	市区町村	設置主体	救急種別	医師・看護師数				医療機器の台数		
					医師数	うち、常勤	常勤割合	看護師数	CT	MRI	その他
1	堺市立総合医療センター	堺市西区	公的医療機関	三次救急	211.3	209	98.9%	654.0	4	2	9
2	大阪労災病院	堺市北区	国立病院	二次救急	210.5	208	98.8%	750.4	4	3	8
3	バルランド総合病院	堺市中区	医療法人	二次救急	166.4	161	96.8%	584.6	4	3	9
4	耳原総合病院	堺市堺区	医療法人	二次救急	111.3	109	97.9%	470.0	2	1	5
5	浅香山病院	堺市堺区	その他	二次救急	82.8	76	91.8%	477.4	2	1	2
6	清恵会病院	堺市堺区	医療法人	二次救急	71.5	55	76.9%	280.1	2	2	2
7	馬場記念病院	堺市西区	医療法人	二次救急	68.3	53	77.6%	250.8	2	2	3
8	NHO近畿中央呼吸器センター	堺市北区	国立病院	二次救急	39.0	39	100.0%	181.4	2	1	3
9	堺平成病院	堺市中区	医療法人	二次救急	25.1	17	67.7%	172.4	1	1	1
10	堺咲花病院	堺市南区	その他	二次救急	23.4	18	76.9%	110.2	2	1	0
11	南堺病院	堺市中区	医療法人	二次救急	20.1	15	74.6%	99.9	1	1	0
12	阪堺病院	堺市堺区	医療法人	二次救急	17.9	15	83.8%	113.7	1	1	1
13	日野病院	堺市東区	医療法人	二次救急	16.1	14	87.0%	91.0	1	1	0
14	暁美会 田中病院	堺市美原区	医療法人	二次救急	15.4	8	51.9%	88.6	1	1	0
15	堺若葉会病院	堺市北区	医療法人	二次救急	15.0	10	66.7%	102.6	1	1	0
16	植木病院	堺市北区	医療法人	二次救急	14.0	11	78.6%	80.2	1	0	1
17	堺山口病院	堺市堺区	医療法人	二次救急	6.1	3	49.2%	26.6	1	0	0
18	邦和病院	堺市中区	医療法人	二次救急	5.3	4	75.5%	25.4	1	1	1
19	堺フジタ病院	堺市中区	医療法人	二次救急	4.5	3	66.7%	25.8	1	1	0
20	仁悠会 吉川病院	堺市北区	医療法人	二次救急	0.0	0	0.0%	32.5	1	0	0

病院別の救急車受入件数および夜間・時間外・休日の患者延べ数

当該医療圏内における医療機関の救急車受入件数等の指標の比較を示しています。

医師不足や過度な負担となっていないか、持続可能性の観点で確認する必要があります。



出典：「令和6年度病床機能報告」(厚生労働省)
 : 「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」(厚生労働省)

堺市区域と類似区域における救急医療の提供状況

人口、地域区分、大学病院の有無を条件とした類似区域を3つ抽出し、主要な指標を比較しています。

他区域と比較して、救急車受入の病院が分散していないか、また、職員1人あたりの患者数が大きくないか確認し、効率的、かつ、持続可能な救急医療が行えているか確認します。

区域名	区域の基礎情報				救急車受入を行う病院						主な診療実績 (区域合計)			一般病床 流入率			
	人口 (人)	面積 (km ²)	地域区分	大学 病院	病院数	救急車 件数	時間外 患者数	職員数		医師あたり		看護職員あたり			手術 総数	全麻 手術 件数	分娩 件数
大阪府 堺市	826,161	150	大都市型	無	19	56,571	79,355	1,311	5,934	43.2	60.5	9.5	13.4	39,680	15,247	1,900	▲3.2%
東京都 北多摩北部	749,421	77	大都市型	無	21	42,486	55,914	1,097	4,104	38.7	51.0	10.4	13.6	21,861	10,715	2,025	▲1.4%
神奈川県 県央	858,535	293	大都市型	無	18	45,981	57,301	1,094	3,775	42.0	52.4	12.2	15.2	28,785	13,537	2,433	▲9.1%
兵庫県 東播磨	716,073	266	大都市型	無	25	38,073	49,374	1,050	4,703	36.3	47.0	8.1	10.5	35,567	15,326	2,424	▲3.3%

地域区分は人口と人口密度を用いた石川ベンジャミン光一氏の分類方法により作成
<https://public.tableau.com/app/profile/kbishikawa/viz/MeshBKH2022acuteNmd/map>

出典：「令和6年度病床機能報告」（厚生労働省）
 「地域医療構想 地域別の病床機能等の見える化（令和6年度）」（厚生労働省）
 「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」（厚生労働省）
 「厚生労働省 令和7年告示第166号」
 「令和2年国勢調査」（総務省統計局）
 「都道府県・市区町村のすがた（社会・人口統計体系）」（総務省統計局）2020年度

地域区分類型
 大都市型：人口が100万人以上（又は）人口密度が2,000人/km²以上
 地方都市A型：人口が20万人以上
 地方都市B型：人口が10～20万人（かつ）人口密度が200人/km²以上
 過疎地域A型：人口が10～20万人（かつ）人口密度が200人/km²未満
 過疎地域B型：人口が5～10万人
 過疎地域C型：人口が5万人未満

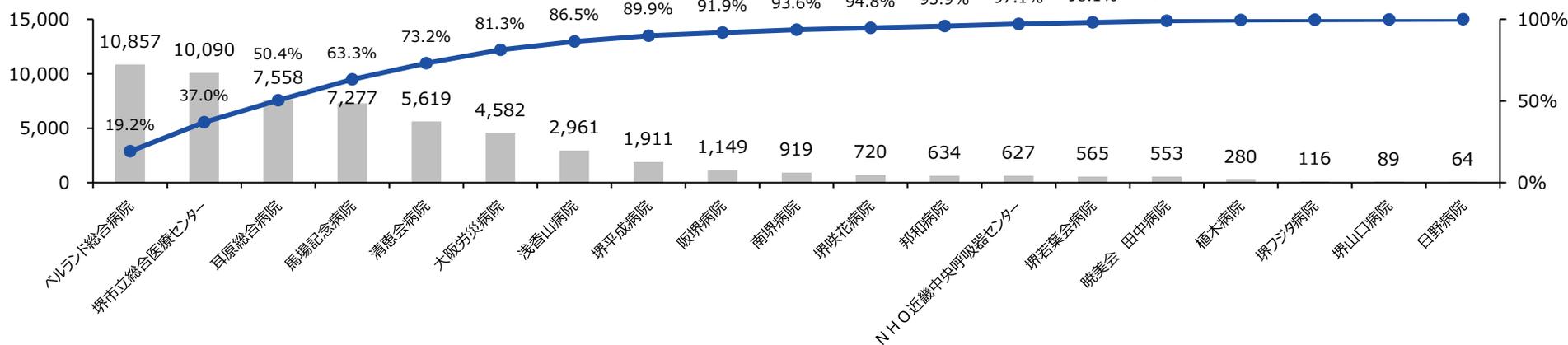
救急医療の提供状況の類似区域との比較【救急車受入件数①】

医療機関別の救急車受入件数の累積構成比を他の区域と比較しています。

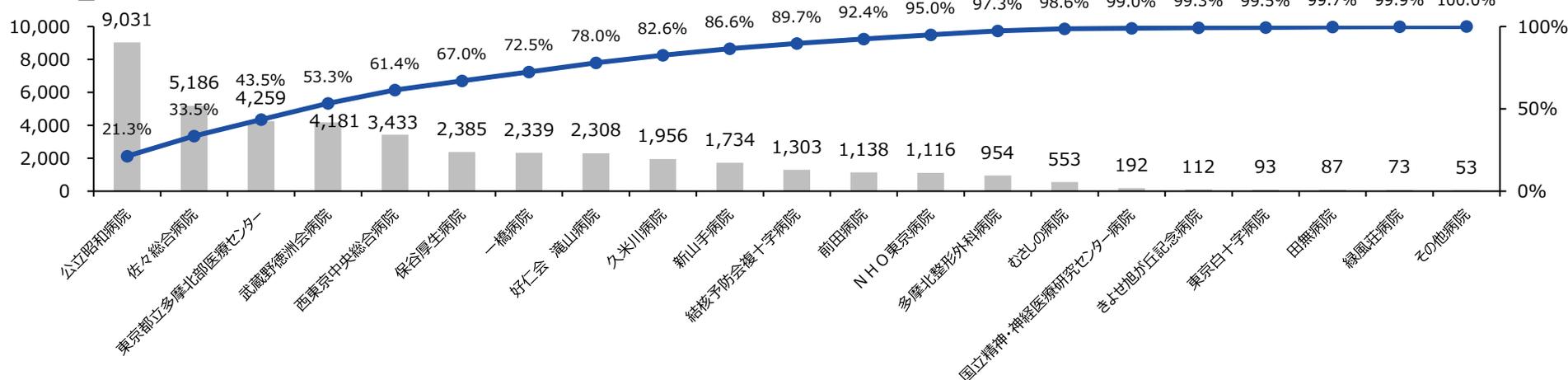
最も受入の多い医療機関の受入件数や、受入件数のバラつきを確認し、地域の特徴を把握します。

■ 救急車受入件数 ● 累積構成比

大阪府_堺市

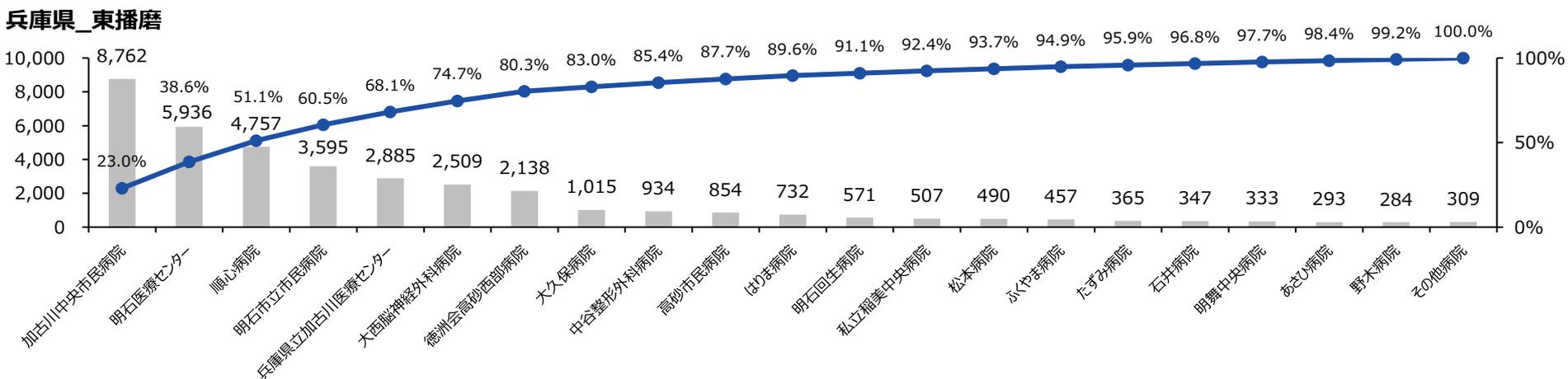
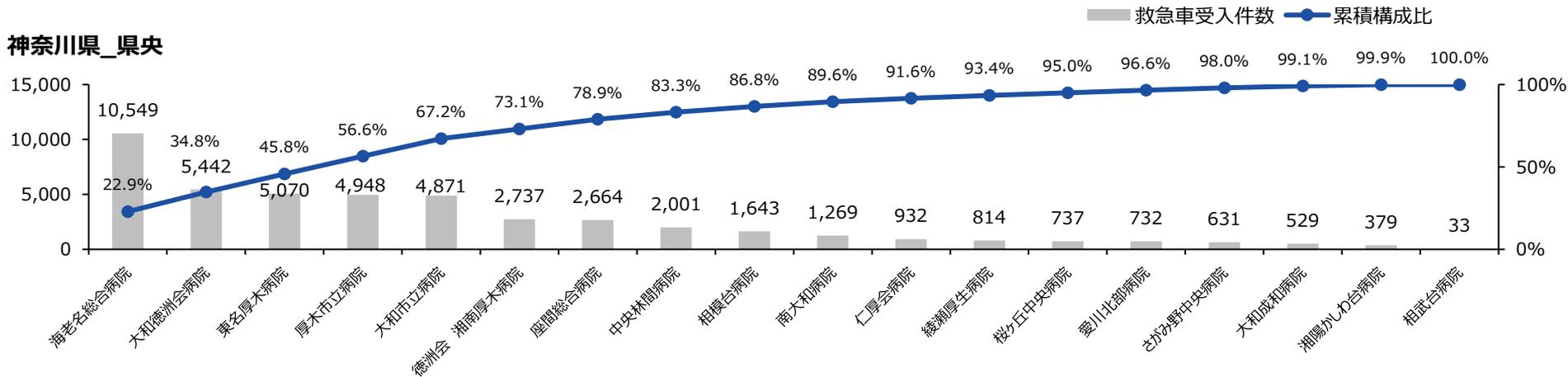


東京都_北多摩北部



救急医療の提供状況の類似区域との比較【救急車受入件数②】

医療機関別の救急車受入件数の累積構成比を他の区域と比較しています。

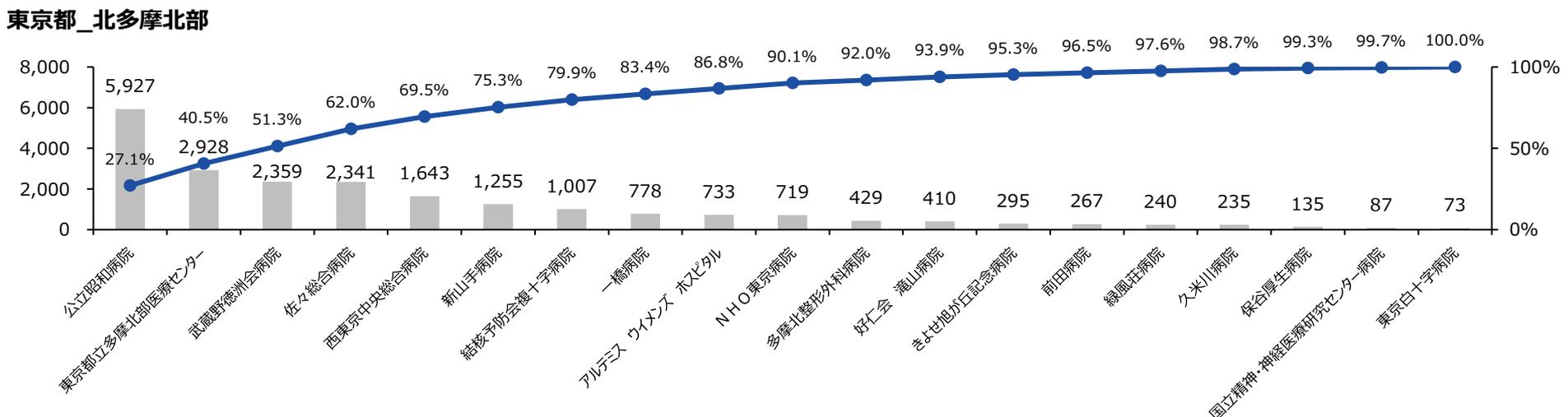
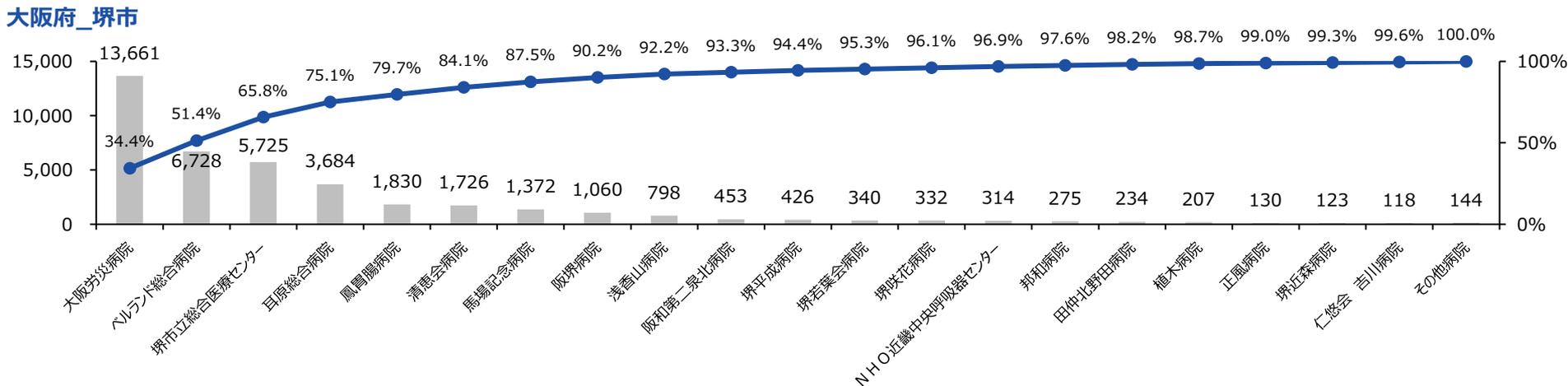


救急医療の提供状況の類似区域との比較【手術件数①】

医療機関別の手術件数の累積構成比を他の区域と比較しています。

急性期医療が集約されているかを確認できます。

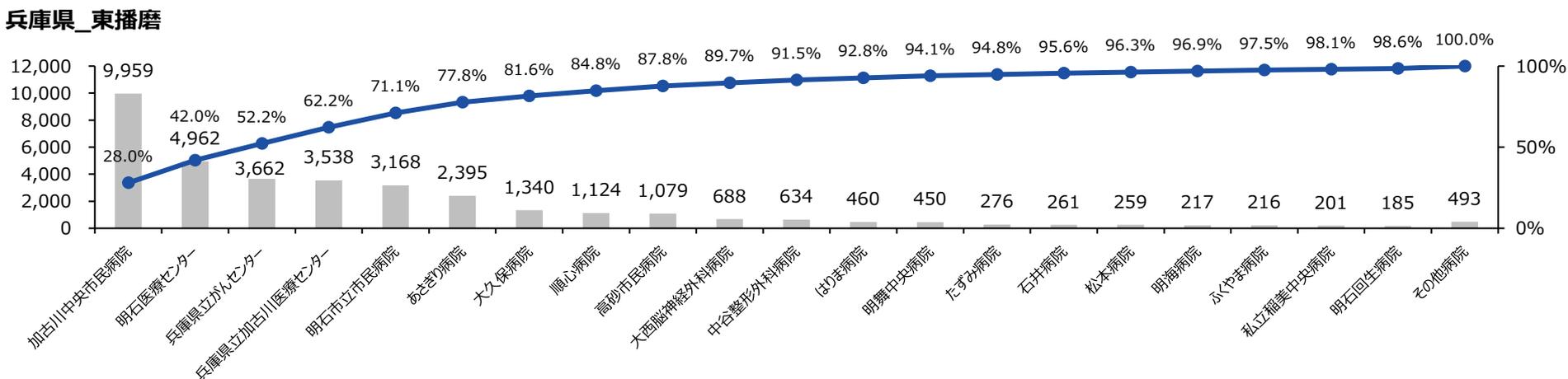
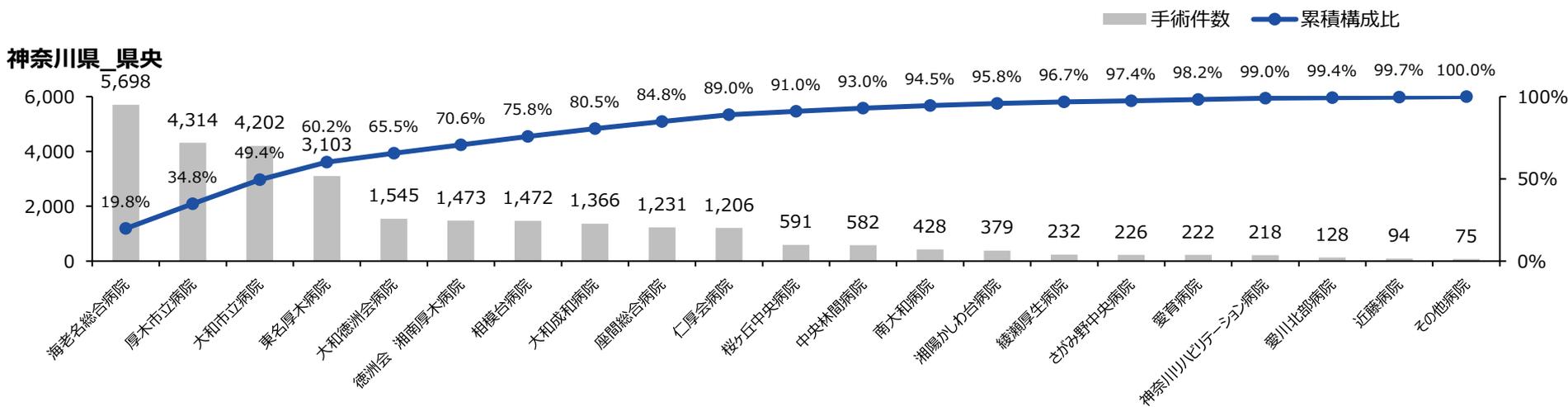
■ 手術件数 ● 累積構成比



出典：「地域医療構想 地域別の病床機能等の見える化（令和6年度）」（厚生労働省）

救急医療の提供状況の類似区域との比較【手術件数②】

医療機関別の手術件数の累積構成比を他の区域と比較しています。

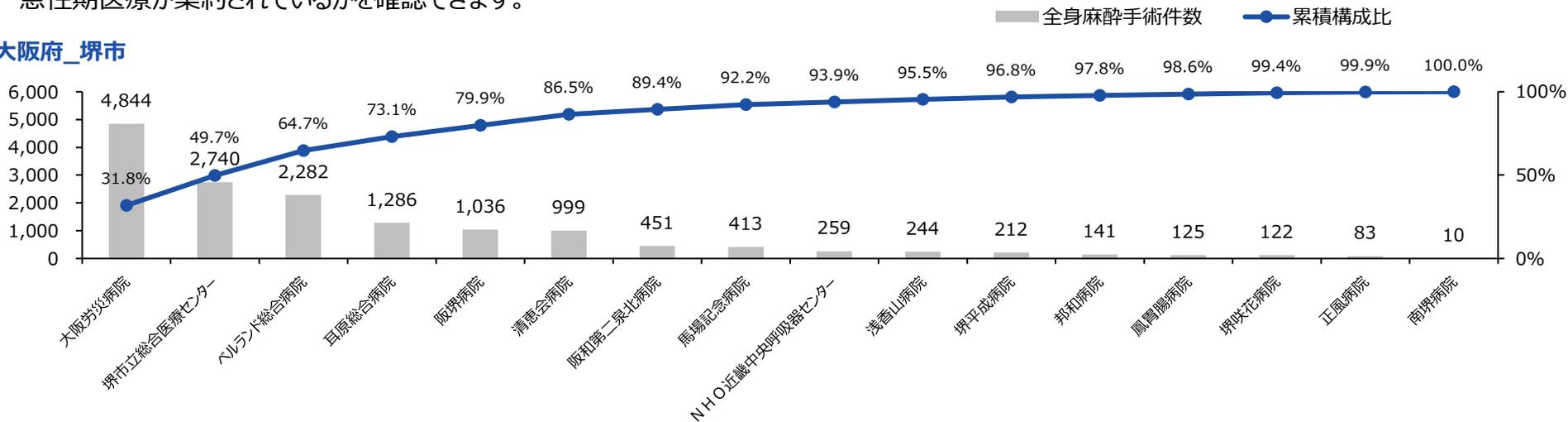


救急医療の提供状況の類似区域との比較【全身麻酔手術件数①】

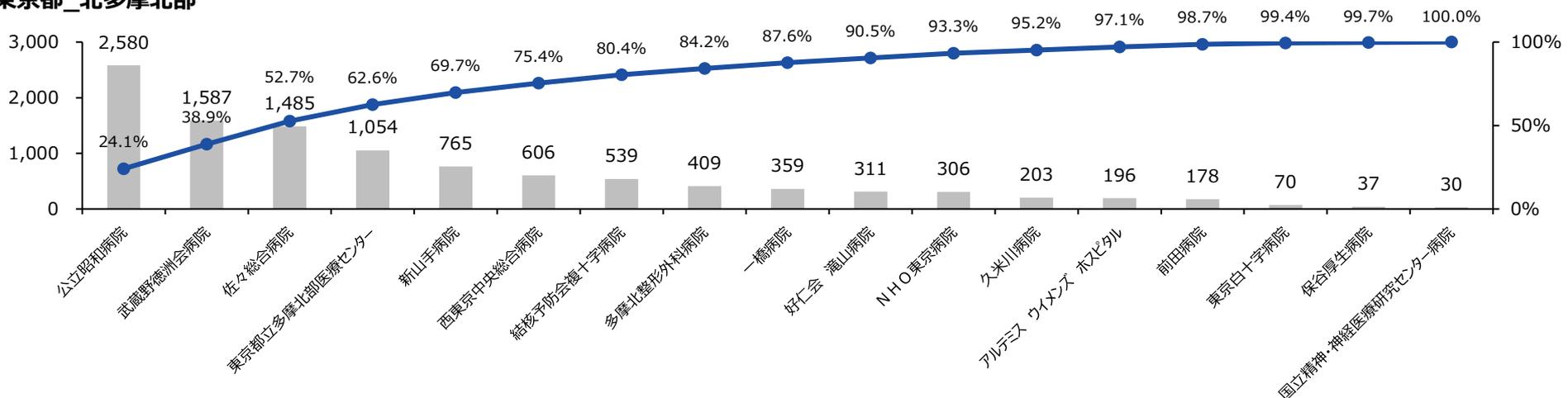
医療機関別の全身麻酔手術件数の累積構成比を他の区域と比較しています。

急性期医療が集約されているかを確認できます。

大阪府_堺市



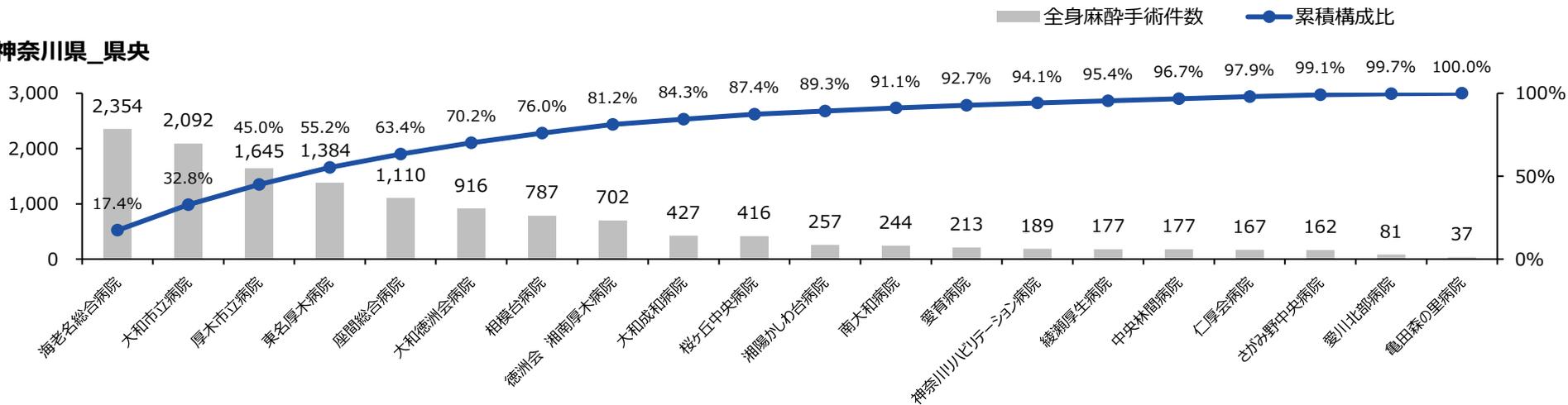
東京都_北多摩北部



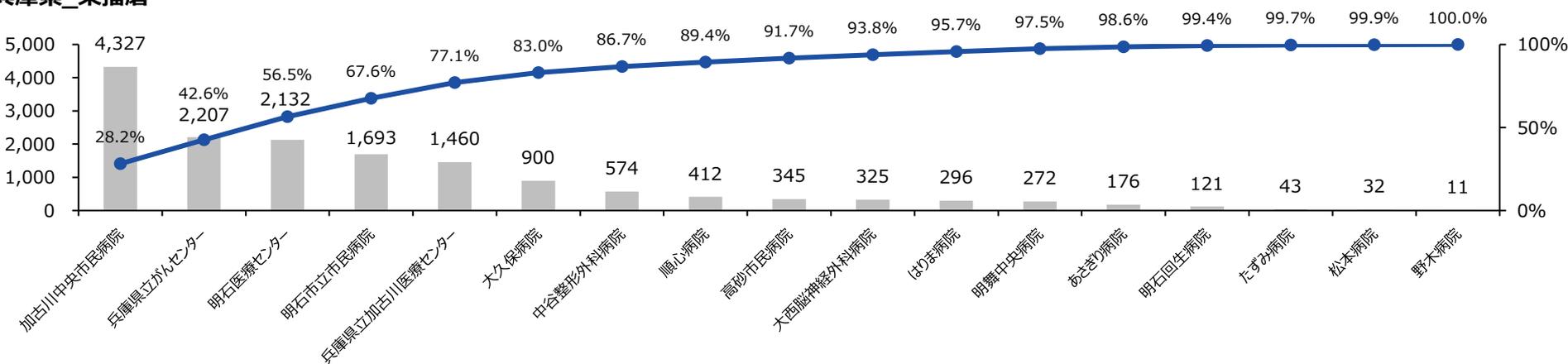
救急医療の提供状況の類似区域との比較【全身麻酔手術件数②】

医療機関別の全身麻酔手術件数の累積構成比を他の区域と比較しています。

神奈川県_県央



兵庫県_東播磨



大阪府 | DPC対象病院における平均在院日数（DPC患者数の多い順）①

都道府県内のDPC病院における在院日数の比較を示しています。

全国の平均在院日数は11.72日であり、「全国の疾患構成に補正した場合」の日数が長い医療機関は非効率な運用となっている可能性があります。

No.	医療機関名	医療圏	医療機関群	入院基本料	DPC算定 病床数	DPC算定 病床割合	DPC患者数	平均在院日数 (日)	全国の疾患構成に 補正した場合 (日)
1	大阪市立総合医療センター	大阪市	特定	急性期1	984	93%	23,189	9.9	9.6
2	関西医科大学附属病院	北河内	大学	特定7対1	797	100%	21,254	11.1	10.6
3	近畿大学病院	南河内	大学	特定7対1	919	100%	21,086	11.0	11.0
4	大阪医科薬科大学病院	三島	大学	特定7対1	863	96%	19,520	11.6	11.2
5	大阪労災病院	堺市	標準	急性期1	678	100%	19,203	9.7	11.0
6	大阪大学医学部附属病院	豊能	大学	特定7対1	1,019	95%	19,115	12.7	11.6
7	大阪赤十字病院	大阪市	特定	急性期1	738	86%	18,740	10.1	9.5
8	大阪公立大学医学部附属病院	大阪市	大学	特定7対1	927	96%	18,584	11.1	10.4
9	大阪急性期・総合医療センター	大阪市	特定	急性期1	748	87%	16,339	10.3	10.3
10	北野病院	大阪市	特定	急性期1	643	100%	16,236	10.7	11.1
11	大阪国際がんセンター	大阪市	特定	特定7対1	500	100%	14,907	8.7	9.9
12	市立豊中病院	豊能	標準	急性期1	608	100%	13,627	10.8	11.0
13	大阪警察病院	大阪市	特定	急性期1	525	100%	13,596	10.4	10.5
14	高槻病院	三島	標準	急性期1	477	100%	13,386	10.6	10.9
15	淀川キリスト教病院	大阪市	特定	急性期1	540	93%	13,162	10.5	10.7
16	国立循環器病研究センター	豊能	特定	特定7対1	527	100%	13,030	10.8	10.8
17	NHO大阪医療センター	大阪市	特定	急性期1	558	100%	12,861	11.6	12.2
18	堺市立総合医療センター	堺市	特定	急性期1	487	100%	12,452	10.7	10.1
19	ペルランド総合病院	堺市	標準	急性期1	462	97%	12,082	11.4	11.3
20	市立東大阪医療センター	中河内	標準	急性期1	495	95%	12,077	10.3	10.4
21	JCHO大阪病院	大阪市	標準	急性期1	525	100%	11,969	10.0	10.0
22	大阪府済生会中津病院	大阪市	特定	急性期1	570	100%	11,318	11.6	10.9
23	関西医科大学総合医療センター	北河内	特定	急性期1	438	92%	10,108	11.5	11.1
24	八尾徳洲会総合病院	中河内	特定	急性期1	427	100%	9,990	12.9	11.4
25	千船病院	大阪市	標準	急性期1	308	100%	9,623	8.6	9.4

大阪府 | DPC対象病院における平均在院日数（DPC患者数の多い順）②

No.	医療機関名	医療圏	医療機関群	入院基本料	DPC算定 病床数	DPC算定 病床割合	DPC患者数	平均在院日数 (日)	全国の疾患構成に 補正した場合 (日)
26	医誠会国際総合病院	大阪市	標準	急性期1	560	100%	9,618	13.0	11.2
27	岸和田徳洲会病院	泉州	特定	急性期1	400	100%	9,299	14.1	11.5
28	大阪母子医療センター	泉州	標準	急性期1	363	100%	9,276	9.0	9.7
29	大阪府済生会野江病院	大阪市	特定	急性期1	400	100%	9,123	11.3	10.9
30	八尾市立病院	中河内	標準	急性期1	380	100%	8,934	9.5	10.6
31	大阪府済生会吹田病院	豊能	標準	急性期1	440	100%	8,668	11.6	10.9
32	市立池田病院	豊能	標準	急性期1	364	100%	8,616	10.3	10.3
33	和泉市立総合医療センター	泉州	標準	急性期1	283	92%	8,465	11.0	10.4
34	住友病院	大阪市	標準	急性期1	499	100%	8,460	11.6	11.6
35	市立吹田市民病院	豊能	標準	急性期1	386	90%	8,447	10.3	10.0
36	日本生命病院	大阪市	標準	急性期1	350	100%	8,414	10.7	11.9
37	りんくう総合医療センター	泉州	特定	急性期1	388	100%	8,139	12.3	11.2
38	多根総合病院	大阪市	標準	急性期1	284	93%	8,125	10.4	9.9
39	市立ひらかた病院	北河内	標準	急性期1	233	92%	7,728	9.5	10.1
40	大阪(びきの)医療センター	南河内	標準	急性期1	360	89%	7,655	9.3	9.8
41	市立岸和田市民病院	泉州	特定	急性期1	376	95%	7,643	11.4	10.4
42	関西電力病院	大阪市	標準	急性期1	356	89%	7,205	11.1	11.3
43	耳原総合病院	堺市	標準	急性期1	312	81%	7,184	10.5	10.6
44	府中病院	泉州	標準	急性期1	319	84%	7,164	11.5	10.3
45	NHO大阪南医療センター	南河内	標準	急性期1	366	95%	6,964	12.7	12.4
46	第一東和会病院	三島	標準	急性期1	243	100%	6,886	10.6	10.4
47	KKR枚方公済病院	北河内	標準	急性期1	313	100%	6,885	11.9	10.9
48	済生会千里病院	豊能	標準	急性期1	329	100%	6,795	10.5	11.0
49	KKR大手前病院	大阪市	標準	急性期1	355	89%	6,485	11.5	11.2
50	PL病院	南河内	標準	急性期1	285	77%	6,249	8.5	11.1

大阪府 | DPC対象病院における平均在院日数（DPC患者数の多い順）③

No.	医療機関名	医療圏	医療機関群	入院基本料	DPC算定 病床数	DPC算定 病床割合	DPC患者数	平均在院日数 (日)	全国の疾患構成に 補正した場合 (日)
51	箕面市立病院	豊能	標準	急性期1	241	83%	6,069	8.8	9.5
52	大阪回生病院	大阪市	標準	急性期1	254	85%	6,044	8.5	11.3
53	高槻赤十字病院	三島	標準	急性期1	281	93%	5,822	11.4	11.0
54	吹田徳洲会病院	豊能	標準	急性期1	243	67%	5,756	12.0	11.1
55	城山病院	南河内	標準	急性期1	248	83%	5,438	12.9	12.5
56	野崎徳洲会病院	北河内	特定	急性期1	218	100%	5,240	14.7	12.1
57	大阪鉄道病院	大阪市	標準	急性期1	244	81%	5,099	10.3	10.1
58	関西メディカル病院	豊能	標準	急性期1	180	80%	5,065	10.2	9.8
59	北摂総合病院	三島	標準	急性期1	217	100%	5,005	11.7	10.8
60	大阪中央病院	大阪市	標準	急性期1	143	100%	4,960	6.4	9.6
61	南大阪病院	大阪市	標準	急性期4	310	78%	4,890	11.8	12.3
62	松下記念病院	北河内	標準	急性期1	250	77%	4,832	12.2	10.9
63	東住吉森本病院	大阪市	標準	急性期1	315	96%	4,793	16.2	14.3
64	市立貝塚病院	泉州	標準	急性期1	185	74%	4,736	7.4	9.6
65	関西医科大学香里病院	北河内	標準	急性期1	199	100%	4,726	11.1	13.7
66	大阪府済生会茨木病院	三島	標準	急性期1	240	85%	4,704	13.2	12.8
67	JCHO星ヶ丘医療センター	北河内	標準	急性期1	292	66%	4,471	10.1	11.5
68	若草第一病院	中河内	標準	急性期1	230	100%	4,376	14.4	13.5
69	馬場記念病院	堺市	標準	急性期1	248	83%	4,197	15.2	12.0
70	小松病院	北河内	標準	急性期4	172	91%	3,959	13.5	13.6
71	済生会 富田林病院	南河内	標準	急性期1	210	81%	3,911	11.2	11.7
72	松原徳洲会病院	南河内	特定	急性期1	249	100%	3,809	15.8	12.9
73	清恵会病院	堺市	標準	急性期2	205	68%	3,738	10.5	9.7
74	大阪府済生会泉尾病院	大阪市	標準	急性期1	280	64%	3,618	11.3	10.9
75	曙生会脳神経外科病院	北河内	標準	急性期4	228	84%	3,558	14.5	13.2

大阪府 | DPC対象病院における平均在院日数（DPC患者数の多い順）④

No.	医療機関名	医療圏	医療機関群	入院基本料	DPC算定 病床数	DPC算定 病床割合	DPC患者数	平均在院日数 (日)	全国の疾患構成に 補正した場合 (日)
76	守口生野記念病院	北河内	標準	急性期1	199	100%	3,498	13.4	9.8
77	第二大阪警察病院	大阪市	標準	急性期1	245	100%	3,477	11.1	10.4
78	JCHO大阪みなと中央病院	大阪市	標準	急性期2	229	100%	3,425	15.3	15.2
79	大阪暁明館病院	大阪市	標準	急性期1	203	44%	3,311	8.6	10.3
80	葛城病院	泉州	標準	急性期1	153	63%	3,239	10.0	12.0
81	阪南市民病院	泉州	標準	急性期1	143	77%	3,236	11.2	11.2
82	なにわ生野病院	大阪市	標準	急性期1	173	100%	3,200	13.0	10.7
83	阪和記念病院	大阪市	標準	急性期4	157	33%	3,188	8.4	9.1
84	富永病院	大阪市	標準	急性期1	224	73%	3,134	11.2	17.0
85	医真会八尾総合病院	中河内	標準	急性期4	201	83%	3,065	13.7	11.9
86	河内総合病院	中河内	標準	急性期1	309	88%	3,046	16.1	13.9
87	愛染橋病院	大阪市	標準	急性期4	208	84%	2,876	8.6	11.3
88	育和会記念病院	大阪市	標準	急性期1	218	82%	2,794	14.2	12.9
89	市立柏原病院	中河内	標準	急性期1	153	70%	2,582	9.8	10.4
90	みどりヶ丘病院	三島	標準	急性期1	185	59%	2,517	12.0	10.2
91	佐藤病院	北河内	標準	急性期1	120	68%	2,444	12.1	10.6
92	交野病院	北河内	標準	急性期1	138	66%	2,438	12.1	12.7
93	萱島生野病院	北河内	標準	急性期1	140	100%	2,414	13.5	11.2
94	森之宮病院	大阪市	標準	急性期1	159	45%	2,383	12.0	13.4
95	泉大津市立病院	泉州	標準	急性期1	160	91%	2,365	8.5	10.4
96	浅香山病院	堺市	標準	急性期1	134	15%	2,200	11.3	10.5
97	大阪市立十三市民病院	大阪市	標準	急性期1	224	85%	2,200	10.0	10.9
98	加納総合病院	大阪市	標準	急性期1	151	50%	1,972	12.2	11.4
99	一祐会 藤本病院	北河内	標準	急性期4	100	68%	1,954	10.3	11.8
100	寝屋川生野病院	北河内	標準	急性期1	103	100%	1,941	14.2	11.0

大阪府 | DPC対象病院における平均在院日数（DPC患者数の多い順）⑤

No.	医療機関名	医療圏	医療機関群	入院基本料	DPC算定 病床数	DPC算定 病床割合	DPC患者数	平均在院日数 (日)	全国の疾患構成に 補正した場合 (日)
101	小阪産病院	中河内	標準	急性期1	60	100%	1,870	4.8	4.9
102	大阪掖済会病院	大阪市	標準	急性期1	135	100%	1,749	10.1	10.9
103	大野記念病院	大阪市	標準	急性期1	177	71%	1,740	14.5	13.3
104	東大阪病院	大阪市	標準	急性期1	112	44%	1,706	14.0	14.4
105	行岡病院	大阪市	標準	急性期1	184	53%	1,680	12.7	14.6
106	阪南中央病院	南河内	標準	急性期1	102	51%	1,539	7.8	9.3
107	山本第三病院	大阪市	標準	急性期4	203	65%	1,516	14.0	13.3
108	永山病院	泉州	標準	急性期1	104	45%	1,503	11.8	12.0
109	寺元記念病院	南河内	標準	急性期1	120	75%	1,414	11.5	10.9
110	友愛会病院	大阪市	標準	急性期1	128	75%	1,382	16.0	13.6
111	吉田病院	北河内	標準	急性期4	58	100%	1,380	11.4	11.2
112	明治橋病院	南河内	標準	急性期4	120	77%	1,259	16.1	14.3
113	城東中央病院	大阪市	標準	急性期1	233	100%	1,213	18.2	14.3
114	上山病院	北河内	標準	急性期4	114	60%	1,207	17.1	15.2
115	巽病院	豊能	標準	急性期2	75	100%	1,155	14.6	12.8
116	大阪脳神経外科病院	豊能	標準	急性期1	90	74%	1,119	13.7	12.3
117	佐野記念病院	泉州	標準	急性期1	53	56%	1,110	8.7	8.2
118	井上病院	豊能	標準	急性期4	94	74%	927	14.8	12.1
119	運動器ケア しまだ病院	南河内	標準	急性期1	43	49%	906	9.0	11.4
120	矢木脳神経外科病院	大阪市	標準	急性期2	73	79%	859	16.5	14.0
121	高石藤井病院	泉州	標準	急性期2	58	36%	757	11.7	11.0
122	藍の都脳神経外科病院	大阪市	標準	急性期1	41	51%	629	9.0	8.4
123	河崎病院	泉州	標準	急性期4	47	36%	621	11.2	10.7
124	咲花病院	泉州	標準	急性期1	50	53%	615	12.2	12.4
125	堺咲花病院	堺市	標準	急性期2	100	46%	610	10.5	10.8

大阪府 | DPC対象病院における平均在院日数（DPC患者数の多い順）⑥

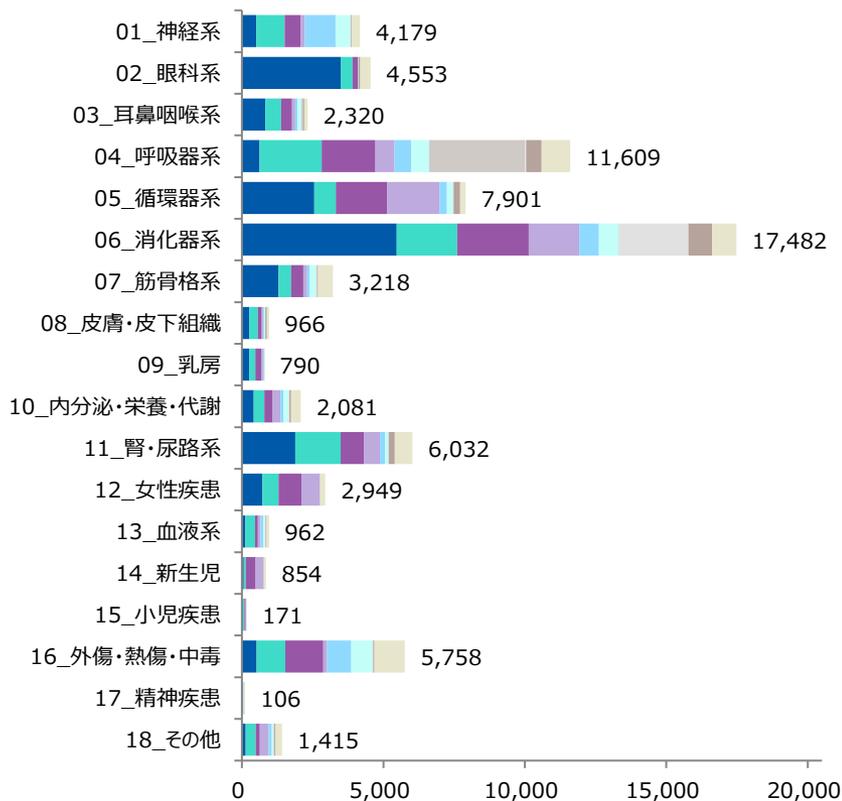
No.	医療機関名	医療圏	医療機関群	入院基本料	DPC算定 病床数	DPC算定 病床割合	DPC患者数	平均在院日数 (日)	全国の疾患構成に 補正した場合 (日)
126	村田病院	大阪市	標準	急性期1	40	57%	605	16.1	13.4
127	牧病院	大阪市	標準	急性期3	40	53%	473	13.4	13.5
128	阪堺病院	堺市	標準	急性期1	52	37%	453	9.0	13.5
129	さくら会病院	南河内	標準	急性期1	43	29%	441	11.0	11.4
130	かわい病院	泉州	標準	急性期4	32	70%	263	18.1	26.7

堺市医療圏 | MDC別退院患者数および医療機関シェア

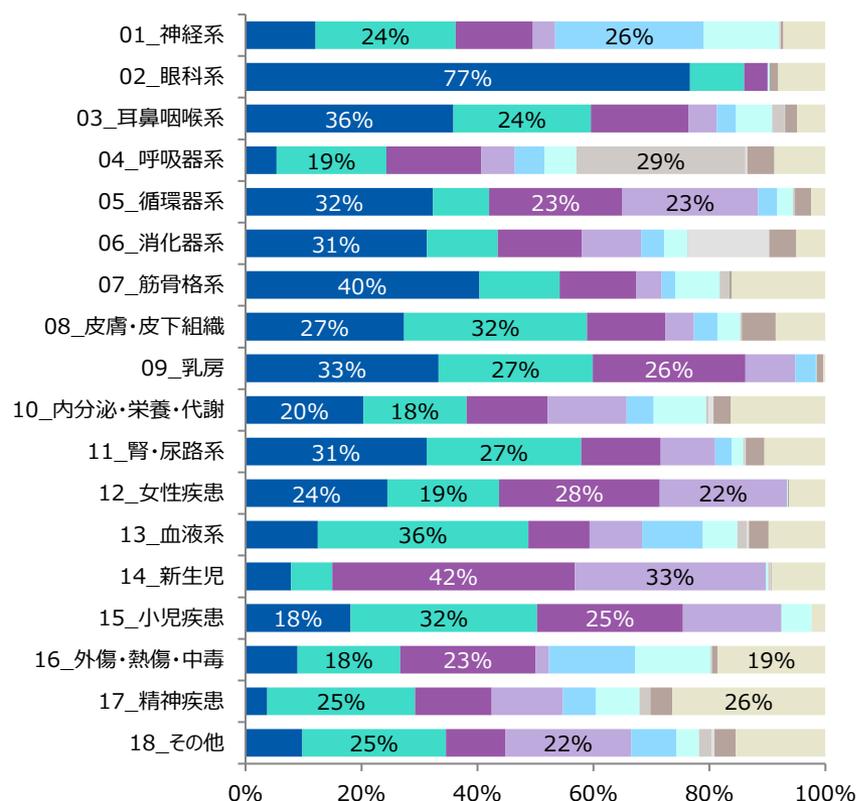
医療圏内の医療機関の疾患別推定シェアを示しています。

疾患ごとの役割分担の状況を確認できます。

MDC別退院患者数



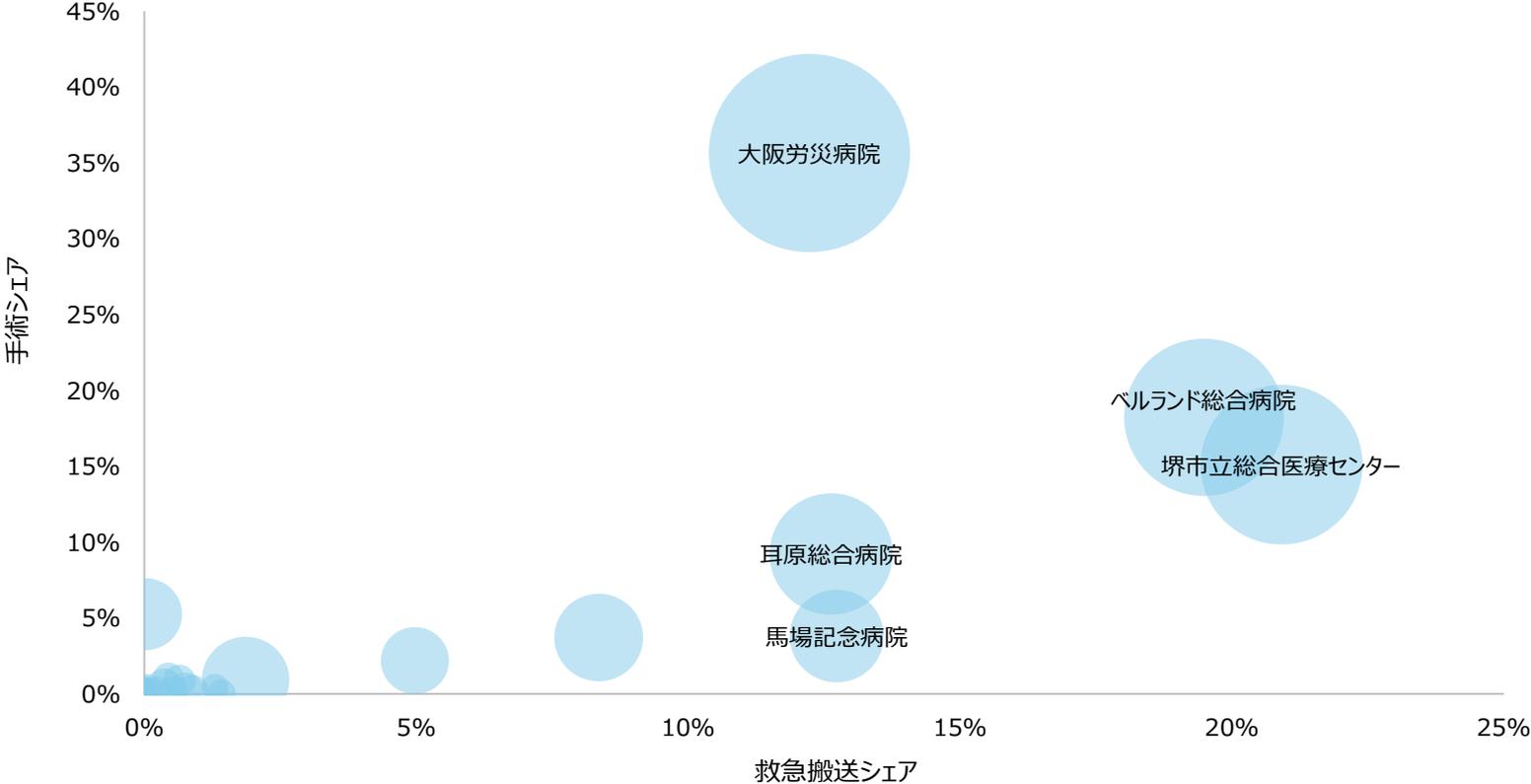
MDC別医療機関シェア



■ 大阪労災病院
 ■ 堺市立総合医療センター
 ■ ベルランド総合病院
 ■ 耳原総合病院
 ■ 馬場記念病院
■ 清恵会病院
 ■ N H O近畿中央呼吸器センター
 ■ 鳳胃腸病院
 ■ 浅香山病院
 ■ その他

堺市医療圏 | DPC退院患者の手術シェア×救急搬送シェア

医療圏内の医療機関の救急搬送シェアと手術シェアをプロットしており、地域内の急性期病院としてのポジショニングを可視化しています。

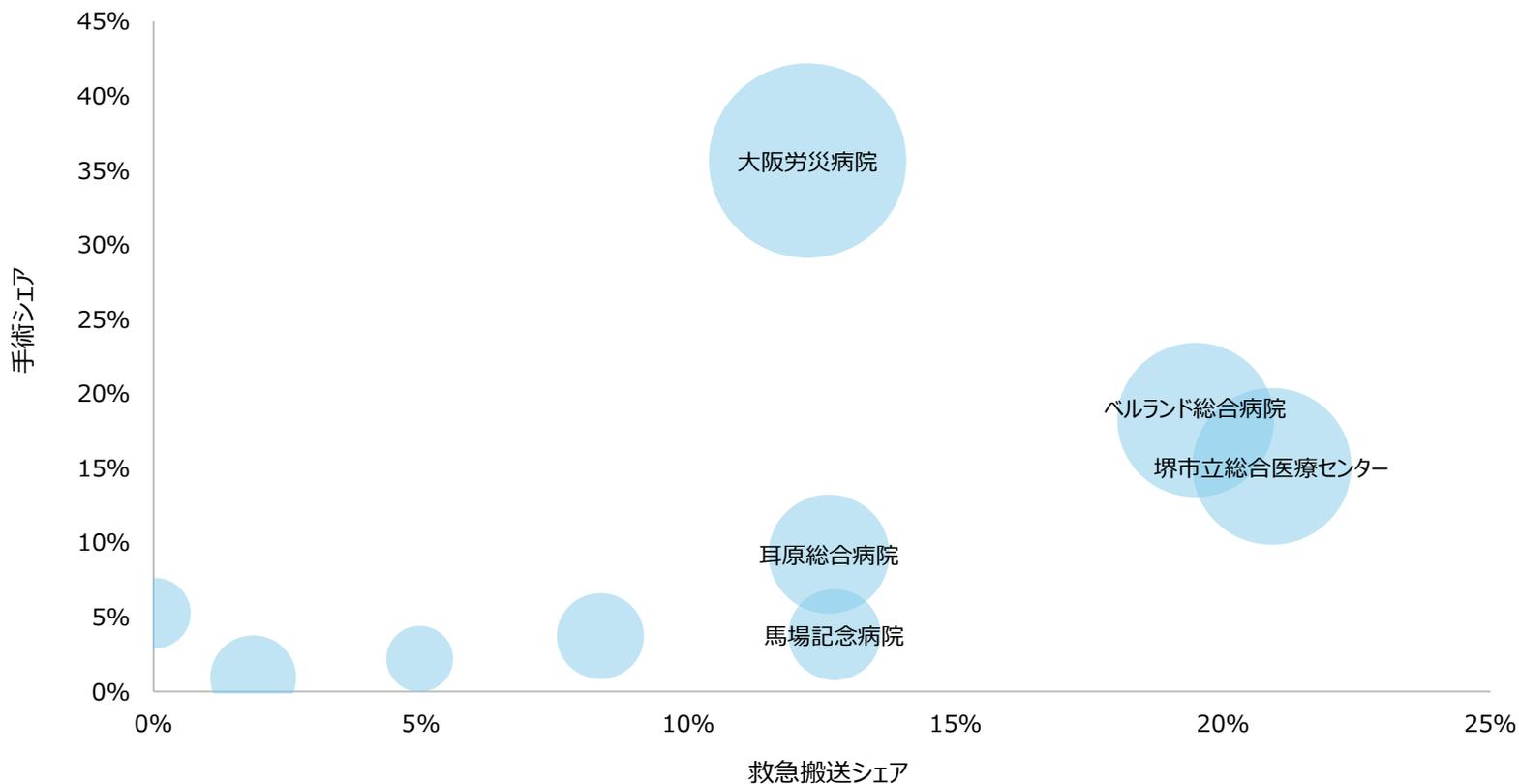


救急搬送シェア	医療圏内の病院における各病院の患者受け入れ割合
手術シェア	医療圏内の病院における各病院の手術実施件数割合
バブルの大きさ	退院患者数

出典：「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」（厚生労働省）

DPC退院患者の手術シェア×救急搬送シェア(退院患者数1000人以上の病院)

前項のグラフのうち、退院患者数が1,000人／年以上の病院のみを抜粋しています。

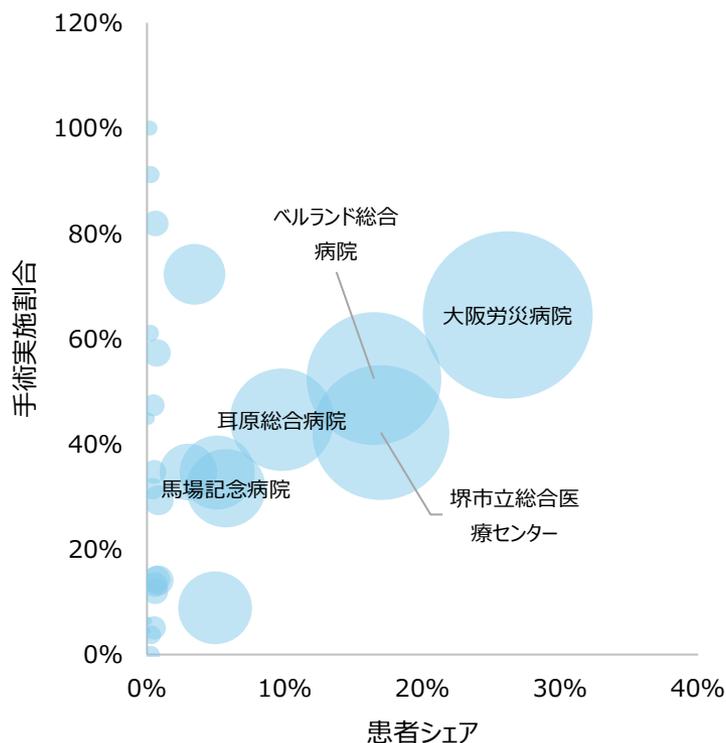


救急搬送シェア	医療圏内の病院における各病院の患者受け入れ割合
手術シェア	医療圏内の病院における各病院の手術実施件数割合
バブルの大きさ	退院患者数

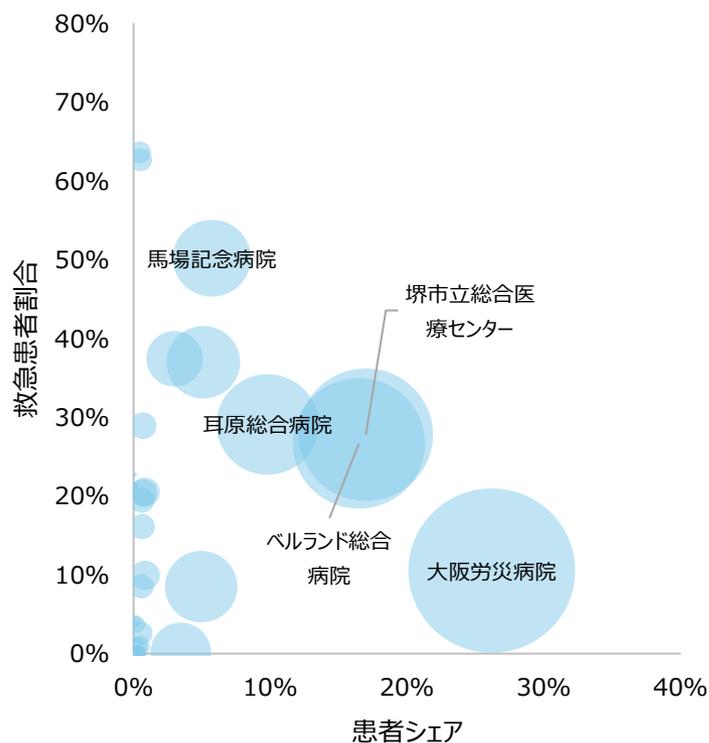
堺市医療圏 | DPC退院患者の手術・救急患者割合×患者シェア

医療圏内の医療機関の手術実施割合と救急患者割合、地域内の患者シェアをプロットしています。

手術実施割合×患者シェア



救急患者割合×患者シェア

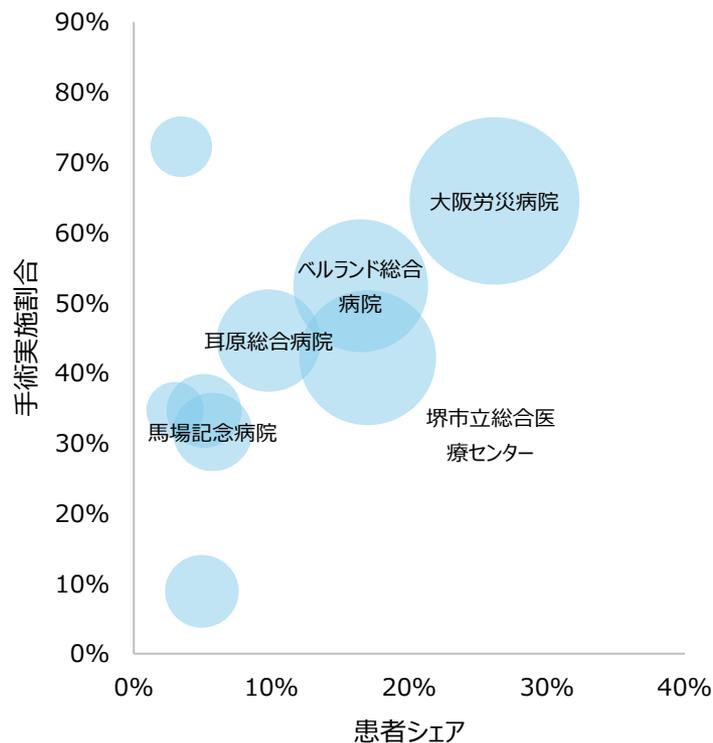


手術実施割合	院内の退院患者に占める手術の実施割合
救急患者割合	院内の退院患者に占める救急搬送患者の割合
患者シェア	医療圏内の病院における、各病院の退院患者数割合
バブルの大きさ	退院患者数

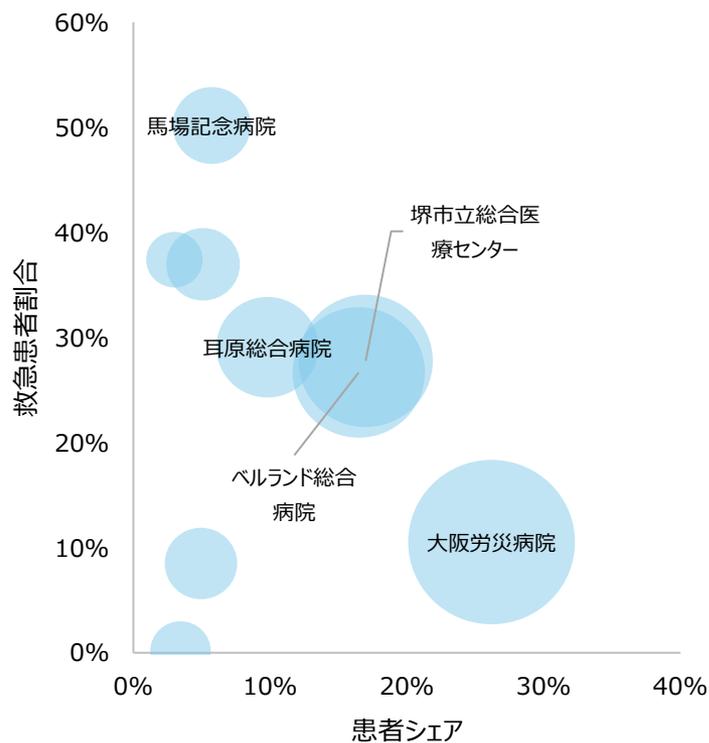
DPC退院患者の手術・救急患者割合×患者シェア（退院患者数1000人以上の病院）

前項のグラフのうち、退院患者数が1,000人／年以上の病院のみを抜粋しています。

手術実施割合×患者シェア



救急患者割合×患者シェア



手術実施割合	院内の退院患者に占める手術の実施割合
救急患者割合	院内の退院患者に占める救急搬送患者の割合
患者シェア	医療圏内の病院における、各病院の退院患者数割合
バブルの大きさ	退院患者数

— 二次医療圏でみる地域医療の構造 —

医療需給総覧

version

1.0

- 本資料は各ページ下部に記載している機関の公表データを用いて、株式会社日本経営が作成した資料です。
- 本資料に提供されている内容は万全を期しておりますが、入手し得る資料および情報に基づいて作成したものであり、その内容の正確性や安全性を保証するものではありません。
- 本資料の使用は自己判断で行っていただくものとし、万一、貴社・貴法人が損害等を被った場合において、弊社は一切の責任を負いかねます。
- 本資料は、行政・医療機関等における検討・意思決定の目的を含め、転載・引用・配布いただけます（事前連絡不要）。ただし、転載・引用・配布の際は、転載先に本資料名および株式会社日本経営を出典として必ずご明記ください。なお、有償・無償を問わず、本資料の全部または一部を頒布・提供する行為は禁止します。
記載例「出典元：医療需給総覧 ○○県△△医療圏（株式会社日本経営）」